

官報

號外

昭和六年二月二十五日

第五十九回 帝國議會 衆議院議事速記録第十八號

昭和六年二月二十四日(火曜日)
午後一時十七分開議

議事日程 第十七號

昭和六年二月二十四日

午後一時開議

質問

- 一 農漁山村政策ニ關スル質問 (土井權大君提出)
- 二 滿洲殊ニ間島ニ關スル質問 (宮川一貫君提出)
- 三 思想問題ニ關スル質問 (川口義久君提出)
- 四 蠶絲業ニ關スル質問 (加藤知正君提出)
- 五 内務司法兩大臣ニ對スル選舉取締及綱紀肅正ニ關スル質問 (名川侃市君提出)
- 六 北海道拓殖問題並漁業問題ニ關スル質問 (板谷順助君提出)
- 七 河野通治贈位奏請ニ關スル質問 (武知勇記君提出)
- 八 地方財政ニ關スル質問 (船田中君提出)
- 九 東京市對佛國訴訟事件ニ關スル質問 (木田義成君提出)
- 十 愛知縣油ヶ淵惡水路開鑿ニ關スル質問 (丹下茂十郎君提出)
- 第一 國立公園法案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 勞働組合法案(政府提出)

第四 勞働爭議調停法中改正法律案(政府提出)

第五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第六 無盡業法改正法律案(政府提出)

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第八 地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

第九 鑛業法中改正法律案(大里廣次郎君外三十七名提出)

第十 鑛業法中改正法律案(坂井大輔君外二名提出)

第十一 辯護士法中改正法律案(北浦圭太郎君外三名提出)

第十二 違警罪即決例中改正法律案(一松定吉君外三名提出)

第十三 行政執行法中改正法律案(一松定吉君外三名提出)

第十四 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案(末松借一郎君外四名提出)

第十五 鑛業法中改正法律案(丹下茂十郎君外一名提出)

第十六 度量衡法中改正法律案(一松定吉君提出)

第十七 計畫士法案(一松定吉君提出) 第一讀會

第十八 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(長尾半平君外二十四名提出) 第一讀會

第十九 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出) 第一讀會

第二十 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外四名提出) 第一讀會

第二十一 利息制限法中改正法律案(一松定吉君外四名提出) 第一讀會

第二十二 利息制限法中改正法律案(原夫次郎君外三名提出) 第一讀會

第二十三 民事訴訟法中改正法律案(村岡吾二君外三名提出) 第一讀會

第二十四 航空法中改正法律案(永田良吉君提出) 第一讀會

第二十五 河川法中改正法律案(山根儀重君外五名提出) 第一讀會

第二十六 借地借家調停法中改正法律案(小久江美代吉君提出) 第一讀會

第二十七 借家法中改正法律案(小久江美代吉君外二名提出) 第一讀會

第二十八 六大都市ニ關スル法律案(森田茂君外十八名提出) 第一讀會

第二十九 產業組合中央金庫法中改正法律案(山谷義治君外十四名提出) 第一讀會

第三十 癘兵優遇ニ關スル法律案(一松定吉君外一名提出) 第一讀會

第三十一 司法代書人法中改正法律案(斯波貞吉君外一名提出) 第一讀會

第三十二 農會法中改正法律案(牛場清次郎君外三名提出) 第一讀會

第三十三 耕地整理法中改正法律案(牛場清次郎君外三名提出) 第一讀會

第三十四 酒造稅法中改正法律案(古島義英君外一名提出) 第一讀會

第三十五 道路維持修繕費損傷者負擔法案(原原彦三郎君提出) 第一讀會

第三十六 穀類搗製粉取締法案(大竹貫一君外四名提出) 第一讀會

○議長(藤澤幾之輔君) 殿下御台臨アラセラレマシタカラ

〔秩父宮殿下台臨 貴賓席ニテ傍聽アラセラルルニ付議長及總員起立敬禮、著席ス〕

○議長(藤澤幾之輔君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

勞働組合法案

勞働爭議調停法中改正法律案

無盡業法改正法律案

(以上二月二十一日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

大正十五年法律第五十二號中改正法律案

(土地區劃整理ニ伴フ清算金等ニ關スル件)

提出者

安藤 正純君 立川 太郎君

本田 義成君 犬養 健君

鳩山 一郎君 中島 守利君

牧野 賤男君 前田 米藏君

津雲 國利君 坂本 一角君

野方 次郎君 川口 義久君

鈴木 英雄君 胎中楠右衛門君

深澤豐太郎君 川島正次郎君

大崎 清作君 船田 中君

土倉 宗明君 大野 伴陸君

岡田 忠彦君 戸井 嘉作君

古島宮次郎君 眞鍋 儀十君

岡崎久次郎君 赤塚 五郎君

土屋清三郎君 三宅 馨君

小久江美代吉君 遠藤 千元君

田川大吉郎君 松谷與二郎君

片山 哲君 小俣 政一君

櫻内 辰郎君 高橋 秀臣君

中村 龍男君 斯波 貞吉君

佐藤 正君

明治三十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

震災ニ因ル土地區劃整理施行地區内ノ假建築著手期限變更ニ關スル法律案

提出者

戸井 嘉作君 古島宮次郎君
 眞鍋 儀十君 岡崎久次郎君
 赤塚 五郎君 土屋清三郎君
 三宅 馨君 小久江美代吉君
 遠藤 千元君 田川大吉郎君
 松谷與二郎君 片山 哲君
 小俣 政一君 櫻内 辰郎君
 高橋 秀臣君 中村 繼男君
 斯波 貞吉君 佐藤 正君
 安藤 正純君 立川 太郎君
 本田 義成君 犬養 健君
 鳩山 一郎君 中島 守利君
 牧野 賤男君 前田 米藏君
 津雲 國利君 坂本 一角君
 野方 次郎君 川口 義久君
 鈴木 英雄君 深澤豐太郎君
 川島正次郎君 大崎 清作君
 船田 中君 土倉 宗明君
 大野 伴陸君 胎中楠右衛門君
 岡田 忠彦君 植原悅二郎君
 熊谷 直太郎君
 原 惣兵衛君
 我カ帝國國名ノ稱呼使用ニ關スル建議案
 提出者 原 夫次郎君 八並 武治君
 牧山 耕藏君 田 昌君
 小久江美代吉君 岸 衛君
 大宮小山間鐵道電化速成ニ關スル建議案
 提出者 栗原彦三郎君 加藤陸之介君
 定塚門次郎君 古島 義英君
 佐藤 正君 高橋 守平君
 野中 徹也君
 地頭方漁港修築ニ關スル建議案
 提出者 小久江美代吉君
 (以上二月二十一日提出)

國產木材使用ニ關スル建議案

提出者

岩本 武助君 東 武君
 青木 精一君 大田 正孝君
 東郷 實君 今井 健彦君
 出井 兵吉君 磯部 清吉君
 田子 一民君 土倉 宗明君
 藤井 達也君
 樺太森林ノ伐採及木材ノ移出制限ニ關スル建議案
 提出者 太田 正孝君 東 武君
 青木 精一君 東郷 實君
 今井 健彦君 出井 兵吉君
 磯部 清吉君 岩本 武助君
 土倉 宗明君 深澤豐太郎君
 國有林ノ伐採制限ニ關スル建議案
 提出者 岩本 武助君 今井 健彦君
 出井 兵吉君 磯部 清吉君
 東郷 實君 太田 正孝君
 青木 精一君 東 武君
 田子 一民君 土倉 宗明君
 藤井 達也君
 河川使用許可ニ關スル建議案
 提出者 磯部 清吉君 出井 兵吉君
 今井 健彦君 東郷 實君
 太田 正孝君 青木 精一君
 東 武君 岩本 武助君
 土倉 宗明君
 森林金融ニ關スル建議案
 提出者 青木 精一君 東 武君
 太田 正孝君 東郷 實君
 今井 健彦君 出井 兵吉君
 磯部 清吉君 岩本 武助君
 田子 一民君 大野 伴陸君
 土倉 宗明君 藤井 達也君

木材類ノ鐵道貨物運賃輕減ニ關スル建議案

提出者

東郷 實君 今井 健彦君
 出井 兵吉君 磯部 清吉君
 太田 正孝君 青木 精一君
 東 武君 岩本 武助君
 田子 一民君 土倉 宗明君
 深澤豐太郎君 藤井 達也君
 山村ノ課稅負擔輕減ニ關スル建議案
 提出者 出井 兵吉君 磯部 清吉君
 今井 健彦君 東郷 實君
 太田 正孝君 青木 精一君
 東 武君 岩本 武助君
 田子 一民君 大野 伴陸君
 土倉 宗明君 深澤豐太郎君
 藤井 達也君
 森林火災保險ニ關スル建議案
 提出者 今井 健彦君 出井 兵吉君
 磯部 清吉君 太田 正孝君
 東郷 實君 青木 精一君
 東 武君 岩本 武助君
 土倉 宗明君 藤井 達也君
 木材關稅引上改正ニ關スル建議案
 提出者 東 武君 青木 精一君
 太田 正孝君 東郷 實君
 今井 健彦君 出井 兵吉君
 磯部 清吉君 岩本 武助君
 田子 一民君 土倉 宗明君
 藤井 達也君
 (以上二月二十三日提出)
 京都市内貫通國有鐵道高架改築ニ關スル建議案
 提出者 鷺野米太郎君
 (以上二月二十四日提出)
 一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

國際紛争平和的處理ニ關スル質問主意書
提出者 田川大吉郎君
(以上二月二十一日提出)

一政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

衆議院議員土井權大君提出農漁山村政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員宮川一貫君提出滿洲殊ニ間島ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員川口義久君提出思想問題ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員加藤知正君提出蠶絲業ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員名川侃市君提出內務司法兩大臣ニ對スル選舉取締及綱紀肅正ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員板谷順助君提出北海道拓殖問題並漁業問題ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員武知勇記君提出河野通治贈位奏請ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員船田中君提出地方財政ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員本田義成君提出東京市對佛國訴訟事件ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 衆議院議員丹下茂十郎君提出愛知縣油ヶ淵惡水路開鑿ニ關スル質問ニ對スル答辯書
 (以上二月二十四日受領)

農漁山村政策ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和六年一月二十七日
提出者 土井 權大

農漁山村政策ニ關スル質問主意書
政府ノ農漁山村ニ對スル政策如何
右及質問候也
昭和六年二月二十四日
內閣總理大臣臨時代理
外務大臣 男爵幣原喜重郎
衆議院議長藤澤巖之輔殿

農漁山村政策ニ關スル質問主意書
政府ノ農漁山村ニ對スル政策如何
右及質問候也
昭和六年二月二十四日
內閣總理大臣臨時代理
外務大臣 男爵幣原喜重郎
衆議院議長藤澤巖之輔殿

昭和六年二月二十四日

內閣總理大臣臨時代理

外務大臣 男爵幣原喜重郎

衆議院議長藤澤巖之輔殿

衆議院議員土井權大君提出農漁山村政策ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員土井權大君提出農漁山村政策ニ關スル質問ニ對スル答辯書

政府ハ農山漁村政策トシテ常ニ農山漁村ノ經濟事情ヲ省察シ之カ振興ニ力ヲ致シ來レル所ナルガ最近一般經濟界不振ニ伴フ農山漁村ノ不況ニ際シテハ銳意之カ應急對策ヲ講ジツツアリ其ノ主ナル事項ヲ概述スレバ政府ハ中小商工農業者等ノ爲事業資金トシテ二千五百萬圓ノ低利資金ヲ融通シ更ニ失業救濟、産業振興ノ爲農山漁村ニ於テ適當ナル施設ヲ講スルノ急務ナルヲ認メ開墾及耕地ノ改良、林産物ノ運搬施設貯木場ノ建設、木炭倉庫ノ建設、桑園ノ改植、船溜船揚場ノ修築其ノ他漁業共同施設、牧野整備、畜産共同施設並ニ副業農業共同施設等事業遂行ノ結果方直ニ收益ヲ齎シ地方産業ノ振興ニ資スル所大ナルモノニ對シ低利資金ヲ融通シテ事業ノ促進ヲ圖ルガ爲低利資金七千萬圓ヲ供給スルコトトシ目下貸付中ナリ米價低落ノ應急策ニ付テハ米穀ノ買上、米及粳ノ輸入制限期間ノ延長、米及粳ノ輸入税引上ヲ爲シ三千万圓ノ低利資金ヲ融通シ以テ玄米及粳ノ貯藏ヲ獎勵スルト共ニ朝鮮ニ於ケル米及粳ノ貯藏獎勵、朝鮮米ノ月別平均内地移出等ニ依リ米穀政策ノ協調ヲ圖リ以テ米價調節ニ努メツツアリ

ノ安定、林政ノ改善、生産費ノ低下、米穀法ノ改正等トス
産業制度ノ整備ニ關シテハ産業團體ノ統制、農業保險制度、農林金融制度、農産物取引標準、水産振興ニ關スル諸制度等ノ諸問題ニ付昭和六年度ニ於テ農林審議會ヲ設置シ調査研究ヲ爲シ之ガ恆久的の方策ヲ樹立セントシ之ガ經費ヲ昭和六年度豫算ニ計上セリ
農村生活ノ安定ニ關シテハ自作農創設維持施設ノ外農村ニ於ケル小作事情ノ推移ニ鑑ミ農村生活ノ安定及農事ノ改良ヲ圖ルガ爲小作法案ヲ立案シ之ヲ今期議會ニ提出セントス
林政ノ改善ニ關シテハ昨年官民合同ノ林野整備調査會ヲ設ケ林野ノ整備ニ關スル方策ヲ審議シ之ガ實現ヲ期スルト共ニ森林保險制度等ニ付キテモ之ガ對策ヲ考究中ニ在リ
生産費ノ低下ニ關シテハ政府ハ糶ニ販賣肥料ノ産業組合ニ依リ配給改善策ヲ樹立シ之カ助成規則ヲ制定實施シ良質廉價ナル肥料ノ配給ヲ圓滑ナラシメ農家生産費ノ低減ヲ圖リツツアルガ更ニ自給肥料ノ施用獎勵、各種共同施設ノ利用増進等ニ努メントス
米穀法ノ改正ニ關シテハ之カ根本的調査ヲ遂ゲ確乎タル政策ヲ樹立スルノ要アルヲ認メ米穀調査會ニ諮問ノ結果米穀法發動ニ必要ナル米價基準、外米統制等重要事項ニ關スル答申ヲ得タルニ依リ之ニ基キ慎重攻究ノ上米穀法中改正法律案ヲ立案シ今期議會ニ提出セリ
以上ハ農山漁村ノ振興策トシテ政府ノ施設セントスル主ナル事項ナルガ農山漁村ノ振興ハ獨リ政府ノ施設ノミヲ以テ能ク其ノ目的ヲ達成シ得ザルハ固ヨリ言フ俟タザル所ニシテ農山漁村ノ自覺自奮ニ依リ之カ經濟ノ向上充實ヲ策スルヲ根本義トセザル可カラス之ガ爲農山漁村自ラモ

亦政府ノ諸施設ト相俟テ極力其ノ餘剩勞力ノ生産化、各種共同施設ノ利用増進、生産物ノ配給方法ノ改善等ヲ圖リ以テ其ノ産業經濟ノ合理化及充實ニ力ヲ致スノ要アリト信ス
右及答辯候也
昭和六年二月二十四日
農林大臣 町田 忠治

滿洲殊ニ關島ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和六年一月三十日
提出者 宮川 一貫

滿洲殊ニ關島ニ關スル質問主意書
開島ニ於ケル朝鮮人ノ生活ノ脅威ト生命財產ノ不安ハ我カ國對支政策對滿蒙政策殊ニ朝鮮統治上重大ナル關係ヲ有ス政府ノ之ニ關スル政策如何
右及質問候也
題旨辯明後口頭ニテ答辯セラレムコトヲ望ム
昭和六年二月二十四日
內閣總理大臣臨時代理
外務大臣 男爵幣原喜重郎
衆議院議長藤澤幾之輔殿
衆議院議員宮川一貫君提出滿洲殊ニ關島ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕
衆議院議員宮川一貫君提出滿洲殊ニ關島ニ關スル質問ニ對スル答辯書
開島地方ニ居住スル朝鮮人ハ約四十萬人即全人口ノ約八割ヲ占ムル實情ニシテ其ノ休戚ニ就テハ十分考慮ヲ拂ヒツツアルトコナリ
帝國ガ開島ニ關シテ庶幾スル所ハ結局同地方ヲ治安ヲ保持シテ朝鮮統治ニ對スル禍因ヲ去リ在リ而シテ同地方ヲ治安維持ハ結局民國官憲ノ責任ニ歸スベキ所ナルニ不拘近來同地方ガ民族主義又ハ共產主義的不逞鮮人ノ巢窟トナリ內鮮人ノ居住

營業ニ脅威ヲ與フルニ至リ而モ取締ノ實舉カラザルハ畢竟民國官憲ニ於テ同地方ニ對スル我方ノ意向ニ付誤解アリシガ爲ニシテ之ニ對シ我ガ警備力ノ一大増勢ヲ行フガ如キハ益々民國側ノ誤解ヲ深カラシメ或ハ兩國官憲ノ間ニ不慮ノ衝突起ラザルヲ保セス其ノ間ニ生スベキ間隙ハ匪賊ノ乘スル好箇ノ機會トナルベク右ハ現地ニ於ケル我居留民ノ保護ノ實ヲ舉グル上ヨリスルモ將又對支外交ノ全般ヨリ見ルモ採ラザル所ナリ依テ政府トシテハ及フ限リ居留民保護ノ警備ヲ嚴ニスルト共ニ民國側ニ對シ開島ニ對スル帝國ノ重大ナル關心トヲ充分徹底セシメ我方ニ對スル無用ノ誤解ヲ捨テ其ノ軍警ノ組織及素質ヲ充實改善シ我方ト克ク連絡協調シテ治安保持ノ實績ヲ擧ゲシムル様交渉ヲ重ヌルコトヲ刻下緊要ノ方策ナリト認メ右方針ノ下ニ出先官憲ヲシテ善處セシメツツアリ

尙朝鮮ニ於テモ事件發生當時ノ報道誇大ニ傳ハリタルヲ以テ朝鮮ノ民心ニ相當ノ衝動ヲ與ヘ開島在留朝鮮人ハ勿論朝鮮内一般ニ在留朝鮮人ノ保護ノ程度薄シトノ聲ヲ發スルモノ多キ状態ニ在リタリ然ルニ開島ノ實狀モ次第二判明シ且治安モ漸次回復シツ、アルヲ以テ此ノ上民心ノ動搖ヲ見ルコトナルベシト思料スルモ當局トシテハ今後共其ノ歸趨ニ十分ノ注意ヲ拂ヒツ、アリ
右及答辯候也
昭和六年二月二十四日
外務大臣 男爵幣原喜重郎
拓務大臣 松田 源治

思想問題ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和六年一月三十一日
提出者 川口 義久

思想問題ニ關スル質問主意書

一 近年我が國ニ於ケル勞働爭議並小作
爭議ノ著シク其ノ數ヲ増加シタルハ產
業ノ破綻ニ基ク國民經濟ノ極端ナル疲
弊ニ因ルコト勿論ナレトモ其ノ爭議ノ
方法ニ付甚シク激化セル傾向アルハ定
ニ憂慮ニ堪ヘス而シテ其ノ惡化セル主
ナル理由ハ爭議團ノ背後ニ非合法團體
タル「全協」ノ如キモノアリテ之ヲ指導
援助スル爲メトリト認ム之ニ對スル政府
ノ方策如何

二 昨年來全國大學專門學校高等學校等
ニ於ケル同盟休校及騷擾等ノ起リタル
數ハ約三十校ノ多キニ上リ眞ニ國家將
來ノ爲深憂ニ堪ヘス而シテ其ノ原因ニ
付テハ種種アレトモ盟休ナル手段ヲ用
ユルハ恰モ勞働者ノ資本家ニ對スル
「ストライキ」ニ等シ學園ハ教育ノ府ニ
シテ固ヨリ勞資兩者ノ如キ關係ニ非ス
隨テ團結ノ力ニ依ル對立ヲ許スヘカラ
サルナリ政府ハ學生生徒ノ團結ニ依ル
對立ヲ認ムルヤ其ノ所見如何

三 學校ニ於ケル同盟休校騷擾等ノ背後
ニ共產主義者ノ策動セル場合頗ル多キ
ヲ認ム之ニ對スル政府ノ所見並對策如
何
四 大學内ニ於ケル學生ノ學問讀書研究
ノ自由ノ範圍ニ關スル政府ノ所見如何
五 專門學校ニ於ケル生徒ノ學問讀書研
究ノ自由ノ範圍ニ關スル政府ノ所見如
何
六 高等學校ニ於ケル生徒ノ學問讀書研
究ノ自由ノ範圍ニ關スル政府ノ所見如
何

七 學園内ニ於ケル警察權行使ニ關スル
政府ノ所見如何
八 共產黨事件ニ關シ官學ヨリ多クノ關
係者ヲ出シタコトニ對シ當該學校當局
ノ責任ニ付政府ノ所見如何
九 我カ國智識階級ニ於ケル左傾思想ノ

傳播ハ主トシテ其ノ端ヲ東京帝大新人
會ニ發シタルモノト信ス之ニ對スル政
府ノ所見並今後ノ對策如何
十 共產主義運動ニ對シ徹底の取締ヲ爲
ス意思ナキヤ又有トスレハ其ノ方法如
何

十一 明治初年以來我が國ノ教育ハ泰西
文化ヲ輸入スルコトニ急ナリシ爲物質
文明ノ教育ニ偏シ精神文化ノ教育ヲ閑
却セルノ憾アリ之ニ對スル政府ノ所見
並對策如何
十二 政治カ一部金融資本家ノ利益偏重
ニ墮シ中産階級以下ノ利益ヲ無視スル
トキハ其ノ結果貧富ノ懸隔ヲ益大ナラ
シメ延テ經濟の階級觀念ヲ強メ左傾思
想ヲ懷抱スル者ヲ多カラシムル最大ナ
ル原因ナリト信ス政府ノ所見如何
右及質問候也
口頭ヲ以テ明確ナル答辯ヲ乞フ

昭和六年二月二十四日

內閣總理大臣臨時代理

外務大臣 男爵幣原喜重郎

衆議院議長藤澤淺之輔殿

衆議院議員川口義久君提出思想問題ニ關
スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員川口義久君提出思想問題ニ
關スル質問ニ對スル答辯書

一 爭議ノ背後ニ「全協」一派ノ策動スル
コトハ爭議ノ非合法化シ憂慮スベキ事
態ヲ惹起スル虞尠カラザルヲ以テ從來

「全協」一派ノ策動ニ對シテハ徹底のニ
取締ヲ勵行シツツアリ從テ今日勞働爭
議並ニ小作爭議等ノ紛糾スル主タル原
因ガ「全協」一派ノ指導援助ニヨルモノ
ナリトハ必ズシモ認メ難キ所ナルモ

「全協」一派ハ共產黨ノ外廓運動ト認メ
ラルベキモノナルヲ以テ平素周密ナル
査察内偵ヲ勵行シ徹底の取締方針ノ下
ニ之等極左分子ノ檢舉ニ努メツツアリ

二 近來大學高等專門學校等ニ於テ同盟
休校紛擾事件等ノ惹起セラルルコト多キ
ハ眞ニ遺憾トスル處ナリ而シテ學校ハ師
弟ノ關係ヲ基トシテ立ツ教養ノ道場ナ
ルヲ以テ學校ト學生生徒トハ勞資兩者
ノ如ク對立關係ニ立ツベカラザルハ固
ヨリ言フ俟タズ從テ學生生徒ガ團結シ
テ學校ニ對立抗争シ集團ノ力ヲ以テ其
ノ要求事項ヲ強請スルガ如キハ固ヨリ
之ヲ認ムベカラザルコト勿論ナリ

三 學校ニ於ケル同盟休校騷擾等ノ背後
ニ共產主義者ノ策動アル場合多キハ事
實ナリ政府ハ斯ノ如キ主義者ノ策動ニ
ツキテハ極力之ニ注意ヲ加ヘ之ヲ排除
スルニ努ムルト同時ニ學生生徒ヲ指導
訓育シテ斯ノ如キ策動ニ動カサレザル
様盡力シツツアリ
四 大學ニ於ケル學問、讀書、研究ハ大
體ニ於テ其ノ自由ニ委スルモ事實研究
ノ範圍ヲ超テ大學令ノ本旨ニ反スルガ
如キモノニ付テハ嚴重ニ之ヲ取締ル方
針ナリ

五 六、專門學校、高等學校等ノ生徒ハ
大學生ト異ナリ其ノ年齢少ク教養ノ程
度尙未ダ充分ナラザルヲ以テ其學問讀
書研究ニ付テモ學校ノ指導監督ノ下ニ
之ヲ行ハシムルヲ適當ナリト思考ス
七 學園内ハ可成學校ノ自治ニ委スルコ
トヲ希望スレドモ暴行、脅迫其他不法
ノ策動ノ行ハル等ノ事實アル場合ニ
於テハ警察權ノ行使ヲ見ルコトモ亦已
ムヲ得ズト思考ス

八 共產黨事件ニ關シ官立學校等ヨリモ
關係者ヲ出シタルコトニツキテハ眞ニ
遺憾トスル處ナリ當該學校當局ノ責任
ニツキテハヨク事件ノ實狀性質等ヲ考
慮シ夫々適當ナル措置ヲ講ジツツアリ
九 東京帝國大學ノ新人會ガ思想的ニ種
種ナル策動ヲ試ミタルハ事實ナレドモ
同會ガ斯ノ如キ運動ヲナスニ至リタル

コトハ畢竟社會一部ノ詭激ナル風潮ニ
動カサレタルニ依ルモノナリト思料ス
而シテ政府ハ三・一五事件ニ鑑ミテ東
京帝國大學新人會ヲ解散セシメタリ
十 共產主義運動ニ對シテハ徹底の取締
ヲ爲ス方針ヲ以テ臨ミ居レリ從テ日本
共產黨員及日本共產青年同盟員ハ勿論
尙之ガ外廓トシテ黨及同盟ノ擴大強
化ヲ圖ラントスル者等ニ對シテモ假借ス
ル所ナク嚴重ナル取締ヲ勵行シツツア
リ而シテ彼等ノ行動ハ潛行的巧緻深刻
ナルモノアルヲ以テ其ノ取締ニ就テハ
各廳府縣ヲ督勵シ思想警察事務ニ堪能
ナル警察官等ヲシテ常ニ彼等ノ行動ニ
對シ綿密ナル査察内偵ヲ加ヘシメ其ノ
苟モ治安維持法違反ノ事實明カナルモ
ノニ對シテハ徹底の檢舉ヲ行ヒ以テ之
ガ殲滅ヲ期シツツアリ

十一 物質文明ノ弊害ハ速カニ之ヲ一掃
スルコト緊要ナリト思ハルルガ故ニ政
府ハ教育制度ノ内容ヲ改善シ銳意精神
文化ノ作振ニ努力シツツアリ
十二 貧富ノ懸隔ヲ大ナラシメ延イテ左
傾思想ヲ懷抱スル者ヲ生ゼシムルハ固
ヨリ憂フベキコトナルヲ以テ政府ハ常
ニ如斯コトナカラシムル様努メツツア
ル所ニシテ一部金融資本家ノ利益偏重
ニ墮シ中産階級以下ノ利益ヲ無視スル
ガ如キコトナシ

右及答辯候也
昭和六年二月二十四日
內務大臣 安達 謙藏
文部大臣 田中 隆三

蠶絲業ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和六年一月三十一日
提出者 加藤 知正

蠶絲業ニ關スル質問主意書
我カ邦ノ蠶絲業ハ開港以來極メテ順調ノ
發達ヲ爲シタルカ昭和五年ニ至リ俄ニ

大頓挫ヲ爲シ今ヤ全ク危機ニ瀕セルノ状態ニ在リ現政府ハ其ノ主因ヲ世界の不況ニ歸スルト雖無謀ナル金解禁ト絲價安定融資補償法ノ運用其ノ宜シキヲ得サリシカ爲ナリト信ス政府ノ所見果シテ如何右及質問候也

昭和六年二月二十四日

内閣總理大臣臨時代理 外務大臣 男爵幣原喜重郎

衆議院議長長藤澤幾之輔殿

衆議院議員加藤知正君提出ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員加藤知正君提出ニ關スル質問ニ對スル答辯書

昭和五年初期ニ於テ絲價方異常ナル低落ヲ爲セルハ主トシテ豫想外ニ深刻ニ襲來セル世界の不景氣ノ影響ニ因ルモノニシテ金解禁ニ因ルモノニ非ズ又絲價安定融資補償法ノ運用ハ其ノ影響ヲ緩和スル上ニ於テ相當效果コソアリタレ惡影響ヲ與ヘタルモノトハ認メ難シ

昭和六年二月二十四日

農林大臣 町田 忠治

内務司法兩大臣ニ對スル選舉取締及綱紀肅正ニ關スル質問主意書

昭和六年二月二日

提出者 名川 侃市

内務司法兩大臣ニ對スル選舉取締及綱紀肅正ニ關スル質問主意書

昭和六年二月二十四日

内閣總理大臣臨時代理 外務大臣 男爵幣原喜重郎

衆議院議長長藤澤幾之輔殿

衆議院議員板谷順助君提出北海道拓殖問題並漁業問題ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

昭和六年二月二十四日

衆議院議員板谷順助君提出北海道拓殖問題並漁業問題ニ關スル質問ニ對スル答辯書

衆議院議長長藤澤幾之輔殿

衆議院議長長藤澤幾之輔殿

衆議院議員名川侃市君提出内務司法兩大臣ニ對スル選舉取締及綱紀肅正ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員名川侃市君提出内務司法兩大臣ニ對スル選舉取締及綱紀肅正ニ關スル質問ニ對スル答辯書

内務大臣ハ官制ノ定ムルトコロニ從ヒ行政警察ノ中央官廳トシテ警衛ニ關シ監督ノ責任ヲ有シ司法大臣ハ裁判所構成法及官制ノ定ムルトコロニ從ヒ犯罪捜査ニ關シ指揮監督ノ責任ヲ有ス

右及答辯候也

昭和六年二月二十四日

司法大臣 子爵渡邊 千冬

内務大臣 安達 謙藏

北海道拓殖問題並漁業問題ニ關スル質問主意書

提出者 板谷 順助

昭和六年二月二日

右成規ニ據リ提出候也

北海道拓殖問題並漁業問題ニ關スル質問主意書

提出者 板谷 順助

昭和六年二月二日

右成規ニ據リ提出候也

北海道拓殖問題並漁業問題ニ關スル質問主意書

提出者 武知 勇記

昭和六年二月三日

右成規ニ據リ提出候也

河野通治階位奏請ニ關スル質問主意書

北海道拓殖ニ付テハ政府ハ常ニ之ヲ進歩ヲ圖ルニ努メツアルモ比年財界不況ノ爲財源豫期ノ如クナルヲ得ズ事業遂行上遺憾ノ點アルヲ以テ之ガ對策ニ關シ目下調査研究中ニ在リ又同道ノ漁業ニ付テハ魚族ノ繁殖保護ニ努メ未發漁場ノ探檢開發ヲ圖リ從來ノ單一漁業ハ漸次之ガ複雑化ヲ期シ漁獲物ノ製造加工ヲ獎勵シテ其ノ利用ノ改善、價值ノ向上ニ力ヲ致シ漁村民ノ漁業經營ヲシテ有利且安固ナラシムルニ努メツアリ

昭和六年二月二十四日

内務大臣 安達 謙藏

農林大臣 町田 忠治

河野通治階位奏請ニ關スル質問主意書

提出者 武知 勇記

昭和六年二月三日

右成規ニ據リ提出候也

河野通治階位奏請ニ關スル質問主意書

ノミ止マラムヤ通治力郷關地タル愛媛縣ニ在リテハ其ノ奸賊ノ史實ニ通曉スル者多キモ此ノ追贈ニ依テ忠奸ノ別分明セサルコトナリ千古傳ハル貴重ナル郷土史料ニ疑ヲ抱キ容易ナラサル思想ノ動搖ヲ見ルニ至レリ茲ニ於テ武内作平氏ハ昭和四年三月二十二日衆議院豫算總會ノ席上田中内閣總理大臣ニ向テ位記追贈ノ奏請事由ヲ質問シ予モ亦昭和五年五月十日濱口内閣總理大臣ニ對シテ詳細ナル質問書ヲ提出シ階位奏請ニ關シテ世ノ疑惑ヲ一掃スルニ足ル精細的確ナル史料ノ公表ヲ要求シタルカ田中内閣モ濱口内閣モ相俱ニ神田本太平記ニ掲ケラレタル一片ノ氏名ニ論據ヲ置キテ階位ヲ至當ノモノト認メラレタルハ國家ノ爲子ノ頗ル遺憾トスル所ナリ即チ政府辯明ノ骨子トモ見ルヘキモノハ一河野通治ハ後醍醐天皇ノ御代備後守ニ任セラレ恒良親王ニ從ヒ越前金崎城ニ入り力戰奮闘數箇月ニ及ビ城中糧竭キ兵餓ニ延元二年三月六日手兵三十二人ト共ニ難ニ殉シタル忠臣ナリト謂フニアリ

日本ノ歴史ヲ通覽スルニ河野通治カ備後守ト名稱サレタルハ幾多ノ史料中只僅ニ神田本太平記ニ「河野備後守通治河野備中守通治」ト記載シタルノミニテ他ニハ其ノ氏名ヲスラ傳フルモノナシ之ニ反シテ河野(得能)通治カ備後守タルコトハ土居氏系圖河野氏系圖善行錄得能累世一覽其ノ他史の明證ノ存スル所ニシテ論議ノ餘地ヲ有セサルナリ然ルニ通治ヲ以テ敢テ備後守ニ擬セムトスル所以ノモノハ土居得能名稱考ニモアルカ如ク通治ハ後醍醐天皇ヨリ河野家ノ總領職ヲ命セラレシカ故ニ河野ノ總領備後守通治トシテ世ニ知ラレタルモ同時ニ足利氏ハ通治ニ對シテ總領職ヲ命シタルヨリ河野家ノ總領職ヲ聯想シテ備後守ハ通治ナリト誤信シ様テ加ヘテ神田本太平記ニ通治ナルヘキ備後

守ヲ通治トシ通増ナルヘキ備中守ヲ通網トシテ杜撰ニモ北國下向ノ忠臣土居備中守通増ヲ脱漏シタルカ爲所謂河野備後守通治ナル「ロボット」忠臣ノ出現ヲ見ルニ至リシナリ而モ善行録ニ「土居備中守得能備後守 皇太子恒良親王ニ供奉シテ北國ニ赴ク」トアリ流布本太平記ニ「備中守通増」トアリ其ノ他孰レノ史料ニ徴スルモ土居通増カ備中守タル史の證左ハ明ニシテ同時ニ河野通網カ神田本太平記ニ記スルカ如ク備中守ニ任セラレタル史の證左ハ如何ナル史料ニモ未ク發見シ得ルコト能ハス況ヤ明治十七年土居(河野)備中守通増得能(河野)備後守通網ハ北越奮戰ノ功ニ依リ正四位追贈ノ光榮ニ浴シタル事實アルニ於テオヤ

殊ニ河野通治カ金崎城ニ戰死シタリト謂フニ至テハ苟モ史學ニ通スル者ノ肯定シ能ハサル所ニシテ土居氏系圖ニ一例ヲ取ルモ
通網 元弘中吉野院御一統之時被惣領號河野備後守於越前金崎城討死家人三十餘人同死
トアリ更ニ政府カ唯一ノ辯明資料トスル神田本太平記卷十八金崎城落城ノ事ノ條ニ「河野備後守ハカラメテヨリ攻メ入りケル敵ヲ支ヘテ半時計リ戰ヒケルガ精カツキテ深手アマタ負ヒケレバセメロヲ一足モ引ノカズ三十二人腹ヲ切テ同枕ニゾフリタリケル」トアル唯河野備後守トノミアリテ通治トモ通網トモ記ササレトモ前掲ノ如ク明治十七年河野(得能)備後守通網カ正四位追贈ノ光榮ニ浴シタルハ此ノ金崎城ノ戰功ニ依ルモノナレハ政府ノ所謂「金崎城ニ手兵三十二人ト共ニ力戰シテ難ニ殉セシ」ハ通治ニ非ス通網ナルヘキハ今更詮議ノ餘地ヲ存セス又殊ニ晚年足利氏ノ厚遇ヲ受ケ伊豫國風早郡河野郷(現在ノ愛媛縣温泉郡河野村)ニ善應寺ヲ營ミ武家方ノ頭目トシテ其ノ與黨ニ

仰カレ正平十七年十一月二十六日眠ルカ如ク郷土ニ安樂往生ヲ遂ケタル河野通治カ延元二年三月六日河野通網ト共ニ金崎城内ニ忠死シタリト謂フニ至テハ寧ろ滑稽ニ近ク同名異人ノ忠奸ニ將同時ニ存在セリト謂ハサルヘカラス
之ヲ要スルニ河野備後守通網以外ニ政府ノ辯明スルカ如ク河野備後守通治ナル忠臣アリトスルモノハ唯神田本太平記ニ見ルノミニシテ他ニ傍證アルニ非ス今假リニ一步ヲ讓テ如何ニ神田本太平記ヲ貴重ナル史料ト認ムルモ因ヨリ絶對的ノモノニ非サレハ幾多正確ノ史料ト對照シテ其ノ眞偽ヲ推定シ反證ノアルアラハ大ニ考慮スヘキカ當然ナルニ拘アリス政府ハ贈位奏請ノ際果シテ其ノ用意アリシヤ否ヤ
文豪徳富蘇峰氏ハ「郷土史料ヲ離レテ思想ノ善導ナシト謂ヘリ今ヤ我カ國ハ思想ノ善導ト團體觀念ノ培養ニ一入ノ留意ヲ拂ハサルヘカラサル秋予等ハ伊豫ニ生ヲ享ケ縣民ト俱ニ土居得能ノ史蹟ヲ傳ヘテ以テ國體思想ノ涵養ニ資スル所少カラス然ルニ郷黨學ケテ其ノ惡逆ヲ憎ム賊將河野通治贈位ノ光榮ヲ擔フコトノ餘リニモ意外ニ驚キ飽迄其ノ眞相ヲ知り忠奸ノ別ヲ分明セムト焦慮スル者豈僅ニ予一人ノミナラムヤ事ハ一地方ノ史的問題ニ止マラス國民精神ノ作興ニ影響ヲ及ボス皇國ノ重大事件ナルカ故ニ政府ハ再應事蹟ヲ調査シテ的確ナル史料ヲ公表シ世ノ疑惑ヲ一掃セサルヘカラス政府ノ所見如何

右及質問候也
趣旨辯明以後三日頭ヲ以テ答辯セラレムコトヲ望ム
昭和六年二月二十四日
内閣總理大臣臨時代理
外務大臣男爵 幣原喜重郎
衆議院議長藤澤幾之輔殿

衆議院議員武知勇記君提出河野通治贈位奏請ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
〔別紙〕
衆議院議員武知勇記君提出河野通治贈位奏請ニ關スル質問ニ對スル答辯書
河野通治ノ贈位ニ付テハ第五十六回及第五十八回帝國議會ニ於テ政府ノ答辯シタル通ニシテ今日ニ於テモ尙至當ト認メ居レリ
右及答辯候也
昭和六年二月二十四日
内閣總理大臣臨時代理
外務大臣 男爵幣原喜重郎

地方財政ニ關スル質問主意書
提出者 船田 中
地方財政ニ關スル質問主意書
昭和六年二月四日

地方財政ニ關スル質問主意書
提出者 船田 中
地方財政ニ關スル質問主意書
昭和六年二月四日

地方財政ニ關スル質問主意書
提出者 船田 中
地方財政ニ關スル質問主意書
昭和六年二月四日

縣稅二十六圓九十八錢、村稅三十七圓三十三錢、諸負擔十三圓五十三錢、計九十二圓九十七錢、之レ實ニ農民一人當リ十六圓ノ負擔ニシテ農家平均收入ノ約四分ノ一ニ該當ス而モ昨年ニ於テハ米爾等主
要農產物價格ノ激落及之ヲ緩和スヘキ副
產物價格ノヨリ以上ノ暴落ニ遭ヒ農家ノ
收入ハ少クトモ一戸平均二百圓ニ及フ減
退ヲ來シ一般農家ハ今日到底其ノ收入ヲ
以テ支出ヲ掩フニ足ラス益加重セララル
借金ト公課ノ重壓ノ下ニ全ク前途ノ光明
ヲ失フノ窮狀ニ在リ
然ルニ政府ハ組閣以來財政經濟ノ立直ヲ
以テ其ノ施政ノ中樞トシ之ヲ天下ニ聲明
宣傳セルニ拘ラス其ノ行フ所ハ不合理、無
準備、亂暴ニ非サレハ全ク無爲無策ニシテ
時局ヲ匡救スルニ足ラス殊ニ政權ヲ維持
スルニ波瀾トシテ一部少數ノ金融資本關
ノ擁護ニ急ニシテ一般民衆ノ利害ヲ忘レ
地方ニ於ケル財政經濟ノ如キハ全ク自然
ノ崩壞及行詰ニ放任スルノ有様ナリ
茲ニ於テ本員ハ曩ニ第五十八回議會中地
方民衆ノ利害ニ直接ノ關係アル地方財政
ノ整理改善ノ實績ニ關シ政府ノ措置及所
見ヲ質シタルニ拘ラス政府ノ答辯ハ徒ニ
自家ノ廣告ニ非サレハ強ヒテ質問ノ本旨
ヲ回避シ一時ヲ糊塗セムトスルニ過キス
況ヤ其後ニ於ケル地方ノ狀況ハ益深刻ナ
ル不況ニ沈淪シテ地方民衆ノ負擔ハ愈苛
酷ヲ極メ其ノ財政ハ破産ニ瀕シ其ノ經濟
ハ極メテ難局ニ遭遇セルニ拘ラス政府ノ
地方財政ニ關スル方策ハ全ク見ルヘキモ
ノナク地方長官ハ黨莫芬芬トシテ到底信
頼スルニ足ラス地方民衆ノ意思ヲ蹂躪シ
テ政府ノ走狗トナリ地方議會ハ時ニ修羅
場ト化スルニ至ル而モ多數府縣ニ於テハ
全ク輿論ノ趨向ヲ無視シ徒ニ法規ヲ濫用
シテ原案ノ執行ヲ命令セムトスルモノア
ルヲ聞ク
果シテ然ラハ地方自治ノ根基ハ一地方長

官ニ依リテ破壊セラレ地方財政ハ現政府ノ措施ニ依リテ破産ニ導カレムトス本員ハ切ニ地方民衆ノ利害ヲ顧慮シ地方財政ノ現狀ヲ憂フルカ故ニ茲ニ再ヒ地方財政ニ關シ政府ノ所見ヲ糾シ其ノ責任ヲ問ハムトスルモノナリ就中左記各項ニ付テハ政府ノ明瞭ナル答辯ヲ與ヘラレムコトヲ望ム

一 政府ハ中央財政ノ整理緊縮ヲ圖ルト共ニ之ト相俟テ地方財政ニ對シテモ一夫大整理緊縮ヲ斷行セシムルノ必要ヲ認ムト稱シ組閣後間モナク内務大臣兩大臣ノ名ヲ以テ地方長官ニ訓令シ、概要(一)道府縣昭和五年度當初豫算編成ニ付テハ各費目ニ互リ整理節約ヲ爲シ昭和四年度當初豫算額ニ比シ少クトモ一割五分減トスルコト(二)道府縣昭和四年度既定豫算ノ實行ニ關シテハ前項ノ趣旨ニ準シ措置スルコト(三)市町村昭和五年度豫算ノ編成並昭和四年度豫算ノ實行ニ關シテハ道府縣ニ準シ措置スルコト(四)地方債ノ整理等ノ趣旨ヲ以テ之カ徹底ヲ期シ從テ井上大藏大臣カ第五十八回議會ノ本議場ニ於テ說明シタル所ニ依リハ昭和四年度實行豫算ニ於テ總額二億七千餘萬圓及昭和五年度豫算ニ於テ二億五千餘萬圓ノ整理節約ヲ實行シ得タリトシ大ニ之ヲ誇示セラレタリ然ルニ本員カ昭和五年五月三日地方財政ノ整理緊縮ニ關スル質問主意書ヲ提出セルニ對シ同月十二日政府ノ答辯書ニ於テハ右安達内務大臣ノ答辯略同様ノ答辯ヲ爲セルニ拘ラス地方歳出ニ於ケル自然減少ノ分ヲ除キタル整理金額ニ付テハ調査ヲ缺ク旨附記セラレタルヲ以テ見レハ右井上大藏大臣ノ本議場ニ於ケル答辯中ニ擧ケラレタル地方歳出整理額中ニモ當然自然減少ニ屬スルモノヲ多分ニ包含スルモノナルコトハ疑ナシ抑自然減少ニ屬スル金額ハ之

レ積極的ニ整理節約シタルモノニ非ス單ニ其ノ年度ニ於テ用途ヲ失ヒタル歳出金額ニ過キサルナリ且右ノ數字ハ内務省發行ノ地方財政概要ニ擧ケラレタル數字トハ著シク異ナルモノアリ果シテ然ラハ政府ノ方針ニ從ヒ眞ニ整理節約セラレタル地方歳出幾何ナリヤ昭和四年度以來各年度別ニ詳細ナル計數ノ明示ヲ望ム

二 昭和六年度道府縣豫算編成ニ當リ政府ハ内務大臣兩大臣ヨリ再地方長官ニ訓令シ(八月十六日依命通牒)昭和六年度道府縣歳出ハ少クトモ昭和五年度當初豫算額ノ範圍内ニ止ムヘキ旨命シタリ然ルニ昨年中ニ地方長官カ道府縣會ニ提案シタル昭和六年度道府縣豫算ヲ見ルニ歳出總額四億一千六百八十一萬七千六百三圓ニシテ、昭和五年度當初豫算議決額四億二千七百七十五萬四千八百圓ニ比シ、一千四百五十四萬五千圓即チ三%六ノ増額ヲ示シ東京府外二十六府縣知事ハ明ニ右内務大臣兩大臣ノ訓令ノ趣旨ニ反シ昭和五年度豫算ニ比シ増額提案ヲ爲シタリ斯ノ如キハ服從義務ヲ有スル地方長官カ内務大臣兩大臣ノ訓令ヲ躊躇スルモノト謂ハサルヘカラス政府ノ所見如何又政府ハ昭和六年度道府縣豫算中ニ更ニ整理節約スヘキ餘地アリト認ムルヤ尙政府ハ右豫算中ニ整理節約スヘキ餘地アリト認ムルナラハ之ニ向テ豫算ノ減額ヲ命スルノ意思アリヤ如何

三 政府ハ非募債政策ヲ掲ケ又地方債ニ付テハ内務大臣兩大臣ノ地方長官ニ對スル訓令ニ於テ災害豫防及復舊事業、失業救濟事業ノ如キモノニシテ眞ニ緊急避クヘカラサルモノノ外新規事業ハ之ヲ許可セサルコトトシ既ニ起債ノ許

可ヲ爲シタル事業ト雖極力之カ打切又ハ繰延ヲ實行スルコトヲ命シタルニ拘ラズ地方債ニ關シテハ殆ト整理改善ノ跡見ルヘキモノナク殊ニ近時失業救濟ノ名目ノ下ニ無制限ニ地方債ヲ認可シ而モ其ノ内容事業ハ寧ろ收支ノ適合ヲ圖ルニ在リテ眞實失業救濟ノ爲ニ使用セラルルモノ極メテ尠シ試ニ昭和五年十二月末日現在ニ於ケル狀況ヲ見ルニ起債許可件數二百餘、金額約一億二千六百餘萬圓ニシテ之ヲ前年同期ニ比スルニ復舊事業ノ完成ニ伴ヒ當然不用ニ歸スヘキ震災復舊ノ爲ニスル地方債等ニ於テ多少ノ減額ヲ見タル外教育、衛生、勸業、災害土木、普通土木、社會事業及其ノ他ノ目的ニ於テハ何レモ増額トナレリ

斯ノ如キハ全ク非募債政策ノ破綻且地方長官ノ訓令違反ニシテ政府ノ財政策ハ地方財政ニ於テ根柢ヨリ破壊サレタルモノト認メラル政府ノ所見如何

次ニ右地方債支辨ニ屬スル諸種ノ事業ハ災害復舊ヲ除キテハ地方ノ開發、地方民ノ福利ヲ増進助成スルニ極メテ緊要ナルモノニシテ而モ當初計畫ノ如ク之ヲ遂行シ得ハ現下ノ不況ニ際シ多數ノ失業若クハ現下ノ不況ニ際シ多數ノ失業若クハ現下ノ不況ニ際シ多數ナルニ拘ラス政府ハ非募債政策ノ虛名ニ驅ラレテ地方ノ利害ヲ顧ミズ不合理ナル緊縮節約ヲ強行セシメ其ノ結果多數ノ失業若クハ現下ノ不況ニ際シ多數トシテ地方債ノ濫發ヲ許シ以テ地方財政ヲ紛亂スルカ如キハ全ク自己ノ主張セル誤レル政策維持ノ爲ニ地方民ノ犧牲ヲ餘儀ナクスルモノト謂ハサルヘカラス殊ニ失業救濟ノ名目ノ下ニ施行セララル事業ノ極メテ不利不經濟ニシテ效果のナラサルコトハ從來大都市ニ於ケル季節的失業救濟事業ノ實績ニ於テ能ク之ヲ經驗セル所ナリ斯ノ如キハ窮乏ノ

極ニ沈淪スル地方民ニ益負擔加重ヲ強ヒ地方經濟ヲ壓迫スルノ甚シキモノナリ寧ろ豫メ地方ノ利害ヲ省察シ緩急宜シキヲ制シテ適當ナル助長ノ施設ヲ爲サシムルカ爲ニ當初ヨリ事業ノ計畫施行ヲ容易ナラシムルコトノ更ニ效果的ナルヲ認ム政府ノ所見如何

四 政府ノ昭和六年度國庫豫算綱要ヲ見ルニ歲入臨時部ニ於テ公共團體工事分擔金四百八十餘萬圓ノ増額ヲ計上シタリ、惟フニ中央財政ニ於テ不合理ナル緊縮、非募債政策ノ維持ニ努ムルノ結果緊要避クヘカラサル地方關係土木事業等ノ施行ニ付財源ヲ地方公共團體ノ分擔金ニ求メタルモノト思料セラルルモ果シテ然ラハ政府ハ今日深刻ナル不況ノ下ニ於テ殊ニ米齒等主要農産物ヲ始メ農林水産物價格ノ暴落ニ依リ未嘗有ノ收入減ニ苦惱スル地方民窮乏ノ場合ニ於テ中央財政ニ比シ地方財政ハ更ニ餘裕アルモノト認メラルルヤ政府ノ所見如何

次ニ右公共團體ノ工事費分擔金ニ付地方團體ハ如何ナル財源ヲ以テ之ニ充當セラルル見込ナリヤ政府ノ方針及所見如何

若地方財政ニ於テモ特殊ノ財源ナク結局地方債ヲ以テ之ニ充當スルモノトセハ政府ハ地方財政ニ關シテハ其ノ固執スル非募債政策ヲ拋棄シタルモノト認メラル政府ノ所見如何

五 大正十二年九月ノ關東地方大震災災ニ因リ災害ヲ被リタル東京府、神奈川縣、橫濱市其ノ他ノ地方團體ノ災害復舊復興ノ爲ニシタル地方債ニ對シ國庫ヨリ支出スル利子補給金ハ既ニ打切ラレタニ拘ラス之等災害地ノ地方財政ハ極度ノ窮乏ヲ告ケ政府ニ對シ利子補給ノ繼續方ヲ申請セルニ對シ政府ハ如何ナル措置ヲ執リタルカ又之ニ對スル

政府ノ方針如何
政府ハ或ハ之ニ答ヘテ考慮中ナリトセラルルヤモ計ラレシ然レトモ利子補給金ハ國費豫算ニ於テハ昭和三年度ヲ以テ既ニ打切トナリ二年度ヲ經過セル今日現實ノ問題トシテ之カ對策ヲ決定セサルカ如キハ全ク災害地ノ窮乏ヲ察セス徒ニ怠慢ノ誹ヲ免レサルモノナリ政府ハ之ニ對シ如何ナル對策ヲ有セラルルヤ

尙利子補給ノ爲ニスル追加豫算ヲ今期議會ニ提出スルノ意思アリヤ如何
政府ハ從來實行シ來レル災害土木費補助及災害復舊費支辨ノ爲ニスル地方債ノ利子補給ニ關シ將來同様に方針ヲ以テ措置スル意思ナリヤ如何
右及質問候也

昭和六年二月二十四日

内閣總理大臣臨時代理
外務大臣 男爵幣原喜重郎

衆議院議長藤澤幾之輔殿
衆議院議員船田中君提出地方財政ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員船田中君提出地方財政ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 第五十八議會ニ於テ地方財政ノ整理緊縮額トシテ政府カ說明又ハ答辯シタル計數ハ昭和四年度分ニ付テハ自然減少額ヲ含マス又昭和五年度分ニ付テハ自然減少額ヲ含ムモ同時ニ自然増加額及新規増加額ヲ控除セルヲ以テ結局地方豫算ニ於ケル整理緊縮ノ總額ハ昭和五年度地方豫算ノ總額ヲ前年度ノ總額ト對比スレハ之ヲ知ルヲ得ヘキモノト認ム尤モ昭和五年度分ノ計數ハ當時內務省ニ於テ地方豫算ニ於ケル整理緊縮ノ狀況ヲ急速ニ知ルノ要アリタルモ爲メ臨時速報ヲ徴シ之ヲ集計シタルモノニ據リタルモノナルカ右ノ内東京市ノ

分ノ報告ハ純歲出ノミニシテ市債借替支出六二、八九〇、三〇〇圓別途積立財産編入金一、六八三、三二七圓等ヲ加算セス其ノ他ノ市町村ノ分ニ付テモ亦多少ノ増減アリタル爲昭和五年度當初豫算ニ於ケル整理緊縮額ハ一八九、九五、六四〇圓トナリタリ

二 昭和六年度道府縣豫算ノ編成ニ付テハ其ノ總額ハ特別ノ事情ナキ限り昭和五年度當初豫算ノ總額ヲ超エサルヘキコトヲ指示シタルモノニシテ從テ特別ノ事情アル場合ハ之ヲ除外セサルヘカラサルコト言フ俟タス、而シテ昭和六年度道府縣豫算ハ未タ確定セサルモノアルモ其ノ總額四億二千餘萬圓ニ上ルヘク之ヲ昭和五年度ニ比較スレハ二千萬圓内外ノ増加トナルカ如キモ此ノ増額ハ右ノ豫算中ニ約四千萬圓ノ失業救濟事業費ノ計上アルカ爲ナルヲ以テ昭和六年度道府縣豫算ハ大體ニ於テ克ク政府ノ方針ニ則リ編成セラレタルモノト認ム從テ其ノ内容ニ於テモ相當整理節約セラレタルモノト認ム

三 政府ハ一昨年七月組閣ノ當時地方債許可ニ關スル方針ヲ定メ地方債ハ災害豫防、災害復舊、失業救濟等眞ニ緊急避クヘカラルモノ、外之ヲ許可セサルコトトシタリ此ノ方針ハ今日モ尙之ヲ變更セサルコトハ言フ俟タサル所ナルモ其ノ後各地ニ於ケル失業ノ狀況ニ鑑ミルトキハ之カ救濟ノ爲メニスル事業施行ノ要切ナルモノアルヲ認メ其ノ事業力眞ニ緊急ヲ要スルト共ニ當該地方ニ於ケル失業ノ救濟ニ有效ナリト認メラルモノニ關シテハ起債ヲ認ムルコト、爲シタルモノモ固ヨリ其ノ償還計畫確立シ且地方民ノ負擔過重ニ互ラサルモノニ限り精査考査ノ上許可スルモノナルヲ以テ之カ爲地方財政ノ紊亂ヲ來スカ如キ虞ナキヲ確信ス

尙失業救濟ノ爲地方債ヲ以テ行フ事業ノ分量ハ常ニ政府ニ於テ失業對策上統制宜シキヲ計リ又其ノ事業ノ種類ハ失業救濟ニ適スルモノタルハ勿論同時ニ地方永久ノ利益トナルヘキ施設ニ限り且不熟練失業者使用ニ因ル團體ノ損失ハ國庫補助ニ依リテ充分償ハルヘキヲ以テ之カ爲メニ地方經濟ヲ壓迫スルカ如キコトナシト認ム

四 公共團體事業分擔金ノ増額セルハ國庫財政ノ都合ニ依リ土木事業ノ繰延ヲ要スルニ際シ地方公共團體ニ於テハ分擔金ノ繰上納付ニ依リ事業ノ促進ヲ熱望セシモノアリシニ依リ地方ノ實情已ムヲ得サルモノアリト認メタルニ由ル又其ノ財源ヲ起債ニ求ムルモノアルモ其ノ事業ノ内容ハ災害ノ豫防等緊急已ムヲ得サルモノナルヲ以テ之カ起債ヲ許可スルモ起債許可ニ關スル方針ニハ何等背戾セサルモノトス

五 關東震災地方公共團體ニ於ケル復舊復興等ノ爲ニ起シタル地方債ニ對シテハ起債當時ニ於ケル契約ニ從ヒ國庫貸付ニ係ルモノハ昭和三年度迄之ヲ無利子トシ一般公募ニ係ルモノハ昭和四年度迄利子補給ヲ爲シ又其ノ他ニ於テモ團體財政ノ狀況ニ應シ大藏省預金部資金ノ運用並運用條件ノ變更等ヲ爲シ以テ之カ援助ノ方法ヲ講スル所アリタリ尙眞ニ窮迫セル團體ニシテ利子ノ減免又ハ補給ヲ爲スノ要アリト認メラルモノニ付テハ相當ノ方法ヲ講スル見込ヲ以テ目下調査中ナリ

尙地方災害土木費ニ對スル國庫補助ハ從來同様ノ手續續スル見込ナリ又土木費其ノ他ノ災害復舊費支辨ノ爲メニスル地方債ノ利子補給ニ關シテハ國庫財政ノ狀況ニ應シテ將來モ適當ニ措置スル所アルヘシ

右及答辯候也
昭和六年二月二十四日

大藏大臣 井上準之助
内務大臣 安達 謙藏
東京市對佛國訴訟事件ニ關スル質問主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和六年二月五日
提出者 本田 義成
東京市對佛國訴訟事件ニ關スル質問主意書

東京市對佛國訴訟事件ニ關シ目下佛國ノ朝野ニ於テ幾多ノ議論アルモノノ如シ之ニ對シテ政府ノ所見ヲ質サムトス
右及質問候也
昭和六年二月二十四日
内閣總理大臣臨時代理
外務大臣 男爵幣原喜重郎
衆議院議長藤澤幾之輔殿
衆議院議員本田義成君提出東京市對佛國訴訟事件ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕
衆議院議員本田義成君提出東京市對佛國訴訟事件ニ關スル質問ニ對スル答辯書

東京市對佛國債所持人間ノ訴訟事件ハ本年一月十四日佛國大審院ニ於テ大體東京市ニ不利ナル判決アリタルモ右判決ハ控訴院ノ判決ヲ破毀シタルモノニシテ結局判決ニ非ズ事件ハ本年一月三十日「ヂジョン」控訴院ノ再審理ニ附セラレ目下繫屬中ナリ從ツテ本件ハ未ダ最終的決定ヲ告ゲタルモノニ非ザルノミナラズ今後國際的交渉案件トナルヲ保シ難シ依テ今日日本件ニ關スル帝國政府ノ所見ヲ發表スルコトハ適當ナラズト思料ス
右及答辯候也
昭和六年二月二十四日
大藏大臣 井上準之助
内務大臣 安達 謙藏

愛知縣油ヶ淵惡水路開鑿ニ關スル質問
主意書
右成規ニ據リ提出候也
昭和六年二月七日

愛知縣油ヶ淵惡水路開鑿ニ關スル質問
主意書
提出者 丹下茂十郎

愛知縣油ヶ淵惡水路改修問題ハ多年ノ懸案ナリシカ昭和四年縣營ヲ以テ既設水路ノ擴張計畫ヲ立テ農林省ノ認可ヲ得昭和五年二月二十日內務省ハ其ノ施工ノ認可ヲ與ヘタリ然ルニ突如トシテ此ノ計畫ヲ覆シ新設水路開鑿ニ變更セリ此ノ間幾多怪訝ニ堪ヘサルモノアリ其ノ真相如何
右及質問候也

本件ハ特ニ議場ニ於テ詳細陳述スヘシ內務農林兩大臣ハ其ノ陳述ヲ待テ口頭答辯アラムコトヲ望ム

昭和六年二月二十四日

內閣總理大臣臨時代理
外務大臣男爵 幣原喜重郎

衆議院議長藤澤幾之輔殿

衆議院議員丹下茂十郎君提出愛知縣油ヶ淵惡水路開鑿ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候

〔別紙〕

衆議院議員丹下茂十郎君提出愛知縣油ヶ淵惡水路開鑿ニ關スル質問ニ對スル答辯書

本件ハ愛知縣油ヶ淵沿岸一帶耕地ノ灌水ノ被害ヲ除去シ併セテ平素ニ於ケル排水状態ヲ良好ナラシムル目的ヲ以テ愛知縣ガ農林省ヨリ國庫補助ヲ受ケ之カ排水幹川ヲ改良セントスル用排水幹川改良事業ニシテ其ノ施行ニ付テハ該工事カ大正十一年五月內務省訓令第六號ニ該當スルヲ以テ內務大臣ノ認可ヲ要スルモノナリ而シテ之ガ具體的計畫ニ付テハ當初縣ハ(一)從來排水幹川タル「新川」ヲ擴張

官報號外

昭和六年二月二十五日

衆議院議事速記第十八號

議長ノ報告

改修セントスル所謂新川線案ト(二)新川ハ大體其儘トシ別ニ油ヶ淵ヨリ高濱町地先玉江海岸ニ至ル新水路ヲ開鑿セントスル高濱線案ト二案ヲ比較シタル結果事業費豫算ノ小額ナル新川線案ニ依リ施行スルコトトシ縣會ニ於テ之カ事業費議決ノ上昭和三年九月二十九日付ヲ以テ國庫補助ノ申請ヲ爲シ農林省ハ之ニ對シ昭和四年三月二十八日付ヲ以テ國庫補助ノ指令ヲ與ヘタリ又其ノ工事施行ニ付テハ昭和四年五月二十七日愛知縣知事ヨリ內務省ニ對シ認可申請アリタルヲ以テ調査スルニ本件ハ從來ノ排水幹川タル「新川」ヲ全川千三百三十七間ニ互リ幅員六間乃至九間ニ擴張シ且流心ニ於テ一尺五寸乃至三尺ノ浚渫ヲ施シ尙吐口ヨリ海面ニ突出スル百九十間ノ導水堤ヲ築造シテ排水能率ヲ増進セントスルモノニシテ治水上別段支障ナキヲ以テ昭和五年二月二十日付愛土第七九號ヲ以テ認可シタリ

然ルニ縣ハ其後工事實施ニ當リ更ニ前記兩案ニ就キ工事ノ難易、物件移轉補償並殘土處分等ニ付詳細調査考究セシ處事業費總額ニ於テハ新川線ノ方依然小額ナルモ殘土處分ニ因リ生スル埋立地ノ利用價值等ヲ比較シ之ニ依リ地元負擔金ノ關係ヲ考慮スルトキハ却テ高濱線ニ依ル方縣費ノ支出小額ニテ足リ埋立地ノ價值モ大ナルノミナラス海苔採取場ヲ喪失セシメサル等ノ利益モアルヲ以テ之ニ依リ實施スルコトニ決定シ右變更施行ニ付農林省ニ對シテハ昭和五年五月十九日付ヲ以テ縣ヨリ又內務省ニ對シテハ同年六月三十日付ヲ以テ愛知縣知事ヨリ認可申請ヲ爲シタリ仍テ夫々兩省ニ於テ調査スルニ變更計畫案ハ從來ノ新川ヲ大體其儘トシ別ニ油ヶ淵ヨリ高濱町ニ至ル延長千二百八十六間幅員十三間ノ新水路ヲ開鑿シ尙吐口ヨリ海面ニ突出スル百四十七間ノ導水堤ヲ築設シ以テ此ノ新水路ト從來ノ排水

幹川ト併セ灌水ヲ排除セントスルモノニシテ治水上別段支障ナク工事ニ要スル縣費ノ支出額ヲ節約シ得國庫補助金モ亦小額トナルヲ以テ同年七月十日付ヲ以テ內務、農林兩省ハ何レモ之ガ認可ヲ爲シタルモノナリ
右及答辯候也
昭和六年二月二十四日
內務大臣 安達 謙藏
農林大臣 町田 忠治

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ掲載ス〕
一去二十一日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ
三五 宮城縣第一區選出議員 山田 又司君
九五 山田 又司君
一去二十一日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
寄生蟲病豫防法案(政府提出)外一件委員
中馬 興丸君 中崎 俊秀君
久留 義郷君 中島 琢之君
石塚 讓君 加藤鑠五郎君
永田 良吉君 松山常次郎君
野方 次郎君 藤田若水君
中央卸賣市場法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)委員
小野 重行君 濱野徹太郎君
古島宮次郎君 藤田 若水君
安田耕之助君 竹田 儀一君
上田 孝吉君 鈴木 英雄君
加藤鑠五郎君
一去二十一日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
米穀法中改正法律案(政府提出)外一件委員

一去二十一日辭任シタル常任委員左ノ如シ
第五部選出 片山 哲君
決算委員
一昨二十三日委員長及理事五選ノ結果左ノ如シ
寄生蟲病豫防法案(政府提出)外一件委員
委員長 中馬 興丸君
理事中崎 俊秀君 理事松山常次郎君
中央卸賣市場法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)委員
委員長 小野 重行君
理事濱野徹太郎君 理事鈴木 英雄君
一昨二十三日常任委員補選ノ結果左ノ如シ
第五部選出 關
決算委員 八木 幸吉君(片山哲君補)

一昨二十三日常任委員理事補選ノ結果左ノ如シ
理事 寺田 市正君(理事庄司良朗君
一月二十七日委員辭任ニ付其ノ補選)
一昨二十三日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
地租法案(政府提出)外六件委員
辭任前田 米藏君 補選津雲 國利君
辭任村岡 吾一君補選海老澤爲次郎君
中央卸賣市場法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)委員
辭任加藤鑠五郎君 補選川島正次郎君
市制中改正法律案(政府提出)外三件委員
辭任樋口 典常君 補選中村 嘉壽君
米穀法中改正法律案(政府提出)外一件委員

辭任原 惣兵衛君 補選清家吉次郎君
辭任宮澤 胤勇君 補選山内 亮君
辭任小村 俊一君 補選高橋元四郎君
地租法案(政府提出)外六件委員
辭任八田 宗吉君 補選前田 米藏君

辭任小池 仁郎君 補選武知 勇記君
辭任山内 亮君 補選宮澤 胤勇君
辭任木村小左衛門君補選北原阿智之助君
一今二十四日幣原內閣總理大臣臨時代理ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

社會局部長 富田愛次郎
第五十九回帝國議會內務省所管事務政府
委員被仰付
營繕管財局理事 太田嘉太郎
第五十九回帝國議會大藏省所管事務政府
委員被仰付

議長(藤澤幾之輔君) 是ヨリ會議ヲ開キ
マス、一言致シマス

最早會期三分ノ二ヲ經過致シマシタカ
ラ、先例ニ依リマシテ自今本會議ハ火曜
日・木曜日・土曜日以外ニ於テモ之ヲ開キ得
ルコト

法律案ノ上程ニハ成規ノ日數ヲ要セザル
コト
又本會議中委員會開會ノ許可ハ、一々院
議ニ開フコトナク、議長ニ於テ許可スルコ
ト、致シマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

本日ノ日程ニ掲ゲマシタ質問第一乃至第
十八、政府ヨリ何レモ答辯書ヲ受領致シマ
シタ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス——尙ホ
答辯ニ對スル意見陳述ノ申出ガアリマス
ガ、是ハ適當ノ機會ニ之ヲ許シマス——八
木幸吉君カラ議事進行ニ關シテ發言ヲ求メ
ラレテ居リマス、之ヲ許可致シマス

〔八木幸吉君登壇〕

○八木幸吉君 去ル二月十九日ノ當議場ニ
於キマシテ、武藤山治氏ヨリ救護法實施ニ
關スル政府ノ所見ヲ、議長ヲ通ジテ質シタ
ノデアリマス、然ルニ之ニ對シ未ダ何等ノ
回答ニ接シナイノデアリマス、去ル二月二
十日ノ貴族院本會議ニ於キマシテ、大谷尊
由氏ノ質問ニ對シ安達内務大臣ハ、救護法
ハ昭和七年ノ一月カ二月カ、三月ノ初メカ
ラ之ヲ實施致シタイノデアアル、斯様ナ答辯
ヲサレテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシ
テ大谷尊由氏ヨリ、救護法實施ノ財源ハ競
馬法ノ改正ニ依ルト云フコトデアアルガ、若
モ競馬法ノ改正ガ行ハレナカッタ場合ニハ、
救護法ハ實施シナイノデアアルカドウカ、斯
様ナ追窮ガアリマシタニ對シ、安達内務大

臣ハ、財源ノコトニ關シテハ、只今明言ス
ルコトハ出來ナイ、斯様ニ答辯セラレタ
ノデアリマス、私共ハ此質問應答ニ依リマ
シテ、少クトモ現内閣ハ昭和六年、即チ本
年中ニ於テハ救護法ヲ實施シナイト云フ意
思ヲ明瞭ニ知り得タノデアリマス

抑、救護法ノ目的ハ、六十五歳以上ノ老
衰者、十三歳以下ノ幼弱者、妊産婦、不具、癱
疾ノ人々ヲ救濟セントスルノデアリマス、殊
ニ是等氣ノ毒ナル人々ニシテ、自己ニ一定
ノ收入モ無ク、又之ヲ扶養スル人モ無イ所
ノ、極メテ氣ノ毒ナル人々ヲ救濟セントス
ルモノデアリマス、國庫ノ負擔致シマスル
所ノ金額總額ハ四百萬圓デアリマスルケ
レドモ、之ヲ一人一日當リニ致シテ見マス
ルナラバ、十五錢ノ豫算デアリマス、十三
歳以下ノ幼者ニ對シテハ、僅ニ十二錢ヲ之
ニ給與シヨウト致スノデアリマス、此所謂
餓死線上ニ彷徨スル人々ニ對シテ、僅ニ一
日十五錢ヲ給與シヨウト云フ此救護法、而
モ上下兩院滿場一致ヲ以テ成立シ、殊ニ昭
和五年度カラ之ヲ實施スベシト云フ附帶決
議マデ附セラレテアリマス此救護法ガ、
財界ノ不況今日ノ如ク深刻ニシテ、社會ノ
不安今日ノ如ク甚シイ此場合ニ於キマシ
テ、尙ホ其實施ガ問題ニナルト云フノハ、
洵ニ遺憾至極ト申サナケレバナリマセヌ

(拍手)餓死線上ニ彷徨スル人々ハ、此救護
法ノ制定ニ依リマシテ、自ラハ救濟サレ、
自ラハ是ガ救ヒノ手ヲ求メ得ルト、斯様ニ
信ジテ居ルノデアリマス、此將ニ餓死セン
トスル人々ニ對シテ「パン」ヲ與フベク約束
サレ、而モ之ヲ遮ルハ是レ果シテ何人ノ責任
デアリマスカ、吾々ハ之ヲ現内閣ノ責任ト
申サナケレバナリナイノデアリマス(拍手)
殊ニ此法律ノ實施ノ當ノ責任者ハ誰デア
ルカ、安達内務大臣其人デアリマス、安達氏
ハ二百七十名ヲ擁スル所ノ與黨ノ總裁代理
者デアリマス、此安達氏ニシテ眞ニ弱者ニ
對スル理解ト同情ヲ御持チニナッテ居リマ

スルナラバ、安達氏ノ此勢力ヲ以テ、閣議
ニ於テ救護法ノ實施ヲ強調セラレタナラ
バ、本法實施ノ如キハ極メテ容易デアルト
私ハ信ズルノデアリマス(拍手)「餓エタル
者ヲシテ餓死セシメヨ、革命ニ對スル捷徑
ナリ」トハ「レーニン」ノ言葉デアアル、私ハ現
内閣ノ諸公、殊ニ安達内務大臣ノ自覺、反
省、猛省ヲ促ス所以デアリマス

第一ハ、政府ハ昭和六年四月一日カラ完
全ニ救護法ヲ實施スルノ意思ガアルカナ
イカ、私ノ完全ト申シマスノハ、四百萬圓ノ
國庫負擔ヲスルト云フ、此範圍ニ於テ救護
法ヲ實施スルカドウカ、是ガ第一ニ私ノ伺
ヒタイ點デアリマス

第二、政府ハ救護法ノ財源捻出ニ向ッテ
非常ニ困難ヲ感ズルナラバ、何ガ故ニ公債
財源ニ依テ之ヲ行ハナイカ、政府ハ勞働能
力ノアル失業者救濟ノ爲ニ、三千万圓ノ失
業公債ヲ發行シヨウト云フ決意ヲ持ッテ居
ルト云フコトデアリマス、勞働能力ノアル
人々ノ救濟スラ公債ヲ發行シヨウトスルノ
ニ、勞働能力スラナイ社會ノド底ニ喘イ
デ居ル人々ニ對シテ、何ガ故ニ公債發行ニ
依ッテ之ヲ救濟シナイノデアアルカ、是ガ私ノ
第二ニ伺ヒタイ點デアリマス

第三ニハ、此財政窮乏ノ今日ニ於キマシテ、
納稅力ノアル國民負擔輕減ノ爲ニ、九百
萬圓ノ減稅ヲ行フトスルナラバ、納稅ノ能
力ノナキハ勿論、社會ノド底ニ喘イデ居
ル人々、殊ニ救護法ト云フ法律ガ儼然トア
ルニモ拘ラズ、此救護法ヲ實施セズシテ、
却テ僅カバカリノ減稅案ヲ先ニシタト云フ
ノハ、是ハ何故デアアルカ、是ガ私ノ伺ヒタ
イ第三ノ點デアリマス

以上三ツノ點ニ付キマシテ議長ヲ通ジテ
政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマスルガ、
若シ許サレマスルナラバ、安達内務大臣ハ

此處ニ御出席ニナッテ居ルノデアリマスル
カラ、當議場ニ於テ直接内相ヨリ御答辯ヲ
賜リマスルナラバ、非常ニ仕合デアルト私
ハ考ヘルノデアリマス(拍手)

議長(藤澤幾之輔君) 是ヨリ日程ニ入り
マス、作田君
〔議長〕議長「ト呼ヒ、其他發言スル者
多シ」

○議長(藤澤幾之輔君) 一寸御待チ願ヒマ
ス、内務大臣ガ答辯スルサウデアリマス、
安達内務大臣
〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 御答致シマス、
救護法ハ實施致スノデアリマシテ、近キ中
ニ追加豫算トシテ提案致シマスカラ、其時
分ニドウゾ十分御審議ヲ願ヒタウゴザイマ
ス、而シテ其財源ノコトモ其時ニ明瞭ニナ
リマスカラ、其時分ニ御審議ヲ煩シマスガ、
何故公債財源ニ依ラナイカ、斯ウ云フ御問
デアリマスガ、私ハ救護法等ヲ實施スルニ
付テ、公債ニ依ルベキモノゾナイト考ヘテ
居リマス(拍手)ソレカラ第三ノ減稅ヲ致シ
タニ付テ、國民ノ負擔力ガナイノニ、ソレ
ニ救護法等ヲセズニ、國民負擔ノ輕減ヲ何
故シタカト云フ御尋デアリマスガ、此倫敦
條約ニ依ル所ノ減稅ハ、國民ノ負擔力ヲ輕
カラシムル、斯ウ云フ意味デアカラサウ云
フコトニ聲明セラレテ居リマスカラ、國民
負擔ノ輕減ニ充ツルト云フコトガ倫敦條約
ノ趣旨デアリマスノデ、其通り致シタノデ
アリマス(拍手)

○作田高太郎君 議事日程變更ノ動議ヲ提
出致シマス、即チ此際日程ノ順序ヲ變更シ、
日程第八、地方鐵道補助法中改正法律案ヲ
議題トシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ
進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、日程
第八、地方鐵道補助法中改正法律案ノ第一
讀會ヲ續キマス、委員長ノ報告ヲ求メ
マス、委員長大島要三君

第八 地方鐵道補助法中改正法律案
(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一 地方鐵道補助法中改正法律案(政府提
出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和六年二月二十一日
委員長 大島 要三
衆議院議長藤澤幾之輔殿

○大島要三君登壇

地方鐵道補助法中改正法律
案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマ
ス、本月十七日第一回ノ委員會ヲ開キマ
シテ、引續キ四回ニ互リマシテ慎重審議、
又政府委員ト質問應答ヲ十分ニ重ネマシ
タ、其修正說ヲ採決致シマシタガ少數デ
アリマシテ、最後ニ原案ニ對シテ採決ヲ致
シマシタガ、多數ヲ以テ原案ノ通り決定致
シマシタ次第デアリマス、豊田君ハ其際ニ
修正意見ニ對シマシテ御述ニナリマ
スカト御問ヒ致シマシタ所ガ、委員會デハ
保留シテ本會ニ於テ述べルト云フ御挨拶デ
アリマシタ、右報告致シマス、ドウゾ慎重
審議ノ上ニ、原案ヲ通過セラレンコトヲ希
望致シマス

○議長(藤澤幾之輔君) 本案ニ對シテハ豊
田君外三名ヨリ少數意見ガ提出サレテ居
リマス、此意見ハ修正デアリマスカラ、第
二讀會ニ於テ其報告ヲ許スコトニ致シマ
ス、尙ホ討論ハ便宜上第二讀會ニ於テ爲ス
コトニ致シタイト思ヒマス、左様御諒承ヲ
願ヒマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議

ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
○作田高太郎君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ
開カレンコトヲ望ミマス
○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直チニ第二讀會ヲ開キマス

地方鐵道補助法中改正法律案 第二讀會
○議長(藤澤幾之輔君) 此際少數意見ノ報
告ヲ求メマス——佐保雄雄君

一 地方鐵道補助法中改正法律案(政府提
出)
右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノ
ト認ムルニ依リ少數意見書及提出候也
昭和六年二月二十一日
委員少數意見者 豊田 收 外三名

衆議院議長藤澤幾之輔殿
〔別紙〕 (小字及ハ少數意見)
地方鐵道補助法中左ノ通改正ス
中 大正二十一年ヲ「昭和十二年」ニ
附則第二項ヲ左ノ如ク改ム
本法ハ昭和六年一月一日以後ニ免許ヲ申
請シタル地方鐵道、同七年一月一日以後
ニ免許ヲ受ケタル地方鐵道及同十二年一
月一日以後ニ營業ヲ開始シタル地方鐵道
ニハ之ヲ適用セス

〔佐保雄雄君登壇〕
○佐保雄雄君 只今大島委員長ヨリ委員會
ノ結果ノ御報告ガアリマシタガ、私ハ委員
會ニ於テ吾々ノ提出シタル所ノ修正案ガ倒
レマシタ故ニ、茲ニ少數意見ヲ述べテ諸君

ノ御考慮ヲ願ヒタイト思ヒマス、吾々ガ修
正セントシタル所ノ意見ナルモノハ、現行法
中附則第二項ノ所謂大正二十一年トアリマ
スルノヲ、昭和十二年ト云フコトノ修正ヲ
致シタイトデアリマシタ、然ルニ政府ノ提
案ニ依リマシレバ、改正案ニ依リテ見マシ
レバ、則チ大正二十一年トアリマシタルノ
昭和十一年末マデ延期シタイト云フ法律案
デアリマス、是ハ我黨ニ於テモ何等異議ナ
イ所デアリマス、併ナガラ他ノ所謂昭和六
年一月一日以後ニ免許ヲ受ケントスル地方
鐵道、竝ニ昭和七年一月一日以後ニ免許ヲ
受ケタル所ノ地方鐵道、及ビ昭和十二年一
月一日以後ニ營業ヲ開始シタル所ノ地方鐵道
ニ對シテハ補助ヲ爲サナイ、所謂補助ヲ制
限スルト云フノヲ、其制限ヲ取ラントスル
所ノ修正ナルモノガ吾々ノ骨子デアリマ
ス、然ルニ先日ノ本議會ニ於キマシテ、我
黨ノ會元君ヨリ質問ニナリマシタガ、江木
鐵道大臣答ヘテ言ハル、ニハ、我國ノ地方
鐵道ハ最早四千哩ニ達シテ居ルノデア
ル、故ニ地方鐵道ハ相當飽和状態ニ達シテ居ル
ノミナラズ、近ク三千哩ニ達セントスル所
ノ鐵道ガ開通セラル、ガ故ニ、現今ノ日本
ノ輸送状態ニ於テハ決シテ不足ハナイ、故
ニ地方鐵道ニ對スル補助ハ打切テモ差支
ナイト云フ御意見デアリマシタガ、吾々ハ
未ダ地方鐵道ノ普及十分ナラズト考ヘル者
デアリマス、何トナレバ本年ノ二月十六日
現在ノ調査ニ依リマシレバ、免許申請中ニ
係ルモノガ二百五十七線アリマス、而モ其
哩數ハ二千哩デアリマス、此一專ヲ以テシ
テモ、江木鐵道大臣ガ言ハル、ガ如ク、地
方鐵道ハ相當ノ飽和状態ニ達シタトハ、決
シテ申シ得ナイノデアリマス、又地方鐵道
ガ相當ノ輸送状態ニ達シタトモ、決シテ言
ヒ得ナイノデアリマス、地方鐵道ノ補助ヲ
打切テモ差支ナイトハ、決シテ言ヒ得ナイ
ノデアル、故ニ將來ニ於テ益々地方鐵道ノ
發達ヲ希望シテ已マナイノデアリマス

元來地方産業ノ發達ニ地方交通機關ノ
發達ノ爲ニハ、政府自ラ地方鐵道ヲ敷設ス
ルノガ當然ナリト思フノデアリマス、然ル
ニモ拘ラズ政府ハ所謂財政ノ都合ト云ヒ、
或ハ收入ノ關係ト云フテ、地方鐵道ヲ無視ス
ルノ傾ガアルノデアリマス、故ニ地方人士
ハ收入ヲ度外視シテ、多大ノ犧牲ヲ拂テ地
方鐵道ヲ敷設シテ、所謂交通産業ノ兩方面
ニ對シテ、多大ノ貢獻ヲ爲シツ、アルノデ
アル、然ルニ鐵道ヲ申請致シテ、免許ヲ得
ルマデニ至ル間ト云フモノハ、非常ナ長イ
時日ヲ要スルノミナラズ、多大ノ經費ト多
大ノ努力ヲ要スルノデアリマス、然ルニ補
助ヲ得ラル、モノト思フテ免許ヲ申請シ、免
許ヲ得ナガラ補助ヲ得ナカッタ場合ハ、地方
鐵道ノ將來ヲ阻碍スルノミナラズ、其鐵道
經營者ナルモノハ、非常ナル逆境ニ陥ルコ
トハ當然デアリマス、故ニ相當ノ補助ヲナ
シ、獎勵ヲナシテ、地方鐵道ノ發達ヲ期ス
ルコトガ、當然ノ結果ナリト私ハ考ヘルノ
デアリマス

然ルニ政府ハ當然近キ將來ニ架設シナケ
レバナラナイ所ノ地方鐵道、即チ國有鐵道
ノ豫定線中二十三線ヲ中止線延ヲ致シタ
ノデアリマス、而モ地方鐵道ニ對シテハ補助
ヲ打切リ、何ニ依リテ將來地方鐵道ノ發達ヲ
期セントスルカ、疑ハザルヲ得ナイノデア
リマス、或論者ハ自動車ノ發達ガ非常ナ急
速度ヲ以テ進ミツ、アルガ故ニ、其足ラザ
ル所ヲ補助テ餘リアルト云フカモ知レマセ
ス、併ナガラ自動車ト鐵道ハ各、其使命ガ
異ルノデアリマス、即チ汽車ハ遠距離ヲ大
量輸送ニ適スルノデアリマスガ、之ニ反シ
テ自動車ハ短距離ヲ小量輸送ニ適スルモノ
デアルガ如ク、總テ交通機關タル飛行機ハ
飛行機ノ使命ガアリマス、電車ハ電車ノ使
命ガアリ、馬車ハ馬車ノ使命ガアリ、人力
車ハ人力車ノ使命ガアリガ如ク、自動車或
ハ汽車各、使命ガ異ルノデアル、自動車ヲ
以テ汽車ニ代ヘル譯ニハ行カナイノデアリ

マ、ソレデアリマスカラ汽車ハ汽車トシテ發達ヲナサシメテ、而シテ將來ニ於テ交通機關ノ發達ヲ期スルコトガ、洵ニ當ヲ得タコト、私ハ思フノデアリマス(拍手)

往時維新時代デサヘ、飢饉ノ際ハ堤防或ハ河川、或ハ道路ノ工事ヲ起シテ、窮民ヲ救フタノデアリマス、然ルニ現政府ハドウデアルカ、當然爲スベキ事業ヲ打切り、而モ起ルベキ地方ノ事業モ阻止シテ不景氣ヲ作り、失業者ヲ作ルニ至ラセテハ、昔ノ舊藩時代、封建時代ノ政治ト比較シテ、洵ニ逆轉ノ感ガアルノデアリマス、之ヲ以テ政治ノ逆轉ナリト吾々ハ言ヒタイノデアル、ソレ故ニ將來此地方鐵道ニ補助ヲシテ、而シテ一面ニ於テハ交通機關ノ發達ヲ促シ、一面ニ於テハ失業者ヲ救済スルコトガ、洵ニ當ヲ得タコトデアアルカラ、此法律案、即チ制限サレタ所ノ三ツノ條件ナルモノヲ撤廢シテ、吾々ノ主張スル所ノ昭和十二年一月一日以後ハ新クニ補助シナイト云フ此法律案ニ對シテ、吾々少數意見ヲ發表スル次第デアリマス、願クバ吾々ノ意見ヲアル所ニ御贊成ノ程ヲ切ニ願フテ置ク次第デアリマス

○議長(藤澤幾之輔君) 只今ノ少數意見ニハ成規ノ贊成アリト認メマス、仍テ少數意見ハ修正案トシテ成立致シマシタ、是ヨリ討論ニ入りマス、通告順ニ依ッテ順次發言ヲ許シマス——堀内良平君

〔堀内良平君發言〕

○堀内良平君 私人地方鐵道補助法案ニ付キマシテ、只今佐保君ヨリ御發言ニナリマシタ修正案ニ反對致シマシテ、政府提出ノ原案ニ贊成ヲ致ス者デゴザイマス、只今佐保君カラ御發言ニナリマシタ通り、此法律案ノ修正ノ骨子ハ、昭和六年即チ本年ノ一月一日以前ニ於キマシテ免許申請シタル分ト、尙ホ昭和七年一月一日以前ニ於テ免許ヲ得タル分、之ニ對シマシテハ補助ヲ與ヘルノデアリマスガ、ソレ以後ノ申請免許ニ對シテハ補助ヲ與ヘナイ、斯ウ云フコトガ

骨子ニナッテ居ルノデアリマス、而シテ今日私設鐵道ノ實際ノ状態ヲ考ヘテ見マス、既ニ私設鐵道ノ竣工サレテ居リマス線路ハ四千哩ニ達シテ居ル、今尙ホ未成線トシテ工事ニ著手シ、或ハ工事ニ著手ハマダ出來マセズモ、宛許ヲ取ッテ居リマス線路ガ、約三千哩ニ上ッテ居ルノデアリマス、而シテ尙ホ昨年ノ暮マデニ免許ヲ申請シテ居リマス分ガ、三千哩モアルノデアリマス、之ヲ總テ竣工致シマス、私設鐵道ハ一万哩ノ延長ニ達スルノデアル、是ニ於テ此私設鐵道ノ現今ノ狀況如何デアアルカト云フコトヲ一應申上ゲルコトガ、一番補助ノ標準ヲ決メル根本ノ助ケニナラウト思フノデアリマス、丁度私設鐵道ノ數ガ二百四十會社アリマスガ、以前ハ相當ノ成績ヲ擧ゲテ居リマシタケレドモ、只今ハ洵ニ不成績デアアルノデアリマス、不成績デアアルノデアリマシテ、二百四十會社ノ中無相當ノ悲境ニ陥ッテ居ル會社ガ百會社モアルノデ、是ハ色々ト交通機關ノ状態ガ變テ參リマシテ、以前交通機關トシテノ鐵道萬能時代ハ最早去ッテ居ルノデアリマス、今日ハ自動車ノ發達ヲ見ルコトニナリマシテカラ、此私設鐵道バカリデナク、國有鐵道ノ成績モ非常ニ惡クナタ、殊ニ私設鐵道ハ洵ニ短距離ノモノガ多イノデアリマシテ、二百四十會社アリマスルケレドモ、其中平均致シマスルト、僅ニ十六哩ノ平均デアアルノデアリマス、佐保君ハ自動車ト鐵道ハ、其自ラ分野ガ違フト、斯ウ仰シヤラレルノデアリマスガ、成程幾分違フ點モアリマスルケレドモ、何レノ國ニ於キマシテモ、モウ短距離ノ鐵道ハ皆自動車ノ爲ニ侵略サレマシテ、殆ド壽命ヲ保チ得ナイノデアリマス、日本ニ於キマシテモ其通りデ、短距離ノ私設鐵道ナドハ、非常ニ自動車ノ影響ナドヲ被リマシテ、今申上ゲタヤウナ悲境ノ状態ニ陥ッテ居ルノデアリマス

一體此地方鐵道ノ補助法ハマダ自動車ノ發達ノコトナドヲ考ヘマセヌ先キニ、此補助ノ方法ヲ決定サレマシテ、假令今日ニ延期サレテ來タモノデアリマスガ、此補助法ノ最初ノ趣旨カラ考ヘマスルト、鐵道ハ申スマデモナク收入ガ段々自然増收ニナリマシテ、今年五分ノ補助ヲシタモノガ、來年ハ四分補助ヲスレバ宜イ、順次ソレガ三分ニモ二分ニモ減ッテ、シマヒニハ補助ヲシナイデモ間ニ合フヤウナ結果ニナリマス、ソコデ補助ノ僅カノ金デモ、順繰リニ多數ノ會社ガ補助サレルヤウナ結果ニナルノデアリマスガ、此自動車運輸等ノ爲ニ迫害ヲ被リマシテ、收入ガ増スドコロデハナイ、却テ減ッテ來ル、鐵道ノ自然増收ト云フ原則ガ壞レテ、減收ニナルノガ多イノデアリマス、サウ云フ状態デアリマスカラ、中々補助ノ金ガ他ニ流通サレズ、故ニ豫算ハ相當ノ豫算ヲ取リマスルケレドモ、其補助ノ均霑サレル會社ノ數ト云フモノハ、一向ソレハ多クナラナイ、是ニ於テ將來是カラ新シク線路ヲ延長シマスル所ノ鐵道ニ補助ヲスルガ、或ハ既設鐵道ニシテ、今補助ノ恩典ニ浴シナイモノニ補助ヲ與ヘナケレバナラヌト云フコトノ、茲ニ二ツノ根本問題ガ起ッテ來ルノデアリマス、現ニ只今申上ゲマシタ通り、今既ニ開業ヲシテ居リマスル所ノ私設鐵道二百四十會社ノ中ニ於テ、百會社モ無相當ノ悲境ニ陥リマシテ、尙ホ續々ト無相當ノ悲境ニ陥ラントスル會社ガ多イノデアリマス、之ヲ救フハントスルニハ、如何ニスレバ宜イカ、色々ノ方法モゴザイマセウケレドモ、補助ヲ均霑スルト云フコトモ、無論是ハ一ツノ方法デアアルノデアリマス、然ルニ之ヲ段々無制限ニ私設鐵道ヲ造ルコトヲ獎勵致シマシテ、サウシテ此補助ヲ得トスル目的ヲ以テ鐵道ヲ建設スル者ガ今日マデ隨分多ク、殆ド私設鐵道ハ全部補助ヲ得トシテ建設ヲシタト申シテモ差支ナイノデアリマス、斯様ナ状態ヲ以テ尙ホ今後モ致シマスルナラバ、ヤハリ徒ニ此私

設鐵道ヲ延長スレバ、此補助ハ金額ガ足ラナクナリマシテ、非常ニ鐵道ノ營業成績ガ惡クナル、是ガ事業界ニ非常ナル悲影響ヲ及ボスヤウナ結果ニナルノデアリマス、併ナガラ此補助金ガ幾ラデモ無制限ニ政府ガ之ヲ支出シテ、私設鐵道ニ支給シ得ルヤウデアリマスルナラバ、或ハ其方法カラ援ケ得ルコトモアリマセウケレドモ、此補助金ハ御承知ノ通り國有鐵道ノ營業利益金ノ中カラ、之ヲ割イテ與ヘルノデアリマスカラ、國有鐵道モ現ニ皆御承知ノ通り、非常ニ目下ハ不況ノ状態ニ陥ッテ居ルノデアリマス、其中補助ヲ割イテ前年度ノ豫算ハ通過ハシテ居リマスルケレドモ、ヤハリ今後此金額ヲ殖ヤシテ、無制限ニ補助ヲ與ヘルト云フコトハ出來ナイダラウト思フノデアリマス、既ニソレガサウ云フコトノ出來カイト云フコトニナリマスルナラバ、今後新シク出來ル所ノ鐵道ヲ補助スルカ、或ハ既設鐵道ノ今窮境ニ陥ッテ居リマスル鐵道ヲ援ケルカ、此二ツニ分レルノデアリマス、救ニ私共ハ今後色々ノ自動車ノ發達等カラ、又道路建設其他ニ付テ、他ニ產業道路及自動車道路等ノ獎勵モアルヤウデアリマス、デアリマスルカラ鐵道ノ方ニ對シマシテハ、既ニ鐵道萬能トシテノ交通機關ヲ以テ任ジテ居タ時ヨリモ、稍、方法ヲ變ヘマシテ、サウシテ一面ハ自動車トカ或ハ道路トカ云フヤウナモノニ依ッテ、鐵道ノ使命ヲ其方ニ移ス方ガ、今日最モ適當ナル施設デアラウト考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)

以上ノ理由カラ致シマシテ、既ニ昨年暮マデノ間ニ申請ヲ致シテ居リマスル分ガ三千哩モアルノデアリマス、尙ホ未成線モ三千哩モアルノデアリマスカラ、今後六千哩ノ未成線ヲ適當ニ整理致シマシテ、既設鐵道ノ四千哩ト共ニ交通ヲ扱フコトニ致シマスルナラバ、モウ是デ稍、飽和ノ状態ニ達シテ居ルデアラウト云フコトノ、政府當局ノ御意見ニハ私共同意致シマスル者デア

一體此地方鐵道ノ補助法ハマダ自動車ノ發達ノコトナドヲ考ヘマセヌ先キニ、此補助ノ方法ヲ決定サレマシテ、假令今日ニ延期サレテ來タモノデアリマスガ、此補助法ノ最初ノ趣旨カラ考ヘマスルト、鐵道ハ申スマデモナク收入ガ段々自然増收ニナリマシテ、今年五分ノ補助ヲシタモノガ、來年ハ四分補助ヲスレバ宜イ、順次ソレガ三分ニモ二分ニモ減ッテ、シマヒニハ補助ヲシナイデモ間ニ合フヤウナ結果ニナリマス、ソコデ補助ノ僅カノ金デモ、順繰リニ多數ノ會社ガ補助サレルヤウナ結果ニナルノデアリマスガ、此自動車運輸等ノ爲ニ迫害ヲ被リマシテ、收入ガ増スドコロデハナイ、却テ減ッテ來ル、鐵道ノ自然増收ト云フ原則ガ壞レテ、減收ニナルノガ多イノデアリマス、サウ云フ状態デアリマスカラ、中々補助ノ金ガ他ニ流通サレズ、故ニ豫算ハ相當ノ豫算ヲ取リマスルケレドモ、其補助ノ均霑サレル會社ノ數ト云フモノハ、一向ソレハ多クナラナイ、是ニ於テ將來是カラ新シク線路ヲ延長シマスル所ノ鐵道ニ補助ヲスルガ、或ハ既設鐵道ニシテ、今補助ノ恩典ニ浴シナイモノニ補助ヲ與ヘナケレバナラヌト云フコトノ、茲ニ二ツノ根本問題ガ起ッテ來ルノデアリマス、現ニ只今申上ゲマシタ通り、今既ニ開業ヲシテ居リマスル所ノ私設鐵道二百四十會社ノ中ニ於テ、百會社モ無相當ノ悲境ニ陥リマシテ、尙ホ續々ト無相當ノ悲境ニ陥ラントスル會社ガ多イノデアリマス、之ヲ救フハントスルニハ、如何ニスレバ宜イカ、色々ノ方法モゴザイマセウケレドモ、補助ヲ均霑スルト云フコトモ、無論是ハ一ツノ方法デアアルノデアリマス、然ルニ之ヲ段々無制限ニ私設鐵道ヲ造ルコトヲ獎勵致シマシテ、サウシテ此補助ヲ得トスル目的ヲ以テ鐵道ヲ建設スル者ガ今日マデ隨分多ク、殆ド私設鐵道ハ全部補助ヲ得トシテ建設ヲシタト申シテモ差支ナイノデアリマス、斯様ナ状態ヲ以テ尙ホ今後モ致シマスルナラバ、ヤハリ徒ニ此私

リマス、斯様ナ趣旨ニ於キマシテ、今回ノ
原案ハ適當ト認マシテ、之ニ賛成ヲ致シ
マシタ次第アリマス、簡單ニ……(拍手)
○議長(藤澤幾之輔君) 豊田君

○豊田君 私人佐保君ノ提出致シマシタ
所ノ修正案ニ對シテ賛成ヲ致シ、堀内君
反對意見ニ對シテ一言反駁ヲ試ミント致ス
者デアリマス(拍手)

只今堀内君ノ所説ヲ伺ヒマスルト、色々
御議論ハアツタヤウデアリマスケレドモ、此
補助ヲ昭和六年一月以後ニ免許ヲ申請シタ
モノニ對シテヤラナイ、要スルニ今後地方
鐵道ニ補助ヲヤルノ要ナシト言ハル、論據
ハ、鐵道方今日收入ガ減デアアル、即チ鐵道
ノ益金ガ減テ居ルガ故ニ、是カラ多々益
出願セラレル所ノ鐵道ニ對シテ、補助スル
ノ力ガナイカラ廢メタガ宜カラウト、斯ウ
云フ議論ノヤウニ拜聴サレルノデス、現ニ
委員等ニ於キマシテモ、民政黨ノ委員ノ
中ニ於テハ、寧ろ此政府ノ成案ト云フモノ
ガ時代ニ應ハシナイモノデアアルガ、致方ナ
イ、與黨ノ立場デアアルカラ、贊成スルト云
フヤウナ聲ヲ聞イタヤウナ次第デアリマス
(拍手)果シテ一體今日ノ運輸收入ト云フモ
ノガ減ツノハ何ニ因ルカ、是ハ民政黨ノ諸
君カラ見ラレ、バ無理カラヌコトデアアル、
今日七百五十万圓ノ補助ヲ今後續ケルト云
フコトハ、今日ノ國有鐵道ノ状態カラハ至
難デアアルト言ハレルノハ、民政黨ノ諸君ガ
組閣以來執ツタ所ノ經濟政策ノ誤レルノ結
果、即チ鐵道ニ非常ナル打撃ヲ與ヘ、遂ニ
其結果ハ、諸君ガ既ニ御承知ノ通りニ、鐵
道方從來益金ヲ以テ賄ツテ居タ所ノ改良費
サヘモ不足ヲ告ゲテ、千二百万圓ト云フ巨
額ノ金ヲ名ヲ失業公債ニ藉リテ之ヲ賄ハナ
ケレバナラナイト云フ實狀ヲ呈シタノデア
リマス(拍手)デアリマスガ故ニ、是ハ要ス
ルニ民政黨ガ組閣以來執ツタ所ノ誤ツタ緊縮
政策、或ハ消費節約ノ宣傳ノ結果、國民生

活ガ萎靡シタル結果、鐵道ノ收入ガ減ジ、
即チ本年度ハ減收ガ六千万圓ニ達セントシ
テ居ルノデアリマス、吾々ヲ以テ見マスレ
バ、日本ノ今日ニ於キマシテハ、決シテ鐵
道ガ世界ノ各國、殊ニ歐米ノ諸國ト比較シテ
多イトハ思ハレナイデアリマス、民政黨
ノ諸君ノ中ニモ、更ニモト鐵道ヲ建設シタ
イト云フ御希望ノ方ガ多數アラウト思フ
デアリマス(拍手)是ハ唯民政黨ノ諸君ガ
誤ツタ公債政策或ハ非寡債主義、若クハ消費
節約、緊縮政策ニ提ハレタ結果、建設ヲ打
切ラレタ其結果デアアルト言ハナケレバナ
ラ、斯ノ如ク我國ノ産業ヲ發達セシメ、國
民生活ヲ裕カニシナケレバナラヌ今日、是
モ物價ノ高イノハ何ニ因ルカト云フト、鐵
道運賃即チ貨物ノ運賃ト云フモノガ生活費
ノ大部分ヲ占ムルカラデアアル、吾々ハモト
鐵道ヲ付ケテ、サウシテ即チ物價ノ圓滿ナ
ル分配ヲセシムルト云フコトガ必要デア
ルト思ヒマス、然ルニ民政黨ノ人ハ、何等國
民ノ實生活ニ關セズ、唯一部ノ金融業者ノ
機嫌ヲ取ツテ、非寡債主義ヲ唱ヘラレ、鐵道
ノ建設ヲ打切ツテ、其上地方鐵道ニ補助シ
ナイ、即チ自分ノ經濟政策ノ破綻ヲ補フ爲
ニ、今出願シテ居ル二百七十哩、二千万圓
ノ鐵道ニ、免許ヲ審查方遅レタト云フ口實
ノ下ニ、折角補助ガ出來ルト云フ見込ノ下
ニ出願シテ居ル者ヲ、本月末限り申請免許
ヲ得ナカッタラバ、補助ヲヤラナイト云フ
暴斷ヲナサルトコトニ對シテハ、吾々ハ贊成
ノ意ヲ表スルトコトガ出來ナイ、今日ノ鐵道
ハ吾々カラ見マスレバ、マダ一足ラナイ、
今日ハ私設鐵道ノ一万哩、國有鐵道ノ一万
哩、合セテ二万哩ニ達スルト云フ堀内君ノ
御意見デアアルガ、吾々ハ二万哩、三万哩デ
モ、日本ノ今日トシテハ足ラナイト考ヘマ
ス、故ニドウシテモ此私設鐵道ニ補助ヲシ
テ、私設鐵道ヲ發達セシムルコトガ、日本
ノ産業ヲ發達セシムル上ニ於テ必要デア
ルト思ヒマスガ故ニ、本案ニ贊成スル者デア

リマス(拍手)
○議長(藤澤幾之輔君) 是ニテ討論ハ終結
致シマシタ、是ヨリ採決ニ入りマス、先ヅ
豊田君外三名提出ノ修正案ニ對シテ採決
致シマス、此修正案ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ
望ミマス
〔贊成者 起立〕
○議長(藤澤幾之輔君) 起立少數デアリマ
ス、依テ修正案ハ否決セラレマシタ、次ニ
本案ノ委員長報告ハ可決デアリマス、委員
長報告ノ通り御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍チ委員長報告ノ通り可決致シマシ
タ、是ニテ本案ノ第二讀會ハ終リマシ
タ
○作田高太郎君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ
開カレンコトヲ望ミマス
○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メ
マス、仍チ直チニ第三讀會ヲ開キ
マス

地方鐵道補助法中改正法律案 第三讀會
○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議モアリ
マセヌカラ、本案ハ第二讀會議決ノ通り可
決確定致シマシタ(拍手)
日程第一、國立公園法案ノ第一讀會ヲ開
キマス——安達内務大臣
第一 國立公園法案(政府提出) 第一讀
會
國立公園法案
國立公園法
第一條 國立公園ハ國立公園委員會ノ意
見ヲ聽キ區域ヲ定メ主務大臣之ヲ指定
ス
第二條 本法ニ於テ國立公園計畫ト稱ス
ルハ國立公園ノ保護又ハ利用ニ關スル統
制及施設ノ計畫ヲ謂ヒ國立公園事業ト
稱スルハ國立公園計畫ニ基キ執行スベ
キ事業ニシテ道路、廣場、苑地、運動
場、野營場、宿舍其ノ他命令ヲ以テ指定
スル施設ニ關スルモノヲ謂フ
第三條 國立公園計畫及國立公園事業ハ
國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ主務大臣
之ヲ決定ス
第四條 國立公園事業ハ行政官廳之ヲ執
行ス
主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキ
ハ公共團體ヲシテ國立公園事業ノ一部
ヲ執行セシムルコトヲ得
行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者ハ勅
令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ特許ヲ
受ケ國立公園事業ノ一部ヲ執行スルコ
トヲ得
第五條 國立公園事業ノ執行ニ要スル費
用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リ
テハ國庫、公共團體ヲシテ之ヲ執行セ
シムル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、
行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ
執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔
トス
行政官廳國立公園事業ヲ執行スル場合
ニ於テ主務大臣特別ノ事由アリト認ム
ルトキハ其ノ執行ニ要スル費用ノ一部
ヲ公共團體ヲシテ負擔セシムルコトヲ
得
行政官廳ニ非ザル者國立公園事業ヲ執
行スル場合ニ於テ國庫ハ其ノ費用ノ一
部ヲ補助スルコトヲ得
第六條 國立公園事業ノ執行ニ依リ生ジ
タル施設ハ其ノ事業ヲ執行シタル者之
ヲ管理ス
主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキ
ハ公共團體ヲ指定シテ行政官廳ノ執行
スル國立公園事業ニ依リ生ジタル施設
ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得
前二項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ管理者
ヲ定メタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第一項及第二項ノ規定ニ依ル管理ノ費用ハ行政官廳之ヲ管理スル場合ニ在リテハ國庫、公共團體之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政官廳又ハ公共團體ニ非ザル者之ヲ管理スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

第七條 行政官廳又ハ公共團體ノ管理スル國立公園ノ施設ニ付占用又ハ使用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者ハ占用料又ハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得但シ前條第三項ノ規定ニ適用アル場合ヲ除ク

第八條 主務大臣ハ國立公園ノ風致維持ノ爲國立公園計畫ニ基キ其ノ區域内ニ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

一 工作物ノ新築、改築又ハ増築
二 水面ノ埋立又ハ干拓
三 鑛物ノ試掘若ハ採掘、砂鑛ノ採取又ハ土石ノ採掘
四 木竹ノ伐採
五 廣告物、看板其ノ他之ニ關スル物件ノ設置

第九條 主務大臣ハ國立公園ノ保護又ハ利用ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於テ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止セラレ又ハ措置ヲ命ゼラレタルガ爲損害

ヲ被リタル私人ニ對シテハ通常生ズベキ損害ニ限リ國庫之ヲ補償ス
勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫ハ第一項ノ規定ニ依リ一定ノ行爲ヲ著シク制限セラレタル爲損害ヲ被リタル私人ニ對シ其ノ損害ヲ補償スルコトヲ得

第十條 主務大臣ハ第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ前條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 國立公園ニ關シ實地調査ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障礙物ヲ除却スルコトヲ得但シ行政官廳ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ
第一項ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ同項但書ノ場合ヲ除クノ外其ノ行爲ヲ爲シタル者之ヲ補償スベシ

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル地方長官之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ズ

第一項但書ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ國庫之ヲ補償ス
第九條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 國立公園委員會ノ組織及權限ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得

第十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタルリスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 第八條第二項ノ規定、同條同項ノ許可ニ附シタル條件又ハ第九條第一項ノ命令若ハ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
附則
○國務大臣(安達謙藏君登壇)
只今議題トナシテ居リマス國立公園法案ノ提案理由ヲ申述ベタイト存ジマス

抑、國立公園ヲ設定スル目的ハ、優秀ナル自然ノ大風景地ヲ保護開發シテ、一般世人ヲシテ容易ニ之ニ親シマシムルノ方途ヲ講ジマシテ、國民ノ保健休養乃至教化ニ資セントスル爲デアリマス、我國ニハ國立公園トナルベキ天與ノ地域多ク、又一般國民ノ之ヲ利用セントスルノ風、年ト共ニ盛ニナリツ、アルニ拘ラズ、マダ此種ノ施設ノ見ザルベキモノナク、一般ノ利用上遺憾カカラザル狀況デアリマス、然ルニ國立公園ノ實現促進ニ關シマシテ、帝國議會ニ提出セラレタル建議及ビ請願ハ、第二十八議會以來今日マデニ實ニ百數十件ニ上リマシテ、

國民總意ノ那邊ニ在ルカ、親ヒ知ラレドデアリマス、内務省ニテハ國立公園ノ本質ト、國民ノ要望トニ鑑ミマシテ、優秀ナル自然ノ素質、土地ノ分布並所有關係等ヲ參酌シテ、全國ニ互リ十六箇所ノ候補地ヲ選定致シマシテ、大正十年以降逐次基礎的調査ヲ施行シテ、既ニ全部其完了ヲ告ゲタデアリマス、此調査ノ進行ニ伴ヒマシテ、數箇所ノ候補地ニテハ政府ノ統制アル對策ヲ待切レナイデ、其地元ニ於テ漫然ト種々ナル施設ノ經營ニ著手スルモノガアリマス、今ニシテ國方根本政策ヲ確立シテ地方ニ臨マナケレバ、他日國立公園ノ計畫事業ニ支障扞格ヲ招來スルノ虞ガアリマス、然ルニ一面ニ於テハ經濟事業ノ發達ニ伴ヒ、動モスレバ國立公園ノ生命タル、他ニ掛ケ替ヘナイ、大勝景ノ核心ヲ破壞スルガ如キ事例モ、往々惹起スルニ至リマシタノデ、今日ニ於テ國土計畫ノ理想ニ基キ、永遠ニ天然ノ公園トシテ保護開發スベキ區域ヲ劃シテ置クノ必要ガアリマス

若シ夫レ國立公園ヲ通ジテ我國ノ獨特ナル大風景ヲ、廣ク外國人ニ享用セシメルコトハ、彼ノ觀光施設ト相俟テ我國ノ國情ヲ海外ニ紹介シ、國際親善上寄與スル所多キハ固ヨリ、延テ國際貸借改善上ニ資スル所必ズヤ至大ノモノアリト考ヘマス、政府ハ前述ノ如キ内外ノ情勢ニ鑑ミ、之ヲ我方國情ニ照シテ劃切ナル國立公園政策ノ大綱ヲ決定シ、官民ヲシテ倚ル所ヲ知ラシムル必要ヲ認メ、昨年一月内務省ニ國立公園調査會ヲ設置シ、斯界ノ權威及ビ關係各廳ノ當局ヲ煩シテ、鋭意調査審議ヲ進メテ居リマス、今回提案致シマシタ所ノ國立公園法案ハ、實ニ右調査會ノ答申ニ基キテ成案ヲ得ルニ至ラタモノデアリマス、法案ノ骨子ハ

一、國立公園ノ指定、國立公園計畫及ビ國立公園事業ノ決定ハ、國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ、主務大臣之ヲ爲スコト
一、國立公園事業ノ執行及ビ其費用ノ負

一、國立公園ノ指定、國立公園計畫及ビ國立公園事業ノ決定ハ、國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ、主務大臣之ヲ爲スコト
一、國立公園事業ノ執行及ビ其費用ノ負

擔ハ、原則トシテ國之ニ當ルモ、地方ノ利益ト一致スルガ如キ特別ノ事由アリト認メラル、事業ハ、公共團體ニ命ジテ、其負擔ニ於テ之ヲ執行セシムルヲ得ルコト、又營利的事業トシテ成立チ得ルモノハ、民間ニモ特許スルコトヲ得ルコト

一、國立公園ノ管掌ハ主務大臣之ヲ行フハ當然デアアルガ、國立公園事業ノ執行ニ依リテ生ジタル施設ノ管理及其費用負擔ハ、原則トシテ其事業ノ執行者之ニ當ルコト

一、國立公園ニ關スル公用制限トシテハ、其風致維持ノ爲ニハ特別地域ヲ設ケテ、一定ノ行爲ニ付キ許可ヲ要スルコト、シ、又其保護利用ノ爲ニハ、一定ノ行爲ヲ禁止若クハ制限シ、又ハ必要ナル措置ヲ命ジ得ルコト、シ、尙ホ之ニ對シテハ相當補償等ノ途ヲ開キ、民間ノ利益ヲ保護スルコトニ力メタルコト等デアリマス

以上ハ國立公園法案ノ提案理由ノ概要デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントヲ希冀致シマス(拍手)

○議長(藤澤茂之輔君) 質疑ヲ許シマス——
青木精一君

(青木精一君發聲)

○青木精一君 私ハ只今茲ニ議題ニ相成リマシテ國立公園法案ニ付テ、二三ノ質問ヲ試ミントスル者デアリマス、此問題ハ多年衆議院ト致シマシテハ、沿革ヲ持ッテ居ル所ノ問題デゴザイマシテ、只今モ内務大臣ノ說明申シ、二十八回議會以來國立公園ニ關スル建議案ハ百五十數件ニ達シテ居ル、即チ明治四十四年ヨリ以來、此議場ニ於テ本問題ハ建議案或ハ請願等ニ依ッテ、相當論議審査ヲ重ネラレタル所ノ問題デアアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、而シテ尙ホ進ンデハ我黨ノ同志河上君、鈴木隆君ニ依ッテ、本院ニ數回ノ國立公園調査ニ關スル所ノ建議案、或ハ國立公園法制定ニ關スル建議案ト云フヤウナ形デ、度々提出通過ヲ致シテ居ル所ノ問題デゴザイマス、更ニ政府

ノ方ニ於キマシテモ大正十年以來、即チ原内閣以來國立公園ノ候補地調査ニ著手セラレマシテ、昭和二年田中内閣ニ至リマシテ、大體十六箇所ノ調査ノ完了ヲ告ゲタノデゴザイマス、尙ホ田中内閣當時ニ於キマシテハ、經濟審議會ニ於キマシテ、國際收支ノ均衡ヲ圖ル爲ニ施設スベキ所ノ方策如何ト云フ諮問事項ニ對シテ、外國人ノ渡來ヲ多カラシムル爲ニ、名勝ノ保存「ホテル」ノ増設、其他觀光視察ノ便宜トナルベキ諸般ノ施設完備ヲ圖ルコトト云フ答申ガ出テ居ルノデゴザイマス、田中内閣モ其豫算編成ニ當リマシテハ、調査機關ノ設定ニ對シテ内閣議ガアタノデゴザイマシタガ、當時財政ノ都合ニ依リマシテ、其調査機關ヲ設クルニ至ラナカッタノデゴザイマス、其趣旨ヲ現内閣方繼承セラレテ、即チ調査機關ヲ設置セラレタ、是ハ内務省傳統ノ一ツノ政策デアッタノデゴザイマス

ソコデ私ハ本案ニ付テ二三質問ヲ申上ゲタイノデゴザイマスガ、本案提出ノ理由ト致シマシテ「國立公園ヲ設定シ我方國大興ノ大風景ヲ保護開發シ一般ノ利用ニ供スルハ國民ノ保健休養上緊要ナル時務ニシテ且外審誘致ニ資スル所アリト認ム」是ガ要約セル所ノ本案提出ノ理由デゴザイマシテ、此理由ノ中ニ於キマシテ、國立公園ト云フモノヲ理解スル上ニ於テ、私共ハ二ツノ見方ガアルト思フノデアリマス、即チ大自然ヲ保護スルト云フコト、大自然ヲ開發利用スルト云フコト、此消極積極ノ二ツノ建前カラシテ、國立公園ノ計畫ガ成立ツベキモノデアルト思フノデゴザイマス、大自然ヲ保護スルト云フコトニ於キマシテハ、即チ千古斧鉞ヲ入レザル所ノ處女林、大森林、大原野、之ヲ完全ニ保存維持ヲ致シテ、其風景ヲ傷ケズ、又其處ニ棲息スル所ノ動物ノ保存維持ヲ致ス、高山植物ノ保存維持、或ハ其土地ニ固有ナル所ノ禽獸ノ保存維持ト云フヤウナコトニ力ヲ注イデ、教育上、

研究上ニ貢獻スル所ノ使命ヲ有スルモノデアアル、ソレト相伴ヒマシテ積極的方面カラ申シマスレバ、所謂開發利用、相當ナル設備ヲ致シ、施設ヲ致シテ、多數ノ民衆ヲ其處ニ遊覽セシムル、ソレガ爲ニハ「ホテル」ノ設備モ要リマセウシ、賣店ノ設備モ要リマセウ、道路ノ完全ヲ期スルコトハ固ヨリデゴザイマス、或ハ簡易ナル宿泊所デアアル所ノ小屋ノヤウナモノモ、相當ノ準備ヲ致サナケレバナラヌト云フハ通例ノコトデゴザイマス、斯様ニ文化的ノ施設ヲ致シマシテ、國民多數ヲ其處ニ誘導ヲ致スト云フコトニ相成リマスレバ、自動車ノ交通モ頻繁ニナリ、國民大衆ノ往來ガ烈シクナルト云フ結果ハ、前段申上ゲマシタ所ノ保護施設、自然ヲ保護シ、植物區域、動物區域ヲ保護維持スルト云フ方ノ事柄ニ對シテ、自然ニ民衆ノ侵入ニ依リマシテ、消極的ナル所ノ法的ノ使命ハ犯サレハシナイカ、是ト兩々相保テ國立公園ノ使命ヲ完ウスルノニハ、官吏當局者ガ相當ナル所ノ用意ガナクテハナラヌト思フノデゴザイマスルガ、安達内務大臣ハ此國立公園ノ消極積極ノ二大根本使命ノ調節ニ對シテ、如何ナル御腹案ヲ有スルノデアアルカ、此點ニ付テ明瞭ナル所ノ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

更ニ私ノ問ハントスル所ハ、此國立公園法案ニ依ッテ設ケラレル所、國立公園ノ規模企畫ト云フモノハ、如何ナル程度ニ爲サル御計畫デゴザイマスルカ、外客ノ誘致ヲ一ツノ使命ト致シテ居ル所ノ國立公園、ソレニハ相當外國ノ國立公園ノ規模ニ準ズベキ所ノ、大面積ヲ必要條件ト致サナケレバナラヌ、而シテ外國人ノ興味ヲ喚起スルニ足ルベキ所ノ相當ナル大規模、大企畫ヲ必要トスルト云フコトハ固ヨリデゴザイマス、伊太利ノ如キ小サナ國ニ於テモ、一國立公園ノ段別數方町歩ニ及ンデ居ル、國立公園ノ本家本元ト言ハレル所ノ米國等ニ於テハ、十五方町歩ノ大規模ナル所ノ國立公園ガ、盛ニ設ケラレテ居ルト云フヤウナ狀態デゴザイマスルガ、我國ニ於テ此法案ニ基イテ設定セントスル所ノ國立公園ノ規模企畫ハ、如何ナル程度ノモノデゴザイマスカ、只今安達内務大臣ノ御説明ノ演說ノ中ニ於キマシテモ、十六箇所ノ公園候補地ノ調査ヲ完了シタト云フコトデアリマスルガ、ソレハ私ノ調査シテ得タル所ノ材料ニ誤ガアルカナイカ、此境上ニ於テ改メテ御伺ヲ致スノデゴザイマスルガ、其十六箇所ノ公園候補地ト云フモノハ、一、上高地ヲ中心トスル國立公園、二、白馬山ヲ中心トスル國立公園、三、日光ヲ中心トスル國立公園、四、温泉ヶ嶽ヲ中心トスル國立公園、五、阿蘇山ヲ中心トスル國立公園、以上ハ原内閣當時大正十年度ノ調査ニ係ルモノデアアル、六、富士山ヲ中心トスル國立公園、七、大臺ヶ原ヲ中心トスル國立公園、八、磐梯山ヲ中心トスル國立公園、以上ハ大正十一年度高橋内閣、加藤友三郎内閣當時ノ調査ニ係ルモノデアアル、九、阿寒湖ヲ中心トスル國立公園、十、霧島山ヲ中心トスル國立公園、以上ハ大正十二年度加藤友三郎内閣、山本權兵衛内閣當時ノ調査デゴザイマス、十一、小豆島及屋島ヲ中心トスル國立公園、十二、伯耆大山ヲ中心トスル國立公園、以上ハ清浦内閣及護憲三派内閣當時、即チ大正十三年當時ノ調査デアアル、十三、和田湖ヲ中心トスル國立公園、十四、立山ヲ中心トスル國立公園、以上ハ加藤高明内閣、若槻内閣當時、即チ大正十四年度ノ調査デアアル、十五、大沼公園ヲ中心トスル國立公園、十六、登別温泉ヲ中心トスル國立公園、以上ハ田中内閣當時ノ昭和三年度ノ調査デゴザイマス、此徑路ニ依リマシテ是ダケノ國立公園候補地ガ内務省ニ於テハ最早動カスベカラザル所ノ候補地トシテ、調査ガ完了セラレテ居ルノデゴザイマスルガ、此箇所ニ誤ガアルカドウカ、之ニ付テ責任アル内務

大臣ノ御答辯ヲ願ヒタイノゴザイマス、而シテ尙ホ是レ以外ニ内務大臣ハ新ニ國立公園ノ候補地ヲ調査スル御方針デアルカ、新ニ候補地ヲ選ビ御方針デアルカドウカ、其點モ附加ヘテ御答ヲ願ヒテ置キタイノゴザイマス

以上ノ調査ニ見マスルト云フト、其面積ノ規模ハ、大ハ五万町歩ニ垂々トシ、小ハ一万町歩ト云フヤウナ程度ノモノデアアルヤウニ考ヘラレルノゴザイマスルガ、外客招致ノ計畫トシテ國立公園ヲ設定セラレル以上ハ、少クトモ外國人ヲシテ、又内地人ヲシテ、其國立公園利用ノ上ニ、相當ナル興味ト深サトヲ感ゼシメルダケノ、用意ト計畫トガナクテハナラヌト考ヘルノゴザイマスガ、茲ニ例ヲ以テ内務大臣ノ御答ノ便宜ノ爲ニ申上ゲテ見レバ、東京近在ニ於キマシテハ、日光ノ國立公園候補地ト云フコトハ、其沿革カラ申シテ、勳カスベカラザル所ノ候補地タルコトヲ失ハナイノゴザイマスガ、此日光ノ中心トシテ那須、鹽原ヲ包含シ、又奥日光カラ續イテ丸沼、尾瀬沼方面ニ延ビ、又渡良瀬川ヲ挾ンデ足尾ヲ經、群馬縣ノ赤城山嶽名山妙義山等ヲ道路ニ依テ連絡スル、其位ノ大規模ノ國立公園ヲ御設定ニナルヤウナ御計畫デアルカドウカ、是ハ一例ニ過ギマセヌガ、少クトモ二ツノ縣ニ互ニテ名勝名地大自然ヲ開拓スルト云フヤウナ、其位ノ大規模ナル所ノ國立公園ヲ御設定ニナルナカッタラバ、外國人ノ眼ニ興味ヲ惹クヤウナ目的ガ外レダラウト思フヤウナ次第ゴザイマス(拍手)

尙ホ國立公園ト幾多ノ産業ノ事業トノ衝突ニ付、一言御質問申上ゲタイノゴザイマスルガ、殊ニ此電氣事業、電氣工事ガ段段進歩致スニ付キマシテ、電氣業者ハ段々大自然ノ懷ニ侵入ヲ致シテ、其發電工事ニ依テ大風景ガ損ゼラレテ居ル所ノ箇所ハ、枚擧ニ追ナイノデアアル、殊ニ其事例トシテ有名ナノハ、黒部川溪谷ノ日本電力ノ工

事ニ依ッテ、彼ノ溪谷ノ自然美ガ大ニ損ゼラレテ、一時大ナル所ノ問題ヲ惹起シタコトハ、豈單リ黒部川ノミナランヤ、到ル處ニ於テ其憾ヲ持ツモノデゴザイマスルガ、此國立公園區域トシテ指定シタル所ノ、區域内ニ於ケル所ノ電氣工事施設ニ對シテハ、如何ナル御取締ヲ今後爲サルノデアアルカ、又既ニ其地域内ニ於テ水利權ヲ有スル所ノ電氣事業ニ對シテハ、其工事ヲ制限ナサルノデアアルカ、或ハ禁止ナサルノデアアルカ、新ニ利權ヲ求メントスル所ノ出願ニ對シテハ、其區域内ノ利權ハ不許可ニ終ラシムルノデアアルカドウカ、此點ニ付ハ、キリシタル所ノ方針ガナクテハナラヌ管デアアルト思フノデゴザイマス、尙ホ日光ノ國立公園區域ニ於キマシテ、先日モ他ノ趣意カララシテ、栗原君ニ依ッテ本議場ノ問題ニナリマシタガ、足尾銅山ノ煙毒ニ依ッテ、日光中禪寺湖ヲ中心ト致シテ、アノ大森林地帯ガ年々其煙毒ノ害ヲ被リマシテ、山及森林ガ枯果テントスルヤウナ傾向ヲ呈シ居ルノデゴザイマス、ノミナラズ渡良瀬川沿岸ノ森林地帯モ、此煙毒ノ爲ニ大ナル害ヲ被リマシテ年々森林ハ荒廢致サント致シテ居ルノデゴザイマス、政府ハ如何ニ眼ヲ掩ウテ、此悲惨ナル所ノ事實ヲ見ザラント欲スルモ、顯然タル所ノ事實ハ天下公知ノ事實デゴザイマス、諸君、國寶ノ大風致、大森林ガ煙毒ノ爲ニ侵サレテ、サウシテ今ヤ中禪寺湖ノ表ニマデ、其煙毒ノ被害ハ及ンデ、森林ノ頭ヲ掠メツ、アルヤウナ状態デゴザイマス、足尾銅山ノ事業ノ産業的、經濟的價值ハ、簡單ニ之ヲ否認スルコトハ出來マスマイケレドモ、新ニ茲ニ國立公園法ヲ設定ヲ致シテ、國立公園區域ヲ指定セントスル所ノ現内閣ニ於キマシテハ、此慘澹タル所ノ煙害ノ處置ヲ如何ニスルノデアアルカ、斯様ナル事例ハ豈日光ノミナランヤ、各所ニ於テ大小ノ差コソアレ、其弊害ヲ認メラレテ居ルノデゴザイマスルガ、是等ニ對シテモ

如何ナル處置ヲ、今後此煙毒防止ノ上ニ執ラレル御考デアアルカ、之ニ付テ確カカリシタル所ノ御答辯ヲ願ヒタイノデゴザイマス

更ニ本法ノ施行期日ハ、勅令ニ讓ラレテ居ルノデゴザイマスルガ、政府ハ本案ガ兩院ヲ通過致シタナラバ、何時之ヲ施行セラレル御方針デゴザイマスルカ、其施行期日ヲ御伺致シタイノデアリマス、而シテ又本法第一條ハ「國立公園ハ、國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ區域ヲ定メ主務大臣之ヲ指定ス」本法ノ重心ハ第一條ノ國立公園委員會ニ置カレテアルノデゴザイマス、其國立公園委員會ト云フモノ、組織、權限ハ如何ナルモノデゴザイマスルカ、先般通過シタル所ノ豫算ニ於テモ、一万三千有餘ノ此委員會ノ費用ガ要求セラレテ居タノデゴザイマスルカ、其組織、權限等ノ勅令要項ニ付テ、希クハ當席上ニ於テ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

尙ホ本法ニ依ル國立公園ノ計畫ハ、政府、地方公共團體、或ハ之ニ利害ヲ有スル所ノ個人、或ハ民間ノ協力ニ依ッテ、經營管理セラレルト云フヤウニ見受ケラレルノデゴザイマスルガ、一體此國立公園ニ對スル所ノ政府ノ國費ハ、一公園ニ對シテ大體ノ位御出費ニナツテ、設備ヲ完成セラレル所ノ御方針デアリマスルカ、又左様ナ具體的ノ事ハ申上ゲラレナイト御答辯ニナルカモ知レマセヌケレドモ、此處ハ實ニ大切ナ所デゴザイマシテ、ウツカリ國立公園熱、國立公園要望ノ白熱的の地方民ノ心理状態ニ乘ジテ、地方ニノミ此國立公園ニ關スル所ノ經費ヲ、將來多ク負擔セシメルト云フコトニナツタラバ、國立公園ノ爲ニ地方ハ大ナル苦痛ヲ永久ニ忍バケレバナラヌト云フ結果ニナルノデアリマス、(拍手)故ニ國立公園ニ關スル國庫ノ負擔、地方負擔ノ、其大體ノ歩合位ノ約束ノ聲明ハ、此席上ニ於テ御伺スルノガ當然デアルト心得マシテ、

之ヲ以テ第一段ノ質問ヲ終了致シマス(拍手)

尙ホ本法ニ依ル國立公園ノ計畫ハ、政府、地方公共團體、或ハ之ニ利害ヲ有スル所ノ個人、或ハ民間ノ協力ニ依ッテ、經營管理セラレルト云フヤウニ見受ケラレルノデゴザイマスルガ、一體此國立公園ニ對スル所ノ政府ノ國費ハ、一公園ニ對シテ大體ノ位御出費ニナツテ、設備ヲ完成セラレル所ノ御方針デアリマスルカ、又左様ナ具體的ノ事ハ申上ゲラレナイト御答辯ニナルカモ知レマセヌケレドモ、此處ハ實ニ大切ナ所デゴザイマシテ、ウツカリ國立公園熱、國立公園要望ノ白熱的の地方民ノ心理状態ニ乘ジテ、地方ニノミ此國立公園ニ關スル所ノ經費ヲ、將來多ク負擔セシメルト云フコトニナツタラバ、國立公園ノ爲ニ地方ハ大ナル苦痛ヲ永久ニ忍バケレバナラヌト云フ結果ニナルノデアリマス、(拍手)故ニ國立公園ニ關スル國庫ノ負擔、地方負擔ノ、其大體ノ歩合位ノ約束ノ聲明ハ、此席上ニ於テ御伺スルノガ當然デアルト心得マシテ、

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 只今青木君ノ御質問ノ初メニ當リマシテ、今日マデノ國立公園問題ニ關スル沿革ノ御話ガアリマシタガ、是ハ其通リト私考ヘマス、全ク歴代ノ内閣ニ於キマシテ、此問題ハ漸次調査ガ進捗致シマシテ、ヤツト此處デ一通リノ調査付キマシテ、始メテ現内閣ガ提案スルニ至リマシタカラ、大體ニ於テ歴代ノ内閣ガ調ベラレタノガ集テ出來マシタコトデ、是ハ黨派的ノ意味モ何ニモナクシテ、全ク事務的ニ此處マデ進行シタモノデアリマスカラ、只今青木君ノ御述ノ通り、私ハ茲ニソレヲ肯定シテ置キマス

而シテ此公園内ニ於ケル所ノ保護開發——此大自然ノ美ヲ保護開發スルト云フコトモ、御話ノ通りデアリマス、ソレカラ植物或ハ動物ナドノ保護ニ付テ、ドウ云フ考ヲ持ツカト云フトデアリマスガ、其邊ノコトハ國立公園計畫——即チ統制及施設ノコトニ付キマシテ、國立公園ノ計畫ヲ致ス積リデアリマスカラ、其折ニ動植物ノ保護等ノコトモ能ク決メテ積リデアリマスソレカラ國立公園ノ規模如何、是ハ御尤ナ御尋デアリマシテ、政府トシテ考ヘテ居リマスル所ニ於キマシテハ、我國ヲ代表スル天然ノ大風景デ、海外ニモ十分誇ルニ足ルダケノ資格ノアル處ヲ國立公園ト致シタイ、頗ル大規模デアルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、其坪數トカ何ト云フヤウナコトヲ此處デ豫メ早計ニ御答スル譯ニ行キマセヌガ、無論數方町歩ニ互リ、或ハ數縣ニ跨ガル規模デアルト云フコトダケ申上ゲテ置キマス

後候補地ヲ決定致ス積リデアリマス

日光ノ區域ナドノ御尋ガアリマシタガ、其邊ノコトヲ豫メ此處ヲ私ガ申上ルコト云フコトハ早計ト考ヘマス、是ハ委員會ノ決定ニ俟タネバナラヌト考ヘマス

ソレカラ産業ト衝突、即チ電氣事業ト此國立公園ノ設計ト衝突ト云フコトノ御尋デアリマシタ、是モ御尤ナコトデアリマスガ、是ハ豫メ此處ヲ決メマシテ御答スルト云フコトハ、至難ナコトデアリマス、其地方々々ニ依テ、電氣事業ノ發達ハ、是ハ無論圖ラネバナリマセヌガ、ソレデ大自然ノ美ヲ害セナイヤウナコトモ、亦十分考ヘナケレバナリマセヌ、其間ノ調和ニ付キマシテハ、實地ニ就テ決定スルヨリ外ハナイト考ヘテ居リマス

ソレカラ尾尾銅山ノ煙毒ノ事ニ付キマシテハ、是モ此國立公園問題ニ伴ヒマシテ、今後十分調査研究シテ善處スベキモノト考ヘテ居リマス

ソレカラ施行期日ノコトハ、是ハ勅令ヲ以テ定メマスガ、只今考ヘテ居ル所ニ依リマスルト、本法案ガ兩院ヲ通過致シマシタ後、假ニ數箇月間ヲ以テシマシテ、其間ニ諸般ノ準備ヲ致シマシテ、サウシテ實行致シタイ、先ヅ何カラ實行スルカト申シマス、國立公園委員會ヲ作ルコトガ第一著手ト考ヘマス、其人ハドウ云フ人ヲスルカト云フト、是ハ其途ニ最モ遠隔深キ人ヲ、私ハ選任シタイト考ヘテ居リマス

ソレカラ經費ノコトハ十分注意致シマシテ、今後ノ負擔ノコトモ、故ラ民間ニ之ヲ多ク負擔セシムルト云フヤウナコトハナイヤウニ注意致ス積リデアリマス

〔青木精一君登壇〕

○青木精一君 洵ニ内務大臣ノ御答辯ハ、是ハ白イカ、ウソソレハ白イカ答ヘルダケノモノデアッテ、一ツモ私ノ申上ル趣意ニ

對シテ、政府トシテノ保護的ノ意味ヲ與ヘテ居ナイノデアリマス、斯様ナ所ノ答辯ヲ伺フ爲ニ、貴重ナル時間ヲ此壇ニ費スコトヲ私ハ欲シナイノデアリマス、殊ニ施行期日ノ如キハ、明カニ茲ニ明示セラレテ、何等差支ノナイ性質ノ問題デアアル、他ノ問題ト性質ハ異リマシテ、國立公園法ノ施行期日ヲ、豫メ何時ニシヨウカト云フヤウナコトハ、何モ惡影響ヲ被ラナイノデアアル、殊ニ此國立公園委員會ノ經費ノ豫算ハ、既ニ衆議院ニ於テ協贊ヲ得テ居ルノデアアル、其國立公園委員會ノ組織權限等ニ付テ、少シモ御説明ガナイト云フコトハ、洵ニ衆議院ヲ侮辱シタル所ノヤリ方デアリマス、今少シ斯様ナル所ノコトニ付テ、ハッキリシタル御説明ヲ爲サルガ宜シイ、安達内務大臣ハ系統的ニ御分リニナッテ居ルカ、居ナイカ分ラヌケレドモ、ドウモ新シガリノ辯ガアッテ、國立公園法案デアルトカ、或ハ婦人ノ公民權案デアルトカ、或ハ衆議院議員選舉權年齡低下デアルトカ、動モスレバ近代思想ニ觸レタカノヤウナ案ヲ、兎ノ糞ノ如クボツリノト取扱テ居ルノデアアル、又此國立公園ノ立案ニ付テ、アナタガ果シテ此國立公園ノ近代ノ使命ヲ、衷心カラ御理解ニナッテ居ルカドウカ、御理解ニナッテ居ル所ノ内務大臣デアラナラバ、今少シ此問題ニ對シ、此議場ニ對シテ、具體的ナル所ノ原理カラ御説明ニナラナケレバナラヌ管デアアル、サウシテ何ダカ新シガッテ、時代カブレラシヤウナ案ヲ、ボツリノト扱フカト思フト、一面ニハ頑冥不韌ナル所ノ警察政治「スパイ」政治ヲ行ヒ、アナタノ頭ノ中ニハ、確ニ大ナル時代の矛盾ガアル(拍手)

若シアナタガ國立公園其他ノ文化的ノ立法ニ、眞劍ノ御盡力ヲナサラウト云フ所ノ誠意ト理解ガアルナラバ、救護法ノ施行ナドニ付テ躊躇セラル、管ガナイ(拍手)アナタノヤッテ居ル所ノ議案ノ取扱方ハ、徒ニ新時代ニ迎合シ、人氣ヲ博セントスル所ノ黨路

的ノモノデアアル、此國立公園法案ノ如キモ、或ハ恐ル、其内務大臣ノ職權ヲ以テ民政黨ノ黨略ニ利用セラレヤセヌカ、是ガ最モ吾等ノ恐ル、所デゴザイマス、若シサウデナイトスルナラバ、私ノ質問ニ對シテ、モウ少シ納得シ得ルダケノ御説明ヲ敢テ要求スルモノデゴザイマス

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 私ノ先ニ御答致シマシタ所デ、十分趣旨ハ徹底シタ積リデアリマス、施行期日ノ事モ、本案ガ兩院ヲ通過シタ後、數箇月間ノ期間ヲ置イテ、而シテ後ニ實行スルト云フコトヲ明白ニ申上ゲテ居リマスカラ、ソレダケデ明カデアリマス、最後ニ此問題ニ付テ黨略ニ利用スルト云フコトハ絕對ニアリマセヌ、左様ナコトハアナタノ邪推デアリマスカラ、ドウゾサウ云フコトハ全然頭ニ持タズニ、本問題ヲ御審議アラントト希望致シマス(拍手)

〔國務大臣小泉又次郎君登壇〕

○國務大臣(小泉又次郎君) 青木君ノ前段ニ於ケル御質問ニ對シテ簡單ニ御答致シタイト思ヒマス、青木君ノ御質問ノ要旨ハ、國立公園ノ區域内ニ於テ、電氣事業ノ工事ハ自然美ヲ損スルモノガアルカラ、現在水利權ヲ有シテ居ルモノノ處分ヲドウスルカ、又新ニ出願セントスルモノニ對シテハ、如何ナル方針ヲ執ルカ、斯様ニ御質問ノ趣意ヲ承クデアリマスガ、從來發電所ノ許可ヲ致シマスニ付キマシテハ、其地方ノ利害關係ハ勿論デアリマス、殊ニ自然美ヲ害セナイヤウニ、風致ヲ損セザルヤウニ注意ヲ拂ヒマシテ、地方長官ニ於テモ篤ト此點ニ重キヲ置イテ調査ヲ致シマシテ、其結果大自然ノ風致ヲ著シク損セナイト云フコトニ目途ヲ立テマシテ、許可致スト云フ方針ヲ執テ居ルノデアリマス、而シテ今後國立公園ノ設立ヲ見タ上ニ於キマシテハ、尙ホ一層御質問ノ趣意ニ則リマシ

テ、適當ノ方法ヲ講ジタイト考ヘテ居リマス

此際特ニ私カラ一言申上ルテ置キタイコトハ、如何ニ大自然美ヲ保存致シタイト思ヒマシテモ、申スマデモナク科學ノ進歩ニ伴ヒマシテ、其科學ノ發達ニ從ヒマシテ、自然美ハドウシテモ自然ニ損セラレルト云フコトハ、數ノ免レナイ所デゴザイマス、科學ノ進歩發達ニ伴フタル結果ガ、全然自然美ヲ其儘保存シテ置クト云フコトハ、到底是ハ出來ナイト思ヒマス、之ニ依リマシテ進歩セル科學ノ力ニ依ッテ、サウシテ自然美ヲ害シナイヤウナ、ソコニハ人間ノ知慧ヲ以テ、適當ナル施設方法ガアルト確信シテ居ルノデアリマス、其點ダケヲ御答致シテ置キマス

○議長(藤澤幾之輔君)

岩本武助君 岩本武助君 岩本武助君 只今議題トナッテ居リマス國立公園法案ニ付キマシテ、同僚青木君カラノ御質問モアリマシタガ、尙ホ私ハ青木君ノ御質問ニ重複致シマセヌ範圍ニ於テ、四五ノ質問ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、我國ニ於キマシテハ、既ニ大正十年カラ國立公園ノ基礎調査ヲ始メマシテ、既ニ今日十六箇所ノ候補地ノ調査完了ヲ致シテ居リマスルコトハ、明カナ事實デアリマス、併ナガラ今日迄此國立公園ニ付テノ觀念ヲ國民ニ示サナカッタ爲ニ、今日迄議會ニ於テ請願トナリ建議案トナッテ、澤山ノ案ガ出テ居リマスケレドモ、其中ニハ例ヘバ都市公園ヲ觀念ト致シマシテ、此國立公園ヲ類推致シタモノモアリマス、或ハ地方ノ其土地々々ノ風光ヲ他ニ宣傳ヲセンガ爲ニ國立公園ノ名ヲ利用シタヤウナ請願モ、建議案モアルノデアリマス、而シテ今日最モ甚シキハ、單ニ地方的風景ヲ國立公園ナリ此美名ヲ藉テ地方ニ宣傳致サウト云フヤウナモノマデ現レテ來タノデアリマスガ、今日此國立公園法ナルモノガ現レマシテ、

之ヲ見マス、日本ノ國立公園ナルモノハ、即チ我國天與ノ大風景ヲ保護開發シ、又一面ニハ國民ノ保健休養、又其一面ニハ外客誘致ノ場所ニ致ス、斯様ナコトニ限定サレタノデアリマスガ、是ニ於テ私ハ御伺ヲ致シタイ、今日此國立公園ヲ指定致シマス上ニ於テ、此三ツノ條件ガ具備致サナケレバ指定ヲ致サナイノデアルカドウカ、即チ非常ナ大自然デアリマシテ、サウシテ國民ノ保健、或ハ教化ニ資スル點ハ若干薄イ、或ハ外人モ此處ニ遊ビニ來ルカ、來ナイカ分ラナイ、併ナガラ非常ニ絶景デアル、卓絶シタ風光デアルト云フヤウナ場所モアラウト考ヘル、デアリマスルカラ私ハ兎ニ角此三ツノ條件ガ具備シナケレバ、國立公園トシテ指定ヲシナイノデアルカ、又一ツノ大キナ條件サヘ具備シテ居レバ、國立公園トシテ指定ヲ致スノデアルカ、此點ヲ先ヅ御伺致シタイノデアリマス、而シテ尙ホ茲ニ御伺致シタイノハ、大體我國全國ノ此風光ハ、東洋ノ瑞西トシテ之ヲ見テ宜シノデアアル、即チ瑞西ハ風景立國ヲ以テ國ヲ建テ居リマス、斯様ナ風ニ極東ニ於テ、我國ハ歐洲ノ瑞西ト同ジデアアル、斯ウ云フヤウナ風ニ見テ、内務大臣ハ國立公園ヲ指定致シタノデアルカ、私ハ此點ヲ御伺スルノハ外デモアリマセヌ、近來現内閣ハ客引營業ヲ開始致シテ居ル、即チ國際觀光局デアアル、所ガ近來此國際觀光局アタリデハ、此大ナル國立公園ノ問題ヲ頻ト論議致シテ居リマス、私共ハ考ヘマス、此外客ヲ誘致致ス如キハ、最モ末節ノ問題デアリマシテ、所謂大自然ヲ保護シ、或ハ國民ノ保健、教化ニ資スルト云フコトガ、最モ大切ナルコト、信ジテ居ルノデアリマス

次ニ此國立公園ノ指定ニ付テ御伺ヲ致シタイ、是ハ此法案ニ依テ見マス、國立公園調査委員ノ意見ヲ聽イテ、サウシテ此地區ヲ内務大臣ハ指定ヲ致ス、斯様ニテ居リマスガ、私ノ特ニ御伺致シタイコトハ、内務大臣ハ國立公園調査委員ノ意見ヲ、ドノ程度マデ尊重ナサルカ、若シ此國立公園調査委員ノ意見ヲ尊重シナカッタラバ、此國立公園ノ委員會ト云フモノハ何等用ヲ爲サナイ、又權威ガナイノデアアル、ト申シマスルノハ、色々ナ點ガアリマス、即チ先刻青木君ガ申上ゲマシタ十六箇所ノ國立公園ノ候補地ニ付テモ、現ニ大正二年内務省ノ衛生局ノ編纂致シマシタ本ヲ見テモ、大正二年迄ハ阿蘇ハナカッタ、然ルニ大正二年後ニ於キマシテ、第五位ニ阿蘇國立公園ト云フモノガ現ハレテ來テ居ル、私ハ決シテ阿蘇ハ安達内務大臣ノ出身地デアルカラ、アタガ爲スタノデアルトハ申シマセヌ、併シテ決定シナイ今日デサヘ、斯様ナモノガ見エテ居ル以上ハ、私ハ此委員會ノ意見ヲ、ドノ程度迄御尊重ナサルカト云フコトヲ聽イテ置ク必要ガアル

次ニ私ハ候補地ノ決定ニ付テ御伺ヲ致シタイ、十六ノ候補地ノアルコトハ申スマデモアリマセヌガ、十六ノ候補地ノ中何箇所ヲ指定シ、又指定スル上ニ於テハ之ヲ全國的ニ見テ平等ニ、所謂適當ナル分布ヲ致スノデアルカ、又ハ先程申上ゲタヤウニ、三ツノ條件ガ具備シテ居レバ、一ツ所ニ幾ツ塊、テモ宜イ、又絕對ニ無クテモ宜イ、斯様ニ御方針デアアルカドウカ、元來國立公園ノ發達ノ歴史ヲ見マシテモ、亞米利加等ニ於テハ、初メニ於テハ所謂二流、三流ノ候補地ヲ選定シタヤウナ傾向ガアリマシタガ、現在ニ於テハ其非ヲ悟テ、今日ハ非常ニ嚴選主義ニ相成テ居ル、而シテ我國ノ如キ國土ノ非常ニ狭イ所ニ於テ、十六ノ候補地ヲ作テ、之ヲ如何ヤウニ御取扱ニナルカ、之ヲ御伺致シタイト思ヒマス

又之ヲ決定致ス上ニ於テ、此候補地ノ多クハ國有林デアリマスカラ、即チ國有林ヲ持シテ居ル所ノ候補地ヲ先キニ御決メニナシテ、民有林若クハ公有林ノ澤山含マレテアルヤウナ處ヲ後ニ廻ハスモノデアルカ、又左様ナ事ハ考慮セズシテ決定ナサルノデアアルカ、此點ヲ御伺致シタイノデアリマス、殊ニ御伺シナケレバナラヌコトハ、此十六ノ候補地ナルモノハ、北海道、本州、四國、九州ニ限ラレテ居ルノデアアル、故ニ朝鮮、臺灣、樺太ニ於テハ、一箇所ノ候補地モナイノデアリマスカ、併シ臺灣ニハ新高山ガアル、朝鮮ニハ金剛山ガアル、斯様ナ風ナ所ハドウ致ス御考デアアルカ、是モ御伺致シタイノデアリマス

次ニ御伺致シタイコトハ、國立公園ト天然公園ト、而シテ國家記念物、所謂史蹟名勝天然記念物ト、此三ツノ區別ノ取扱ヲ如何ナサルノデアアルカ、即チ此國立公園ノ御取扱ハ内務省ガナサル、然ルニ史蹟名勝天然記念物ノ御取扱ハ、目下文部省ガ致シテ居リマス、或ハ又此中ニ於テ名勝地トシテ保安林ニ編入サレタヤウナ場所ハ、農林省デ之ヲ管轄ヲ致シテ居ル、斯様ナ風ニ國立公園ト天然公園、或ハ國家記念物、斯様ナモノヲ國立公園ヲ指定致ス上ニ於テ、ドウ御取扱ニナルカ、御伺致シタイノデアアル

又次ニ御伺致シタイコトハ、國立公園トシテ指定致シマシタ結果トシテ、國有林ガ指定區域ニ這入ル、殊ニ國有林ノ區域ノ中デ、國立公園ノ特別地域ニ這入ルヤウナ場所ガ澤山アルト思ヒマスルガ、斯様ナ場合ニ於テ、農林大臣ハ悉ク之ヲ御認メニナルカドウカ

又次ニ御伺致シタイコトハ林野整理トノ關係デアリマス、現在我が農林省ニ於キマシテハ、十數年ニ亙ル林野整理ノ計畫ヲ樹テテ居リマス、此計畫ノ内容ヲ見マスルト、十數年間ニ亙テ、一定ノ地域ノ國有林ヲ拂下ゲテ、一定地域ノ保安林ヲ買上ゲルノガ即チ林野整理ノ原案デアリマスガ、此國立公園ノ地域ノ中ニ、若シモ斯様ナ計畫地ヲ這入テ居リマシタ場合ニハ、如何様ニ御取扱ヲナサルカ、又一面ニ於テハ——勿論買上ノ計畫ノ方デアリマスルガ、保安林ニ編入シタ場所ヲ買上ゲル計畫ヲ致シタ場合ニハ、ドウ御取扱ニナルカ、即チ拂下ヲ爲シ、買上ヲ爲スト云フヤウナ場合ニ、如何ニ御取扱ニナルカ、御伺致シタイ

ソレカラ次ニ御伺致シタイノハ、農林省ノ年々行テ居リマスル官行伐採ノ施業案ノ中ニ、此地域ガ入テ居リマシタ場合ニハ、ドウ御取扱ニナリマスカ、此點ヲ御伺致シタイ

次ニ御伺致シタイノハ、公有林或ハ私有林ガ國立公園ノ地域ノ中ニ這入テ、而モ特別地域ニ這入シタ場合ノ補償ノ問題デアリマス、此國立公園法ヲ見マスルト、第九條ニ規定ヲサレテ居リマスルガ、非常ニ此文言ガ漢ト致シテ居リマシテ、例ヘバ通常補償スベキ損害ニ限テ國庫ガ之ヲ補償スルトカ、或ハ主務大臣ガ之ヲ決定スルコトヲ得ルトカ、斯様ナコトヲ書イテ居リマスルガ、此林業者ニ對シテ從來モ國土保存デアルトカ、或ハ魚付林ノ關係デアルトカ、或ハ砂防、土砂拵止デアルトカ云フ意味デ、個人ガ持テ居ル山林ニ保安林ノ制度ガ設ケラレテ居ル、又其上ニ文部省ハ天然記念物ニ關スル規定ヲ設ケテ、個人ノ原野ニ對スル所有權ヲ蹂躪致シテ居ル、然ルニ又今回其上ニ斯様ナ規則ヲ設ケテ、結局行政訴訟ヲヤツテ、何時此代償ガ取レルカ、取レルカ分ラナイト云フヤウナコトヲサル、コトハ、即チ民間ノ林野ヲ有シテ居ル者ハ、三重ニ所有權ヲ侵害サル、ト言テ宜シノデアリマス、故ニ若シモ内務大臣ガ本當ニ公有林若クハ私有林ヲ考ヘルノナラバ、此補償ヲ致ス規則ヲ別ニ——丁度私設鐵道ヲ買収ヲ致シマスル規則ガアリマスルガ如ク、斯様ナモノヲ設ケナケレバ、此法デハ洵ニ橫暴千萬、即チ國立公園ナル美名ノ下ニ、吾等ノ所有權ヲ侵害スルモノト言テ差支ハナイノデアリマス(拍手)故ニ此點ニ付テハ特ニ明確ナル御答ヲ得タイノデアリマス

又此國立公園ノ施設ニ關シテ御伺致シタ
イ、ドウモ此案ニ依テ見マスルト、或ハ國
家ガ獨自ニ經營ヲ致スノデアアルカ、又民間
ニ於テヤラスノデアアルカ、全ク御都合主義
ノ方針ヲ御執リニナシテ居ルヤウニ見エ
ル、由來諸外國ノ例ニ依テ見マスルニ、國立公
園ノ施設ニ關シテハ、國家自ラ總テノ施設
ヲ爲ス方針ト、最モ必要ナル施設ノミヲ國
家ガ致シテ、枝葉ノ事業ハ或ハ民間ニ之ヲ
委セ、或ハ公共團體ニ委ス、斯様ナ方針ガ
執ラレテ居ルノデアリマスガ、我國ノ國立
公園法ニ依テハ、此方針ガ確然ト分リマ
セヌ、故ニ此點ヲ明カニ御示シテ願ヒタ
イ

次ニ私ハ國立公園施設ニ關スル豫算、即
チ財源ニ關シテ御伺致シタイ、政府ノ專門
家ノ著ハシタ本ヲ見マシテモ、如何ナルコ
トヲ言テアルカト申シマス、國家ノ費用
ハ恐ラク一箇所百萬圓以内、更ニ少額十數
萬圓デ足ルモノデアラウ、一公園ヲ完成ス
ルニ、民間ノ資本ヲ合セテ數千萬圓デモ、
十分ナモノガアルデアラウト思ハレルト
言テ居ルノデアリマス、而シテ今日昭和六
年度ノ豫算ニ現レタモノヲ見マスルト、先
刻青木君カラ御尋ノアツタ通り、僅ニ一萬數
千圓デアリマス、御承知ノ如ク亞米利加等
ニ於キマシテハ、僅ニ一哩半平方ノ「ホット」
スプリング」ノ公園ヲ造ル上ニ於テモ、百萬
弗ノ金ヲ使テ居リマス、又千九百二十年一
年デモ、約百萬弗ノ金ヲ國立公園ニ投ジテ
居ル、然ルニ今日我國ニ於キマシテハ、此
法律ヲ定メテ置キナガラ、僅ニ一萬數千圓
ノ金シカナイ、然ラバ私ハ御伺致シタイ、
此法案ガ出來タ後、將來此國立公園ノ施設
ニ對シテ何處カラ金ヲ出シマスカ、即チ此
國立公園計畫ニ對スル財源ヲ御伺致シタイ
ノデアリマス、ソレデ若シモ政府ガ消極方
針ヲ採テ此問題ニ臨ムナラバ、結局國立公
園ハ名ノミデアツテ、實ガ現レナイト云フ
コトニナル、積極的ニ進マウト欲スルナラ

バ、此處ニ明年度ヨリノ財源ヲ御示テ願ヒ
タイノデアリマス、私共ハ非常ニ之ヲ疑フ
居リマス、昨年總選舉前ニ於テ、現内閣ハ
自動車道路ナルモノヲ發表致シテ、私ノ郡
ノ如キハ一郡東西二線ノ自動車道路ヲ造ル
云ウテ、サウシテ選舉眞最中ニ鐵道省ノ
役人ガ行テ、サウシテ地方ノ人夫ヲ雇テ、
今ニモ立派ノ道路ガ付ク如ク宣傳ヲサレ
タ、併ナガラ選舉ガ終レタ今日ドウデア
ル、何處ニ自動車道路ガ現レテ居リマスカ、想
フニ斯様ナ財源ヲ示サズシテ、サウシテ斯
様ナ案ヲ御提出ニナルコトハ、私ハ來ル九
月ノ府縣會議員ノ選舉ニ於テ、ヤハリ斯様
ナモノヲ振擧シテ、質朴ナル山村農村ノ有
權者ヲ利用セント欲スルモノデアルト私ハ
斷ズルノデアリマス(拍手)又今日此國民ノ生
活ニ非常ニ困テ居ル、所謂餓死線上ヲ彷徨
テ居ル今日ニ、斯様ナ案ヲ御出シニナルコ
トハ、少ナクモ現内閣トシテハ御見合セニ
ナラテ如何デアラウカ、此際ニ、例ヘバ失
業者ノ問題ニ對シテモ、或ハ救護法案ニ致
シマシテモ、最モ大切ナルモノガアルデハ
アリマセヌカ、デ私ハ案共モノニハ反對ハ
致シマセヌ、反對ハ致シマセヌガ、併ナガ
ラ少クトモ現内閣ガ今日ノ場合ニ、斯様ナ
案ヲ出ス資格ハナイト云フコトヲ斷定致ス
ノデアリマス(拍手)

(國務大臣安達謙藏君登壇)

○國務大臣(安達謙藏君) 只今ノ御質問ノ
主ナル所ハ大體ニ於テ第一ハ、大自然ノ大
風景ヲ保護開發スル、國民ノ保健ニ關スル
コト、外客誘致、此三ツヲ目的トスルカ、
三ツ揃ハナケレバ國立公園ニシナイカ、或
ハ大自然バカリデ場所ヲ決定スルコトガア
ルカ、斯ウ云フ御尋ト思ヒマスガ、此國立
公園候補地ノ決定ハ、本案ガ通過致シマシ
タ曉ニハ、委員會ニ於テ之ヲ決定致シマス
カラ、豫メ私ガ此處デ此問題ニ付テ自分ノ
想像ヲ以テ御答スル必要ハナイト考ヘマ
ス、大體ハ委員會ニ於テ決定シマス、ソレ

カラ委員會ノ意見ヲドノ程度ニ尊重スルカ
ト云フコトデアリマスガ、委員會ノ意見ヲ
聽イテ區域ヲ定メ、主務大臣之ヲ指定スト
云フコトハ、今度ノ法案ニ明白ニ書イテア
リマスカラ、委員會ノ意見ヲ十分ニ尊重シ
テ、サウシテ之ヲ決定スルノデアリマス(拍
手)

ソレカラ候補地ハ何箇所ニ決定スルカ、
全國平等ニスルカト云フ意味ノ御尋デアリ
マス、或ハ一地方ニサウ云フ資格ノアル所
ガ塊ヲモ差支ナイカ、斯ウ云フ御尋デアリ
マス、是モ委員會ニ於テ決定致シマスガ、
常識ヲ以テ考ヘテ、如何ニ資格ガ定マツテ
モ、一地方バカリニ偏ルヤウナコトハ私ハ
ナカラウト考ヘマス(拍手)ヤハリ全國ヲ公
平ニ見渡シテ、委員會ハ候補地ヲ決定ス
ルモノト考ヘテ居リマス

ソレカラ此民有林、國有林ヲ含シテ居
ルカト云フ御尋ノヤウデアリマスガ、是ハ
幸ニ、何レモ國立公園ノ候補地ハ、國有林
カ若シクハ御料地ガ大部分デアリマシテ、
民有地ハ……

(發言スル者アリ)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(安達謙藏君) 非常ニ何處
モ少イノデアリマス、此公園ヲ指定スルニ
付キマシテ、殆ド大部分ハ國有林若クハ御
料地デアリマスカラ、只今御質問ノヤウナ
御懸念ハ無用ト考ヘマス(拍手)

ソレカラ朝鮮、臺灣方面、植民地ハドウ
スルカ、是ハ調査致シテ居リマシテ、別ニ
定メルコトニナシテ居リマスガ、ヤハリ此委
員會ノ意見ヲ徵スルコトニナシテ居リマス、
朝鮮ノ如キハ既ニ金剛山ヲ候補地ニシ
テ、ソレノ計畫ガアルヤウデアリマスガ、
ヤハリ委員會ノ意見ヲ聽キマス、併シ是ハ
第一ノモノハ別ニ考慮致シマス
ソレカラ史蹟名勝天然記念物等ノ文部省
ノ所管、是カ今度ノ國立公園ニ入レバドウ

ナルカ、是ハ依然トシテ文部省ノ所管ニ致
シテ置クノデアリマス

ソレカラ此國立公園ニ指定セラレタ所ノ
區域内ノ國有地ニ於キマシテ、竹木等ノ補
償トカ——即チ第八條第九條ニ關スルコト
デアリマスガ、要スルニ森林ノ經濟的利用
ハ、ヤハリ公園ノ地域内ニ指定致シマシテ
モ、大體ニ於テ許可スル積リデアリマス、
其細カイコトハ、是ハ衛生局長ヲシテ御答
セシメタ方ガ宜シト考ヘマス、ソレカラ
此國家自治團體ニ——國家バカリデセズシ
テ、自治體其他ニ許スノデハナイカト云フ
御話デアリマスガ、是ハ第四條ニ依リマシ
テ明白ニ書イテアリマス「國立公園事業ハ
行政官廳之ヲ執行ス」主務大臣特別ノ事由
アリト認ムルトキハ公共團體ヲシテ國立公
園事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得」其
他此第四條ニ明白ニアリマスカラ、之ヲ御
讀ミ下サルト明瞭ニナリマス(拍手)

ソレカラ財源ノコトハ、是ハ昭和七年以
後ニ於キマシテ、財政ノ緩急ヲ按配シテ、
サウシテ適當ニ之ヲ要求スルコトガ私ハ當
然ト考ヘマス、今日ノ財政狀態デ、無理ニ
此財源ヲ捻出スルコトモ容易チヤアリマセ
ヌガ、要スルニ昭和七年後ノ財政ノ都合ニ
依テ按配スルト云フコトヲ、此處ニ御答致
シテ置キマス(拍手)

(國務大臣町田忠治君登壇)

○國務大臣(町田忠治君) 御答ヲ申ス前ニ
一寸御諒解ヲ得テ置キタイノハ、私ハ只今
米穀委員會ノ答辯ノ最中デアリマシテ、此
處ニ出マスノガ少シ遅レマシタ爲ニ、御質
問ノ詳シイコトヲ承知シ兼シマシタガ、農
林省ノ政府委員ガ、今御質問ノ趣旨ヲ書取
リマシタ、ソレニ依テ大體ノ御答ヲ致シマ
ス、若シ漏レマシタナラバ改メテ御尋ヲ願
ヒタイ、質問ノ要旨ハ國有林ト、主トシテ
公園トノ關係カラ出テ來タ問題ガ多イヤウ
デアリマス、御承知ノ如ク農林省ハ、昨年
以來林野整備ノ事業ニ掛テ居リマシテ、只

今質問サレマシタ如ク、相當ニ民有林中ノ保安林ヲ、主トシテ之ヲ國有ニ移シテ可ナルモノト見マスルモノハ數十萬町歩アリマス、或ハ國有林地ノ園地トシテ、民間公共團體等ニ賣拂フタガ、山林行政ノ上ニ宜シト云フ意味デ、其整備ヲ致シテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、而シテ此處ノ公園ニ對スル關係ニ於テハ、林野整備ニ依リマシテ、將來ニ要存置林トシテ民間ニ拂渡スモノガ、若シ將來國立公園ト致スモノ、中ニアラザルニハ、内務當局ト相談シテ、是ハヤハリ國有林トシテ保有スルカ、或ハ相當ノ條件ノ下ニ、民間ニ拂下ゲタガ宜シイカト云フコトハ、愈々實行ノ曉ニ内務省ト協議スル等デアリマス

ソレカラ保安林ガ公園内ニアツタ場合、民有林タル保有林ガ公園内ニアツタ場合、ヤハリ林野整備ノ目的カラ見マシテ、之ヲ買上ゲテ國家ガ之ヲ保安林ト致スヤウナコトニスルコトハ勿論デアリマス、又國有林ガ特別地域ニ入ッタトキニハ、特別地域ハ相當ノ制限ガアリマスルガ故ニ、豫メ内務當局ト協議致シマシテ、國有林施業案ノ大體ノ方針ニ支障ノナイヤウニ致ス積リデアリマス、尙ホ問題ガ事務的ニナリマスルカラ、詳細ノコトハ政府委員カラ申上ゲサセマ

〔政府委員野村嘉六君登壇〕

○政府委員(野村嘉六君) 只今ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマス、國立公園ガ指定ナル、場合ニハ、多クハ天然記念物又ハ史蹟名勝指定地、是等ノ場所ガ包含サル、コトガ多イト思フデアリマス、其時ニ際シテ國立公園トノ關係ヲ如何ニ取扱フカト、斯ク云フ御質問デアッタノデアリマス、先程内務大臣ガ其一端ヲ述ベマシタ如ク、ヤハリ從來通りニ文部省ニ於キマシテ、天然記念物史蹟名勝保存地ニ對スル總テノ管轄ヲ持テ居ル次第デアアルノデアリマス、然ラバ萬一國立公園内ニ、是等ノモノトノ關係ニ

於テ意見ノ相違、取扱ニ於テ別ノ取扱等ノ事項ガ起リタラバドウスルカ、斯ウ云フ御心配モ含マレテ居ルと思フデアリマス、當局者ト致シマシテハ、此點ニ對シテハ十分ニ内務省ト協議シテ、サウシテ文部省ハ文部省所管ノ事務ヲ遂行スルニ遺憾ノナイヤウニ取計ヲ考デアアルノデアリマス(拍手)

〔藤井達也君登壇〕

○藤井達也君 諸君、本案ハ洵ニ現在ノ時局ヲ考ヘマシテモ、又吾國ノ風光ト云フモノヲ世界ニ紹介スル意味ニ於キマシテモ、重要ナル法案デアルト考ヘルノデアリマス、而シテ又此法案ヲ政府ガ御提出ニナリマスルニ當リテハ、十分調査研究モナサレ、又其財源等ニ關シマシテモ、十分御考慮ノ上ニ御提案ニナツタコト、思フデアリマス、御覽ノ如ク吾々ハ、國民思想ノ上カラ考ヘテ、斯ウ云フ重大ナル法案ヲ研究シマスルニ方リマシテハ、政府ニモ其點モ亦御聽キシテ置カネバナラヌト思フデアリマス、健全ナル身體ニ初メ健全ナル精神ガ宿ルノデアリマス、然ルニ現内閣成立以來ノ情勢ヲ見マスルト、經濟ノ方面ニ於テハ、我國ニ曾テナクハ慘憺タル光景ト云フモノヲ國民ニ與ヘツ、アルノデアリマス、現内閣ノ財政計畫、其宜シキヲ得ザルガ故ニ、全國ニ於キマスル國民ノ殆ド九分通リト云フモノハ(議長注意セヨト呼フ者アリ)其日ノ生活ノ安定ト云フコトニ惱ミツ、アルト云フコトハ、民政黨ノ代議士諸君ガ何ト仰セニナリマシテモ、國民自ラハ左様ニ感ジツ、アルノデアリマス(拍手)此經濟ノ大ナル不安ト云フモノニ禍サレ、此間隙ヲ利用シテ、露西亞等ヨリ參リマスル數多ノ惡化思想ト云フモノガ、洵ニ恐ルベキ進出ヲ爲シツ、アルト云フコトハ、文部當局ノ方モ御出デニナリマスルコトハ、各學校ニ於キマスル學生諸君ノ胸ノ中ニスラ、不穩ナ狀況ヲ來サシメタヤウナ結果ヲ見マスルコトハ、要スルニ經濟ノ逼迫致シタル此根據ト

云フモノヲ土臺ト致シマシテ、様々ナル惡化思想ガ宣傳サレ、學生等ニ至ルマデモ、此様ナコトニ、カブレツ、アルモノデアルト云フコトヲ考ヘマス時ニ、洵ニ現内閣程我國ニ内閣制度布カレテ以來、一大罪惡ヲ貽シタ内閣ハナイト考ヘルノデアリマス(拍手)諸君、此惡化思想ト云フモノヲ知ツテ、一掃セシムント致シマスルナラバ、政府ハ國民及ビ學生ノ健康ト云フモノヲ健全ニ致シ、此様ナ、洵ニ我國トシテ取ルベカラザル幾多ノ惡イ思想ト云フモノヲ、一掃スルノ責任ガアルト思フデアリマス、政府ノ本案提出ノ理由ノ中ニモ在リマスルガ、國民保健休養上緊急デアルト云フコトガ、御提案ノ理由書ニ、ソレガ記載サレテ居リマスガ、洵ニ其通りデアルト思フデアリマス、然ラバ斯ノ如キ重大ナル意味ヲ此中ニ玩味シテ、提案シタト云フコトデアリマスルナラバ、政府ハ唯一夜造リノ、來ルベキ九月ノ縣會議員選舉ニ之ヲ利用シヨウト云フヤウナ、ケチナ考デアリマスナルコトハ御止メ願ヒタイト思フデアリマス(拍手)重大ナル此案デアリトシマスルナラバ、其財源ニ關シマシテモ、其施設ニ關シマシテモ十分徹底研究致シマシタ後、而シテ又其確信ガ出來タ後ニ、之ヲ斷行スルコトガ當然デアアルニモ拘ラズ、勿違トシテ此法案ノ形ダケ出シタノデアアル、机上ノ議論ダケヲスルノデアリマス、貧乏人ガ恰モ一夜眠テ居タラバ、大變ナオ金ヲ拾ッテ、家デモ造リタヤウナ夢ヲ見タヤウナ案デアルト、吾吾ハ考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)

ナ事ヲヤツテ、國民ヲ瞞著スルモノデアルト吾々ハ考ヘテ居ル(拍手) 先程ノ内務大臣ノ御答辯ヲ承リマシテモ、本案ノ財源等ハドウスルカト云フト、昭和七年後ニ於キマス財政ノ緩急ニ應ジテヤリマセウト云フヤウナ事デアリマスルナラバ、今慌テ、御出シニナル必要ガナイト私ハ思ヒマスガ、内務大臣ハ如何ニ御考ニナリマスカ、而モ此案ハ、如何ナルモノヲ御作りニナルカト我黨ノ諸君ガ説明ヲ求めマスルト、國家ヲ代表シテ立派ナ公園ヲ御作りニナルト御答辯ニナリマシタガ、若夫レ此案ガ通過致シマシテ、一万二千三圓ノ金デ以テ、小役人ノ頭ヲ役所ニ竝ベタリ、或ハ又黨勢擴張ニ利用シテ民政黨系ノ委員諸君ヲ、五月人形ノヤウニ此委員會ニ御竝ベニナリマシテオヤリニナツタ結果ガ、何デアリマスルカ、却テ寧ロ私ハサウ云フヤウナ事ヲヤリマスルト、國家ヲ代表シマスル世界的大公園ト云フモノヲ、本當ニ財源ヲ得マシテ作ル際ニ當リテ、却テ是等ノ者共ノヤリマシタル濫畫致シタ様々ナル結果ト云フモノガ、此大公園、世界ニ代表サスヤウナ公園ヲ作ル時ニハ、非常ナル阻害ニナルモノデアルト考ヘテ居ルノデアリマスルガ、内務大臣ハ此點ハ如何ニ御考ニナリマスカ、御尋シテ置キタイノデアリマス

ソレカラ此案ニ依リマスルト、最重要ナルモノハ何カト考ヘテ見マスルト、委員會ト云フモノガ最も重キヲ爲シテ居ルト思フデアリマス、然ラバ委員會ノ人選ニ付キマシテハ、内務大臣ノ御答辯ハ洵ニ曖昧デアリマスルケレドモ、其内容ヲ吾々ハ詳細承ル必要ガアルト思フデアリマス、唯適當ナル人ヲ選ミマスルカ、最も堪能ナル人ヲ舉ゲマセウト云フヤウナ簡單ナ御答辯デハ、吾々ハ満足スルコトガ出來ナイノデアリマス、吾々ガ要求シマスル人ト云フモノハ、例ヘバ美術家デアリマスルカ、或ハ文藝家デアルトカ、或ハ新聞記者ノ諸君デ

茲ニ明確ニ斷言シテ置キマス(拍手)

〔藤井達也君登壇〕

○藤井達也君 只今内務大臣ノ御答辯ヲ得マシタケレドモ、御答辯ヲ承レバ承ル度毎ニ、吾々ハ疑惑ノ眼ヲ以テ之ヲ見ナケレバナラヌノデアリマス、財源ノ無イ事ハ明確ニナツテ居リマス、要スルニ此法案ヲ作リ、委員會ナルモノヲ設置致シテ、數箇月後ニ於キマシテ、各所ノ候補地ヲ選定致シダケガ目的デハナイカト吾々ハ思フノデアリマスガ、内務大臣ハ左様デアリマスルカ、モウ一遍御答辯ヲ願ヒタイ、要スルニ唯委員會デ、候補地ヲ決定シテ、サウシテ之ヲ各地方ノ、民政黨關係ノ者ガ運動スレバ、運動シタケテモ諸君ノ事ダカラ眼ノ色ヲ變ヘタリナンカシテ飛ビ廻ルニ違ヒナイガ、サウ云フ候補地ダケヲ入レテ、我黨ニ斯ウナレバ斯ウダト云フヤウナコトヲヤル案デハナイカト世間カラ疑ハレ、黨路案デアルト寫ラレテモ、御答辯ノシヤウガナイト思フノデアリマス、要スルニ、例ヘバ先程モ御話ガアリマシタガ、我黨ノ主張セラレタ通り、此調査委員會ノ類觸ヲ見マシテモ、甚ダ妙ナ成行カモ知レマセガ、安達内務大臣御出身地デアリマス所ノ熊本縣ノ方ダケガ、五月人形ノヤウニゾロゾロ、澤山竝ンデ居ッタト云フ一ツヲ考ヘテモ、此委員會ハ洵ニ吾々ハ不安ナモノデアルト考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)内務大臣ハ唯指定地ヲ示ス爲ニ、此案ヲ御作リニナツタノデアルカドウカト云フ事ヲ、ハッキリ御答辯ヲ願ヒ、重ネテ財源ヲドウスルカ、明確ナル御答辯ヲ最後ニ御願ヒシテ置キマス(拍手)

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 此問題ヲ黨利黨略ニ利用スルト云フコトハ、全然アリマセヌ、ドウゾ御安心ヲ願ヒマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ハ終リマシタ、日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

第三及ビ第四ノ同種ノ議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、日程第三勞働組合法案、日程第四勞働爭議調停法中改正法律案ノ兩案ヲ一括シテ、第一讀會ヲ開キマス

安達内務大臣

第三 勞働組合法案(政府提出)

第一讀會

勞働組合法案

勞働組合法

第一條 本法ニ於テ勞働組合ト稱スルハ

勞働條件ノ維持改善及組合員ノ共濟、修養其ノ他共同利益ノ保護増進ヲ目的トスル同一若ハ類似ノ職業若ハ産業ノ勞働者ノ團體又ハ其ノ團體ノ同一若ハ類似ノ職業若ハ産業ニ依ル聯合團體ヲ謂フ

第二條 勞働組合ヲ設立シタルトキハ其ノ代表者ハ組合設立ノ日ヨリ二週間以内ニ規約、代表者ノ氏名及住所並ニ主タル事務所所在ノ場所ヲ具シシテ行政官廳ニ届出ツベシ

聯合團體タル勞働組合ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ノ外之ヲ組織スル團體ノ名稱及其ノ主タル事務所所在ノ場所ヲ具シ届出ツベシ

前二項ノ規定ニ依リ届出デタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ日ヨリ一週間以内ニ之ヲ届出ツベシ

第三條 勞働組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ

記載スベシ

一 名稱

二 目的

三 主タル事務所ノ所在地

四 組合ノ構成ニ關スル規定

五 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

六 會議ニ關スル規定

七 代表者其ノ他ノ役員ニ關スル規定

八 組合費其ノ他會計ニ關スル規定

第四條 勞働組合ニシテ其ノ規約ニ法人タルコトヲ定ムルモノハ之ヲ法人トス

法人タル勞働組合ハ其ノ名稱中ニ法人ナル文字ヲ用フベシ

法人ニ非ザル勞働組合ハ其ノ名稱中ニ法人タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコト得ズ

第五條 法人タル勞働組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ノ登記ヲ爲スベシ

一 名稱

二 目的

三 主タル事務所所在ノ場所

四 法人タル勞働組合設立ノ年月日

五 理事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項ニ變更アリタルトキハ一週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スベシ

第六條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ズ

本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

本法ニ規定スルモノノ外登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 民法第四十四條、第五十條、第五十二條乃至第五十九條ノ規定ハ法人タル勞働組合ニ之ヲ準用ス

第八條 組合員ノ總會ノ決議スベキ事項

左ノ如シ

一 基金ヲ設置シ又ハ廢止スルコト

二 豫算ヲ定メ又ハ決算ヲ承認スルコト

三 規約ヲ變更スルコト

四 聯合團體タル勞働組合ヲ設立シ又ハ之ニ加入シ若ハ之ヨリ脱退スルコト

五 組合ヲ解散スルコト

六 法人タル勞働組合ノ合併又ハ分割ヲ爲スコト

聯合團體タル勞働組合ニ在リテハ其ノ規約ノ定ムル所ニ依リ之ニ屬スル組合ヨリ選出シタル者ノ會議ヲ以テ總會トス

第九條 勞働組合ハ規約ヲ以テ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

第十條 勞働組合ハ同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者ニ非ザル者ト雖モ左ニ掲グル者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

一 當該組合ノ役員又ハ役員タリシ者

二 同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者タリシ者

第十一條 勞働組合ハ組合員ノ脱退ニ關シ不當ナル條件ヲ定ムルコトヲ得ズ

第十二條 勞働組合ハ衆議院議員又ハ北海道會、府縣會、市會、町村會其ノ他之ニ準ズベキモノノ議員ノ選舉運動ニ關シ費用ヲ支出シ又ハ其ノ費用ニ充ツル爲組合員ヨリ金錢ヲ徵收スルコトヲ得ズ

第十三條 雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇スルコトヲ得ズ

雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脱退スルコトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ違反スル解雇ノ意思表示又ハ雇傭契約ノ約款ハ之ヲ無効トス

第十四條 法人タル労働組合ガ組合員

(聯合團體タル労働組合ニ在リテハ之ニ屬スル組合員ノ共同利益ノ保護増進ノ目的ヲ以テ組合員ノ生活ニ必要ナル物ヲ組合員ニ供給シ若ハ利用セシメ又ハ組合員ノ生産シタル物ヲ賣却スルノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ事業ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得税及營業收益税ヲ課セズ

第十五條 行政官廳ハ労働組合ニ對シ其ノ業務若ハ財産ノ狀況又ハ組合員ノ員數ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 労働組合ノ會議ノ決議法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十七條 労働組合ノ規約法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ行政官廳ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 労働組合ノ行為安寧秩序ヲ紊ルトキハ主務大臣ハ労働組合ノ解散ヲ命ズルコトヲ得

第十九條 前三條ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十條 労働組合ハ左ノ事由ニ因リ解散ス

一 規約ニ定メタル事由ノ發生
二 總會ノ決議
三 組合員ノ死亡
四 組合解散ノ命令

五 法人タル労働組合ノ合併又ハ分割
六 法人タル労働組合ノ破産

第二十一條 法人タル労働組合合併又ハ分割ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ債權者ニ對シ異議アラバ二月ヲ下ラザル一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スベシ

債權者前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベタル

トキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非ザレバ合併又ハ分割ヲ爲スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ニ違反シテ合併又ハ分割ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ合併又ハ分割ハ之ヲ以テ當該債權者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十二條 法人タル労働組合合併シタルトキハ合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リ設立シタル組合合併シタルトキハ其ノ定ムル所ニ從ヒ分割ニ因リ設立シタル組合共ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十三條 法人タル労働組合合併又ハ分割ヲ爲シタルトキハ二週間以内ニ合併又ハ分割後存続スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併又ハ分割ニ因リ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併又ハ分割ニ因リ設立シタル組合ニ付テハ第五條ノ登記ヲ爲スベシ

第二十四條 労働組合解散シタルトキハ一週間以内ニ其ノ事由及年月日ヲ行政官廳ニ届出ツベシ但シ第二十條第四號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 法人タル労働組合解散シタルトキハ合併、分割又ハ破産ノ場合ヲ除クノ外清算ヲ爲スベシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ財産ノ處分ハ規約又ハ總會ノ決議ニ依ル

民法第七十二條第三項及第七十三條乃至第八十三條ノ規定ハ法人タル労働組合ノ清算ニ關シ之ヲ準用ス

第二十六條 非訟事件手續法第三十五條、第三十六條及第三百三十六條乃至第三百三十八條ノ規定ハ法人タル労働組合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 陸海軍軍人軍屬ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働組合法ノ組合員ト爲ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二十八條 労働組合法ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一 第二條、第二十四條若ハ附則第三項ノ届出又ハ第十五條ノ報告ニ付テハ怠リ又ハ虚偽ノ届出若ハ報告ヲ爲シタルトキ

二 第四條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 第十二條ノ規定ニ違反シテ費用ヲ支出シ又ハ金錢ヲ徴收シタルトキ

第二十九條 法人タル労働組合ノ理事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一 第五條、第二十三條又ハ民法第七十七條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 第二十一條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シテ合併又ハ分割ヲ爲シタルトキ

三 民法第八十二條ノ場合ニ於テ裁判所ノ検査ヲ妨ガタルトキ

四 民法第八十一條ノ規定ニ違反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

五 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

第三十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ニ掲グル事項ヲ目的トスル労働者ノ團體又ハ其ノ聯合團體ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ノ労働組合ト見做ス

本法施行ノ際現ニ存スル労働組合ハ本法施行ノ日ヨリ一月以内ニ第二條ノ規定ニ準ジ届出ヲ爲スベシ

第四 労働争議調停法中改正法律案 (政府提出)

労働争議調停法中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ニ掲グル以外ノ事業ニ於テ労働争議發生シタル場合ニ於テ著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認めタルトキハ行政官廳ハ當事者ノ請求ニ依リ調停委員會ヲ開設スルコトヲ得當事者ノ請求ナキ場合ト雖モ行政官廳ニ於テ必要アリト認めタルトキ亦同シ

第一條ノ二 前條第一項若ハ第三項ニ規定スル労働争議ニ付當事者ノ請求アリタルトキ若ハ行政官廳ニ於テ必要アリト認めタルトキ又ハ同條第二項ニ規定スル労働争議ニ付當事者雙方ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ當該官吏ヲシテ調停ニ關スル調査審理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 行政官廳調停委員會ヲ開設セントスルトキ又ハ當該官吏ヲシテ調停ニ關スル調査審理ヲ爲サシメントスルトキハ當事者雙方ニ之ヲ通知スベシ

第三條 第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改ム

行政官廳ハ當事者雙方ノ同意アリタルトキハ前項ニ定ムル委員ノ數ヲ増減スルコトヲ得

第九條ニ左ノ二項ヲ加フ

當該官吏調停ニ關スル調査審理ヲ爲ス場合ニ於テハ第二條ノ規定ニ依リ通知アリタル日ヨリ十日以内ニ調査審理手續ヲ了スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ行政官廳必要アリト認めタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得但シ

昭和六年二月二十五日 衆議院議事速記第十八號 労働組合法案外一件

第一讀會

四四九

十日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十條中「各」ヲ「各半數」ニ改ム

第十二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

行政官廳ハ當該官吏ヲシテ調停委員會ニ出席シ意見ヲ述ベシムルコトヲ得

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ第一條ノ二ノ規定ニ依リ當該官吏ガ調停ニ關スル調査審理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十九條中「調停手續」ノ下ニ「又ハ調査審理手續」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一條第一項ニ掲グル以外ノ事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ行政官廳ガ著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタル場合ニ於テ第二條ノ規定ニ依ル通知アリタルトキ亦前項ニ同シ

第十九條ノ二 第一條第一項ニ掲グル事業ニ於ケル勞働爭議ニ關シ作業閉鎖又ハ同盟罷業ヲ爲ス場合ニ於テハ當事者(當事者ガ團體又ハ集團ナル場合ニ於テハ其ノ主ナル代表者)ハ三日前ニ行政官廳ニ對シ調停委員會開設ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

一 故ナク第十三條ニ規定スル出席説明又ハ說明書類ノ提示ヲ爲サザル者

二 第十九條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

第二十二條中「第十九條」ヲ「第十九條第一項」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十九條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本法ハ昭和六年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣安達謙藏君登壇)

(「勞働者虐殺法」絕對反對)ト呼ビ其

他發言スル者多シ

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス——

○國務大臣(安達謙藏君) 只今議題トナリマシタ勞働組合法案ノ提案ノ理由ヲ説明致シマス、産業ノ發達ニ伴ヒマシテ……

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(安達謙藏君) (續) 勞働者ガ團結シテ其自助的手段ニ依リ、地位境遇ノ改善……

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(安達謙藏君) (續) 向上ヲ計ルニ至リマスコトハ、之レ自然ノ現象デアリマシテ、我國ガ近代の産業組織ヲ採用致シマシタ以上、當然ニ生ズベキ結果ト申サネバナリマセヌ、此勞働者ノ團結運動ニ對シマシテ、結社ノ自由ハ既ニ憲法ノ保障スル所ナルガ故ニ、特ニ法制ヲ設クルノ要ナシト云フ理由ノ下ニ、法律ニ觸レザル限り、之ヲ自由ニ放任致シマシテ、勞働者ノ團結運動ニ關聯シテ起ル所ノ事業主、勞働者間ノ諸般ノ紛議ハ、兩者ノ間ノ實力ノ解決ニ委シ、之ニ基因スル所ノ産業界並ニ社會ノ不安ヲ拱手傍觀スルガ如キハ、國家トシテ執ルベキ態度デハナイト信ジマス

近時我國ニ於キマシテモ、勞働組合ノ組織セラル、モノ漸ク多ク、昭和五年六月末ニ於テ、勞働組合ノ數六百五十、其組合員數實ニ三十四万二千餘人ニ上テ居リマス、且ツ年々増加ノ傾向ニアリマシテ、産業上並ニ社會上、勞働組合ノ地位ハ頗ル重要トナリテ來タノデアリマス、此情勢ニ鑑ミ、今日勞働組合法ヲ制定致シマシテ、法律上勞働者ノ團結ヲ公認スルト共ニ、其組織及ビ行動ニ關シ、據ルベキ基準ヲ與ヘ、其運動ヲシテ秩序統制アラシムルコトハ、寔ニ喫緊ノ要務デアルト信ズルノデアリマス、蓋シ

第一讀會

我國現在ニ於キマシテハ、勞働組合ノ組織ニ關シテ據ルベキ特別ノ法制ナク、勞働組合ハ未ダ法律上公認サレテ居リマセヌ爲メ、往々ニシテ不穩當ナルモノ、如ク考ヘラレ、之ガ爲ニ勞資間ノ關係協調増進ヲ缺キ、不必要ニ事端ヲ醸シ、紛議ヲ生ズルコト稀デアリマセヌ、又之ガ爲メ、勞働組合ニ於テモ勢ヒ事業主ニ對シ抗争ノ手段ニ出デ、其行動自然ニ矯激ニ流ル、場合ガアリマス、斯ノ如キハ決シテ勞資ノ融和、産業界ノ健全ナル發展ヲ期スル所以デハナイデアリマシテ、此意味ニ於テ第一ニ勞働組合法律上公認スルノ必要ヲ感ズルノデアリマス、勞働組合ヲ法律上公認シテ、其社會的職分ヲ認メルト云フコトハ、一面其社會的責任ヲ自覺セシメ、其自重ヲ促ス所以デアリマスシテ、之ニ依リテ自然ニ其行動ヲ穩健中正ナラシムルコトヲ得ル次第デアルト信ズルノデアリマス

尙ホ現在我國多數ノ勞働組合ノ中ニハ、間々矯激不當ナル行動ニ出ヅル者モナイトハ言ヘマセヌガ、是ハ勞働組合ノ進ムベキ正道ニアラザルコト勿論デアリマシテ、政府モ亦之ヲ是認シ、又ハ之ヲ放任セントスルモノデハ決シテナイノデアリマス、其行動ニシテ社會ノ公安ヲ害スルガ如キモノニ對シテハ、法ニ照シテ嚴ニ處罰スベキコト勿論デアリマシテ、又現ニ左様致シテ居ル次第デアリマスガ、本法案ニ於キマシテハ更ニ進シテ勞働組合ノ行動ガ法規ニ違反シ、又ハ公益ヲ害スル等ノ場合ニ付、相當之ガ監督是正ノ方法ヲ規定致シマシテ、勞働組合運動ニ規律ヲ與ヘントスルモノデアリマス、決シテ漫然勞働組合ヲ保護シテ、不法不當、或ハ矯激ナル行動ヲ是認セントスルモノデハナイノデアリマス

以上ノ精神ニ基キマシテ、本法案ヲ立案致シテ次第デアリマスガ、其内容ノ大略ハ一、勞働條件ノ維持改善ト、組合員ノ共濟、修養其他協同利益ノ保護増進トヲ

併セ目的トスル同一又ハ類似ノ職業、又ハ産業ノ勞働者ノ團體ヲ勞働組合トスルコト

右勞働組合ガ同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ニ依リ聯合ヲ組織シタル場合、其聯合團體ヲモ勞働組合トスルコト

二、勞働組合ハ法人タルコトヲ得ルコト

三、勞働組合ハ同一又ハ類似ノ職業、又ハ産業ノ勞働者ニアラザル者ト雖モ(イ)當該組合ノ役員又ハ役員タリシ者及(ロ)同一又ハ類似ノ職業又ハ産業ノ勞働者タリシ者ヲ組合員トナスコトヲ得ルコト

四、勞働組合ハ衆議院議員又ハ地方議會ノ議員ノ選舉運動ニ關シ費用ヲ支出シ、又ハ其費用ニ充ツル爲組合員ヨリ金錢ヲ徵收スルコトヲ得ザルコト

五、雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇スルコトヲ得ザルコト

雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脱退スルコトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得ザルコト

六、法人タル勞働組合ガ組合員ノ共同利益ノ保護増進ノ目的ヲ以テ組合員ノ生活ニ必要ナル物ヲ組合員ニ供給シ若ハ利用セシメ、又ハ組合員ノ生産シタル物ヲ賣却スルノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ、其事業ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得稅及營業收益稅ヲ課セザルコト

七、勞働組合ノ監督ハ左記ニ依ルコト

(イ) 行政官廳ハ勞働組合ニ對シ其業務若クハ財産ノ狀況又ハ組合員ノ員數ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得ルコト

(ロ) 勞働組合ノ會議ノ決議法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得ルコト

(ハ) 勞働組合ノ規約法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ、行政官廳ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得ルコト

(ニ) 勞働組合ノ行爲安寧秩序ヲ紊ルト

キハ主務大臣ハ其解散ヲ命ズルコトヲ得ルコト

八、本法施行ノ際現ニ存スル労働者ノ團體又ハ其ノ聯合團體ニシテ労働条件ノ維持改善ト組合員ノ共濟、修養其ノ他共同利益ノ保護増進トヲ併セ目的トスルモノハ之ヲ本法ノ労働組合ト看做スコト

之ヲ要スルニ労働組合法制定ノ目的ハ労働組合運動ヲ正シキ軌道ニ乗セテ之ヲ穩健中正ニ導キ、産業ノ健全ナル發達ト、社會ノ平和トヲ期スルニ外ナラナイノデアリマス、速ニ御審議ノ上御協賛アラント切ニ希望スル次第デアリマス

續イテ労働争議調停法中改正法律案提出ノ理由ヲ説明申上ゲマス、最近ニ於ケル労働争議ノ狀況ヲ見マスルニ、財界ノ不況ニ伴ヒ、件數、参加人員等著シキ増加ヲ示シツツアリマス、即チ昭和四年中ニ於ケル同盟罷業怠業及ビ工場閉鎖ノ件數ハ五百七十六件、之ニ参加シタル労働者ノ數ハ七万七千四百四十四人ニ達シ、又昭和五年中ニハ、一月乃至九月ノ九ヶ月間ニ既ニ六百九十五件ノ發生ヲ見、其参加セル人員モ六万四千三百一人ニ及ンデ居ルノデアリマス、其結果トシテ、労働争議ノ當事者ガ蒙ル經濟上ノ損害ハ固ヨリ、其國家ノ産業及ビ經濟ニ及ボス影響ハ洵ニ容易ナラザルモノガアルノデアリマス、斯ノ如キ争議ノ發生ヲ、出來得ル限り未然ニ防止シ、並ニ其圓滿ナル解決ノ機會ヲ多カラシメル爲ニハ、現行労働争議調停制度ハ、必ズシモ適當且ツ十分ナリト謂ヒ難キモノデアアルト思フノデアリマス、即チ大正十五年現行法施行以來ノ狀況ヲ見マスルニ、法制上ニ認メラレタル調停機關ハ調停委員會デアリマスガ、之ヲ開設シ得ル場合ノ要件或ハ其組織等、實際ノ運用ニ適セズ、調停委員會ガ開設セラレタル事例ハ、既往約五箇年間僅ニ一回ニ過ギマセヌ、又現行法施行以來、各廳ニ配屬セ

ラレタル調停官吏等ノ法律ニ依ラザル調停ニ依リテ、争議ノ解決セラル、モノハ相當多數ニ上リマスガ、右ニ關シテハ固ヨリ法制上……

〔發言スル者アリ〕
○議長(藤澤淺之輔君) 淺原君、注意致シマス

○國務大臣(安達謙藏君)(續) 何等ノ準據スルモノガナク、事務處理上不便ヲ感ズル場合ガ極メテ多イノデアリマス

右ノ如キ事情ニ基キマシテ、今同時代ニ適應スベキ労働争議調停制度ヲ制定シタイト考ヘ、茲ニ法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス
改正法律案ノ内容ハ、相當多方面ニ互リマスガ、其要領ハ以下ノ三點デアリマス
其一點ハ、行政官廳ガ調停委員會ヲ開設シ得ル場合ノ擴張ニ關スルモノデアリマシテ、即チ現行法ノ下ニ於テハ、所謂私益事業ニ於テハ、當事者ノ雙方ヨリ請求ガナケレバ、調停委員會ヲ開設シ得ザルコト、ナッテ居リマスガ、今度ハ私益事業ノ争議ニ於キマシテモ、其狀況ニ依リ著シク其關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アルモノト認メマシタル場合ニハ、之ヲ公益事業ニ於ケル争議ニ準ジ、當事者一方ヨリノ請求ニ依リ、又ハ行政官廳ノ職權ヲ以テ、調停委員會ヲ開設シ得ルモノト改メタノデアリマス

第二ニ當該官吏ノ調停ニ關スル權限ヲ新ニ規定シ、仍テ當該官吏ガ從來事實上行ヒ來シタ調停ニ關スル職權ヲ法認スルト同時タノデアリマス
第三點ハ、現行法第一條第一項ニ列擧セラル、公益事業ノ労働争議ニ於テ、當事者ガ作業閉鎖又ハ同盟罷業ノ如キ、所謂争議手段ヲ用フル場合ハ、事前ニ調停委員會開設ノ申請ヲ爲スベキコトヲ規定致シタノデアリマス
以上述べタルガ如キ改正ニ依リテ、争議ニ

基ク無用ノ犧牲ヲ除キ、勞資ノ協調並ニ産業ノ平和ヲ促進スルコトハ、現時ノ産業界及労働争議ノ實情ニ鑑ミマシテ、眞ニ緊要デアルト存ジマス、是レ本改正法律案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒御協賛アラントヲ願ヒマス

○議長(藤澤淺之輔君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——田子一民君

○田子一民君 私人労働組合法案、労働争議調停法中改正法律案、此二法案ヲ審議スルニ當リマシテ、四五ノ質問ヲ試ミ、政府ノ所見ヲ質サンテスルノデアリマス

第一點ハ、現内閣ハ産業平和——労働不安ノ極、労働問題解決ノ基礎デアリ所ノ、此二點ニ付テ如何ナル計畫ヲ爲シ、如何ナル實行ヲ試ミラレタカ、去ル濱口内閣成立以來ノ實績ニ顧ミマスレバ、吾々ハ産業平和ノ確立ハ、階級闘争ヨリ平等觀念ニ、勞資互ニ人格ヲ尊重シ、互ニ責任ヲ分チ、共同協力以テ産業平和ノ途ヲ進メナケレバナラヌト信ジテ居リマシテ、戦後各國ニ於キマシテハ、思想ノ變遷、經濟事情ノ變化、是等ニ對應シテ、總理大臣ハ勿論、其局ニ當ル労働大臣、社會大臣等、銳意産業平和ノ確立ニ努力シテ居ルノデアリマスガ、現内閣成立以來、既ニ相當ノ期間ヲ經テ居リマスルニ拘ラズ、具體的ノモノヲ見レバ、労働運動ヲ鎮壓スルニ警察ノ暴力ヲ用ヒ、時ニハ警察官ノ馬ノ蹄ニ依リテ、労働運動ヲ解決セントスル如キ、暴壓甚シキモノヲ見ルノデアリマス、吾々ハ労働問題ノ解決、社會問題ノ解決、是等ハ政府ハ中正穩健、資本家ハ労働者ヲ尊重シ、労働者ハ資本家ヲ尊重シ、相俱ニ率ヒテ、三者鼎立シテ進マナケレバナラヌモノデアアルト信スルモノデアリ、然ルニ現内閣ハ徒ニ警察力一點ヲ以テ解決スルガ如キハ、甚ダ遺憾ニ存ジマスルカラ、此機會ニ於テ内務大臣ハ、過去一年數箇月ニ於キマシテ、現内閣ノ産業平和確立ニ於テ執リタル手段、並ニ其具體的事實ヲ御示シテ願ヒタイノデアリマス

第二點ハ、社會政策、労働政策、此重要ナル問題ヲ解決スルニ如何ナル順序、如何ナル方法、簡單ニ申セバ社會政策、労働政策ノ解決ノ順序ニ付テ、如何ナル所見ヲ有セラル、カ、吾々ハ議會ヲ通シテ現ハレマシタル豫算並ニ法律案等ニ付キマシテ、一二ノ例ヲ擧ゲテ政府ノ所見ヲ確メタイト思フノデアリマス、社會問題、労働問題ノ解決、固ヨリ多岐多様デアリマスルカラ、一言ニシテ之ヲ盡スコトハ出來マセヌケレドモ、試ミニ一二ノ事例ヲ申スナラバ、先ヅ生存ヲ保護シナケレバナラヌ、露ノ命モ支フルコトノ出來ナイト云フ者ガアリマシタ場合ニハ、先ヅ第一番ニ何ヲ措イテモ之ニ保護シナケレバナラナイ、第二ニハ働ク能力モアリ、其意思モアツテ、社會事情、經濟事情ニ依リテ、働ク機會ヲ得ルコトノ出來ナイ者ニ對シテ、豫メ職ヲ失フコトノ防禦手段ヲ講ジ、已ムヲ得ズシテ失職シタ者ニハ、職ヲ授クルノ方策ヲ執ラナケレバナラヌ、然ルニドウデアアル、現内閣ノ下ニ於キマシテ、政府ノ調ニ依リテモ、國、府縣、市町村ノ保護ヲ受クルニアラザレバ、其日ノ生活、其日ノ生存、露ノ命サヘモ支フルコトノ出來ナイト云フ數ハ、十萬ト稱セラレテ居ル、政府ノ調ハ恐ラク數ハ少ナク見テ居ルデハアラウガ、假ニ十萬トシテモ宜シイ、是等ノ十萬ノ人ハ、六十五歳以上ノ老衰者、十三歳未満ノ孤兒、重病、癱瘓ニシテ労働ノ能力ナキモノ、眞ニ其日ヲ支フルコトノ出來ナイ人々、而モ此法案ノ適用ヲ爲シ、保護スベキ所ノ法律ハ既ニ發布サレテ、昭和四年カラ法規大全ノ中ニ入ッテ居ルノデアリ、而シテ之ヲ實施スル所ノ勅令ノ發布ハ、現内閣ガ野黨タリシ時、昭和五年ヨリ實施スベシト、之ヲ攻撃シ決議シタルニ拘ラズ、今日マデ一年有半、之ヲ捨テ、顧ミナイ、而モ實行ヲ迫マレバ、昭和七年ニ至リテ初メ

テ實行スルト云フガ如キ、而モ其財源モ未ダ得ラレザルガ如キ、醜體ヲ暴露致シテ居ルノデアリマス(拍手)現内閣ノ緊縮政策ノ結果ト致シマシテ、今日ニ於テハ失業セハ群ヲ成シテ居ル、失業ノ群ハ餓ニ泣イテ居ルガ、安達内務大臣ハ昨年ノ豫算會議以來屢、政府ニ忠告スルガ、何等ノ對案ヲ持タナイ、即チ生存シ得ザル者ノ保護ヲ怠リ、而シテ職ヲ失フ者ノ保護ヲ怠リ、斯ノ如キハ捨テ置イテ、今突如トシテ此勞働者ノ待遇ノ改善、勞働條件ノ維持改善ヲ目的トシマス所ノ、勞働組合法ヲ御出シニナルト云フコトハ、其順序緩急ヲ誤テ、世ニ之ヲ宣傳案ナリト稱セラレル原因ハ茲ニアルト思フノデアリマス(拍手)現内閣ハ如何ナル順序方法ニ依リ、勞働問題、社會問題ヲ解決セラレルノデアアルカ、此點ヲ明瞭ニ願ヒタイト思フノデアリマス

尙ホ此場合ニ一言此點ニ附加シテ置キタイコトハ、安達君ガ在野黨デアリマシタ時ニ、失業保險ハ一日モ之ヲ緩ウスベキモノデナイト云フコトデアリマシテ、自ら提案者トナリ、失業保險ヲ二回提案セラレテ居ル、然ルニ幸ニモ内務大臣ノ地位ヲ持テ、是ガ法案ノ實行ニハ極メテ適當ナル機會デアリニ拘ラズ、失業者續出ノ今日ニ於テ、何等此法案ヲ提案セラル、ノ意思ナキモノノ如キ状態デアアルハ、如何ナル理由デアス(拍手)尙ホ既ニ長キ間成案ヲ得テ居リマス所ノ海員ノ保險法案、勞働者災害扶助法案、是等ハ相當ニ重大ナ問題デアリマスルガ、社會問題解決ノ急ナル場合ニ、忘レタルガ如クシテ居ラレルガ、此點ニ付テノ御所見如何

次ハ提案セラレタル所ノ勞働組合法案ノ實體ニ付テ御質問ヲ申シタイノデアアル、勞働者ガ劣弱ナル地位ニ在リ、資本家ハ強大ナル地位ニ在リ、此二個ノ存在ヲ對等ノ地位ニ置イテ、勞資問題ヲ解決致シマスルハ、固ヨリ勞働組合ノ如キ團結權ヲ得ナク

レバナラナイノデアリマス、内務大臣ノ御言葉申セバ、勞働組合法ヲ以テ公認スルコトモ必要デアリマス、然ルニ茲ニ提案セラレタル勞働組合法案ハ、組合法案ナル名前ヲ冒用シテ居ル、其實體ヲ點檢シ來ル時ニハ、第一ニ勞働組合ノ本質ガ極メテ不明瞭ナモノニナッテ居ル、第二ニハ勞働組合ノ生命デアリマス所ノ、團體交渉權ニ付テ何等規定ヲ置カナイ、第三ニハ極度ニ勞働組合ノ活動ヲ制限シテ居ル、斯様ニ名前ガアツテ實ノナイモノヲ提案サレタ、一面ニハ勞働者ニ氣兼ヲシテ居リ、一面ニハ資本家ノ意思ヲ歡迎シテ居ル、而モ其案ハ資本家ニモ喜バレナイ、勞働者ニモ排撃サレテ居ル、學者モ之ヲ贊成シナイ、批評家モ贊成シナイ、オマケニ安達君ノ下僚デアアル人ハ全部反對、而モ本議場ニ於テ贊成セラル、方ノ數ハ、數ヘ盡サレル位ナ極メテ少數ナモノデアアル(拍手)惟フニ此勞働組合法ナルモノハ、第一條ニ於キマシテ、或ハ千九百十九年ノ獨逸憲法ノ如ク、又或モノハ千九百二十七年ノ佛蘭西ノ職業組合法ノ如ク、或ル點ニ於テハ英吉利ハ「フレンドリー・ソサイティー・アクト」ノ如ク、何等統一サレタモノハナイ、詰リ安達君ノ此組合法案ナルモノハ、新シイ靴デアアルトシテ、今賣出サレタケレドモ、實ハ各國ノ古靴ノ革ヲ寄セ集メテ造ラタ所ノ、資本家ニモ、勞働者ニモ、學者ニモ、實際家ニモ、政黨ノ人々ノ足ニモ穿イラナイ所ノ不適當ナ、所謂安達埋葬法案ト云フガ如キモノヲ御提出ニナタト謂ハナケレバナラヌノデアアル(拍手)ノミナラズ先程ノ御演說ヲ承テ、吾々ハ極メテ憤慨ニ堪ヘナイコトハ、最近ニナッテ勞働爭議ノ概ガ増加致シタ、私モ此處君ガ先持テ參ツタノデアリマシタガ、安達君ガ先御話ニナツタ、吾々ハ此數ノ増加シタ、勞働爭議ノ増加致シタコトハ、現内閣ノ經濟政策ノ誤リニ因リ其結果トシテ社會不安トナッテ「ストライキ」ガ殖エタノデアアルカラ

(拍手)安達君ハ此事實ヲ御報告ノ場合ニハ自己ノ責任ヲ顧ミタル態度ニ於テ御演說アルベキ筈ト思フガ、其結果トシテ勞働爭議調停法ノ改正ヲ致シタト云フガ如キ、殆下冷酷無情ナル御說明ヲ爲サレマシタコトハ、産業ヲ破壊シテ置イテ、組合運動ヲ刺戟シ、其結果ハ所謂「ストライキ」ヲ増加シテ、而シテ其結果ハ勞働爭議調停法ニ改正ヲ加フルト云フガ如キハ、自己ノ責任ヲ法律ニ轉嫁スルモノナリト斷セザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)要スルニ大體論トシテ、安達君ハ果シテ信念ヲ持テ、如何ナル難關ガアツテモ、此二ツノ法律案ヲ此議會ニ通サナケレバ、日本ノ勞働問題、社會問題ノ解決ハ、到底ムヅカシイト云フ信念ヲ御出シニナツタノデナクシテ、濱口内閣成立以來社會政策審議會ヲ設ケ、一昨年ノ暮ニハ勞働組合法案ヲ社會局案ヲ天下ニ公表シテ、之ヲ實行スルト稱シテ、今日マデ宣傳ニ宣傳ヲ重ネマシタカラ、此宣傳ノ埋合ヲ當議場ニ於テ致サントスルモノデアツテ、斯ノ如キハ議會ノ審議權ヲ冒瀆スル一大罪惡ナリト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)

是ヨリ法案ニ入りマシテ二三御尋ヲ致シタイ、社會局案ニ依レバ、勞働組合法ノ本質ヲ勞働條件ノ維持改善ヲ極メテ明瞭ニ規定セラレテ居ル、然ルニ提案セラレタ所ノ法案ヲ讀ミマスレバ、勞働條件ノ改善及組合員ノ共濟、修養、斯ノ如キ文字ヲ羅列シ更ニ法第十四條ニ依レバ、産業組合法ニ依リ販賣組合ノ如キ、購買組合ノ如キ、利用組合ノ如キ、殆ド其組合ノ本質ハ何デアアルカト云フコトガ明瞭ヲ缺クニ至リマシタ、大正十五年第五十一、昭和二一年第五十二、此二ツノ議會ニ於テ、濱口内閣ガ取扱フ所ノ勞働組合法案ニハ、本法ノ如ク此組合ノ實體ヲ不明瞭ナラシムルガ如キ、曖昧ノ態度ヲ示サレナカッタ、然ルニ本法案ニ依レバ、此點ニ付キマシテ何等統一セラレタル精神ガ現ハレズ、共濟團體ノ如ク、修養團體ノ

如ク、産業組合ノ如ク、支離滅裂デアアルガ、内務大臣ハ過去一年間ニ互フテ、勞働組合ノ本質ヲ勞働條件ノ維持改善ト明確ニ現ハシタルニ拘ラズ、茲ニ支離滅裂、曖昧模糊ノ規定ヲ改變サレタ其理由ハ如何デアアルカ、其點ヲ御伺致シタイノデアリマス、第十條ニ依リマスレバ、社會局案ヲ見マルト、組合員ト爲シ得ルモノト致シマシテ、總會ノ決議ニ依ルモノハ、是ハ加入ヲ認メタノデアリマス、然ルニ本法案ニハ組合決議ニ依リ加入者ヲ削除シタ、蓋シ「プロカー」ヲ取締ルトカ「プロカー」ノ加入ヲ禁ズルト云フ趣旨デアリマセウガ、組合員ニアラズトモ、或ハ顧問、或ハ囑託ノ名ニ於テ組合ノ相談ニ應ゼシムル者ニ付キマシテハ、如何様ナル取扱ヲ爲サルノデアアルカ、本法ハ之ヲ禁ズルノデアアルカ、之ヲ默認スルノデアアルカ、此點ヲ明瞭ニシテ貰ヒタイ、第十二條ハ組合ノ費用ト徴收ニ關シマシテ制限ヲ置イテ居ル、衆議院議員、府縣會議員、市町村會議員、其他之ニ準ジマスル議員ノ選舉運動ニハ、組合ノ費用ヲ支出ヲ制限ヲ致シ、尙ホ組合員ヨリ其費用ヲ徴收スルノ權限ヲ制限致シテアリマス、惟フニ組合ハ經濟團體デアリ、産業團體デアリマスルガ故ニ、政治運動ト之ヲ引離スト云フ御趣旨デアラウトハ想像致シマスルケレドモ、吾々ノ信ズル所ニ依レバ、凡ソ組合員ヲシテ中央、地方ノ政治ニ參加セシメ、其參加スルコトニ依ッテ公正ナル政治知識ヲ得マスルコトハ、寧ロ之ヲ獎勵スベキモノデアアルト考ヘルノデアリマス、若シ政府ガ斯様ヲ選舉運動等ヲ禁ズルト云フ、此立法ノ趣旨ヲ貫カレルナラバ、何故ニ政治運動、社會運動、議會運動ト、一切之ヲ禁ゼザルノデアアルカ、此不統一ナル本法案ノ精神ヲ明瞭ニシテ戴キタイト思フノデアリマス、尙ホ此點ニ付テ御伺致シタイコトハ、組合員ガ組合員ノ立候補ヲ喜ビ、自ら進ンデ組合ニ選舉運動費ヲ寄附センスル場合ニ於テ此寄附ヲ

如ク、産業組合ノ如ク、支離滅裂デアアルガ、内務大臣ハ過去一年間ニ互フテ、勞働組合ノ本質ヲ勞働條件ノ維持改善ト明確ニ現ハシタルニ拘ラズ、茲ニ支離滅裂、曖昧模糊ノ規定ヲ改變サレタ其理由ハ如何デアアルカ、其點ヲ御伺致シタイノデアリマス、第十條ニ依リマスレバ、社會局案ヲ見マルト、組合員ト爲シ得ルモノト致シマシテ、總會ノ決議ニ依ルモノハ、是ハ加入ヲ認メタノデアリマス、然ルニ本法案ニハ組合決議ニ依リ加入者ヲ削除シタ、蓋シ「プロカー」ヲ取締ルトカ「プロカー」ノ加入ヲ禁ズルト云フ趣旨デアリマセウガ、組合員ニアラズトモ、或ハ顧問、或ハ囑託ノ名ニ於テ組合ノ相談ニ應ゼシムル者ニ付キマシテハ、如何様ナル取扱ヲ爲サルノデアアルカ、本法ハ之ヲ禁ズルノデアアルカ、之ヲ默認スルノデアアルカ、此點ヲ明瞭ニシテ貰ヒタイ、第十二條ハ組合ノ費用ト徴收ニ關シマシテ制限ヲ置イテ居ル、衆議院議員、府縣會議員、市町村會議員、其他之ニ準ジマスル議員ノ選舉運動ニハ、組合ノ費用ヲ支出ヲ制限ヲ致シ、尙ホ組合員ヨリ其費用ヲ徴收スルノ權限ヲ制限致シテアリマス、惟フニ組合ハ經濟團體デアリ、産業團體デアリマスルガ故ニ、政治運動ト之ヲ引離スト云フ御趣旨デアラウトハ想像致シマスルケレドモ、吾々ノ信ズル所ニ依レバ、凡ソ組合員ヲシテ中央、地方ノ政治ニ參加セシメ、其參加スルコトニ依ッテ公正ナル政治知識ヲ得マスルコトハ、寧ロ之ヲ獎勵スベキモノデアアルト考ヘルノデアリマス、若シ政府ガ斯様ヲ選舉運動等ヲ禁ズルト云フ、此立法ノ趣旨ヲ貫カレルナラバ、何故ニ政治運動、社會運動、議會運動ト、一切之ヲ禁ゼザルノデアアルカ、此不統一ナル本法案ノ精神ヲ明瞭ニシテ戴キタイト思フノデアリマス、尙ホ此點ニ付テ御伺致シタイコトハ、組合員ガ組合員ノ立候補ヲ喜ビ、自ら進ンデ組合ニ選舉運動費ヲ寄附センスル場合ニ於テ此寄附ヲ

如ク、産業組合ノ如ク、支離滅裂デアアルガ、内務大臣ハ過去一年間ニ互フテ、勞働組合ノ本質ヲ勞働條件ノ維持改善ト明確ニ現ハシタルニ拘ラズ、茲ニ支離滅裂、曖昧模糊ノ規定ヲ改變サレタ其理由ハ如何デアアルカ、其點ヲ御伺致シタイノデアリマス、第十條ニ依リマスレバ、社會局案ヲ見マルト、組合員ト爲シ得ルモノト致シマシテ、總會ノ決議ニ依ルモノハ、是ハ加入ヲ認メタノデアリマス、然ルニ本法案ニハ組合決議ニ依リ加入者ヲ削除シタ、蓋シ「プロカー」ヲ取締ルトカ「プロカー」ノ加入ヲ禁ズルト云フ趣旨デアリマセウガ、組合員ニアラズトモ、或ハ顧問、或ハ囑託ノ名ニ於テ組合ノ相談ニ應ゼシムル者ニ付キマシテハ、如何様ナル取扱ヲ爲サルノデアアルカ、本法ハ之ヲ禁ズルノデアアルカ、之ヲ默認スルノデアアルカ、此點ヲ明瞭ニシテ貰ヒタイ、第十二條ハ組合ノ費用ト徴收ニ關シマシテ制限ヲ置イテ居ル、衆議院議員、府縣會議員、市町村會議員、其他之ニ準ジマスル議員ノ選舉運動ニハ、組合ノ費用ヲ支出ヲ制限ヲ致シ、尙ホ組合員ヨリ其費用ヲ徴收スルノ權限ヲ制限致シテアリマス、惟フニ組合ハ經濟團體デアリ、産業團體デアリマスルガ故ニ、政治運動ト之ヲ引離スト云フ御趣旨デアラウトハ想像致シマスルケレドモ、吾々ノ信ズル所ニ依レバ、凡ソ組合員ヲシテ中央、地方ノ政治ニ參加セシメ、其參加スルコトニ依ッテ公正ナル政治知識ヲ得マスルコトハ、寧ロ之ヲ獎勵スベキモノデアアルト考ヘルノデアリマス、若シ政府ガ斯様ヲ選舉運動等ヲ禁ズルト云フ、此立法ノ趣旨ヲ貫カレルナラバ、何故ニ政治運動、社會運動、議會運動ト、一切之ヲ禁ゼザルノデアアルカ、此不統一ナル本法案ノ精神ヲ明瞭ニシテ戴キタイト思フノデアリマス、尙ホ此點ニ付テ御伺致シタイコトハ、組合員ガ組合員ノ立候補ヲ喜ビ、自ら進ンデ組合ニ選舉運動費ヲ寄附センスル場合ニ於テ此寄附ヲ

受クルコトヲ禁ズル趣旨ナリヤ、是等ハ英吉利法等ヲ參考サレタト思フノデアリマスガ、此趣旨ヲ明瞭ニシテ戴キタイト思フノデアリマス、次ニハ社會局案第十三條ニ於キマシテハ、組合ノ損害賠償ノ免責ノ規定ガアリマシタガ、本法案ニ之ヲ削除サレマシタ趣旨ハ、法理上組合ノ役員若クハ組合員ノ行爲ハ、組合ニ其責任無シト御考ニナラレタノデアアルカ、若クハ賠償ノ責ニ任ゼシムルノデアアルカ、此點ヲ明瞭ニ致シテ戴キタイト思フノデアリマス、第十三條、労働者ガ労働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇スルコトヲ得ザル等ノ規定ニ付キマシテハ、永ク議論ノアツタ所デアリマス、本法律案ニ依レバ、左様ナ行爲若クハ契約ヲ無効トスルノミデアリマシテ、何等此點ニ付テノ制裁規定ハナイヤウデアアルガ、若シ此立法ヲ必要トスルナラバ、此立法ノ目的ヲ達スルニハ、制裁ヲ必要トスルニアラズヤ、此點ニ關スル政府ノ所見ヲ質シタイノデアリマス

次ニ労働組合ノ本質ニ付テハ團體協約、團體交渉権ノ問題ハ、其中心問題ト考ヘルノデアリマスガ、本法案ニ依レバ、此重要ナル點ニ付テハ何等ノ規定ヲ置カレザル形デアリマスガ、政府ハ此點ニ付テ如何ナル所見ヲ有セラルルヤ、團體交渉権ヲ組合中ニ規定セザル理由如何、第六ハ、労働争議調停法ニ依リマスレバ、先程内務大臣ノ説明ノアリマシタ如ク、從來ノ調停委員會ヲ設ケ得ル場合ヲ擴張シテ、著シク關係地方ノ産業又ハ公益ヲ害スル虞アリト認メタルトキハ、其労働争議ニ關シ調停委員會ヲ開設シ得ルト規定シテアリマスケレドモ、凡ソ地方ノ産業ニシテ重要ナモノデアアルトカ、其結果地方ニ重大ナ影響ヲ及ボスト云フガ如キ、極メテ不明瞭ナ文字デス様ナコトヲ現シテ、他ノ交通、郵便、電信、電話、雷燈、瓦斯、水道ト云フガ如キ、其他ノ公益事業等ト之ヲ同一ニ扱フト云フコト

ハ、甚ダ當ヲ失スルト認メラレルガ、政府ノ所見如何

尙ホ此労働争議調停法ニ關聯シテ御尋シタイトコトハ、從來労働争議ノアリマシタ場合ニ於テ、多クハ其結果ニ於テハ、労働運動ニ關與シタ者ニ金一封ト云フガ如キ、所謂争議解決御禮ト云フガ如キコトヲ、警察當局ガ世話ヲ焼イテ實行セシメラル、コトハ、吾々ハ甚ダ不思議ニ思フ所デアリマスガ、政府ハ之ヲ禁ズルガ如キ法制ヲ立ツルノ意思アリヤ否ヤ、此點ヲ明瞭ニシテ戴キタイト思フノデアリマス

只今條文ニ付テ御質問ヲ申シマシタガ、此條文ノ中ニ現ハレタ此問題ニ付テハ、サヘモ、此労働組合法案ノ實體ハ殆ド支離滅裂ナ、何等ノ統一ナキモノデアアルコトハ、極メテ明瞭デアアルト考ヘルノデアリマス(拍手)安達内務大臣ハ果シテ自己ノ所信カラ之ヲ出シタノデアアルカ、若クハ過般此壇上ニ於テ農林大臣ガ、小作法案ヲ提出サレテ、修正サレルコトモ厭ハナイ、審議未了モ已ムヲ得ナイト御答辯ガアツタガ、安達君モ亦議會ニ責任ヲ轉嫁スルト云フ意味デ、修正撤回モ少シモ意トシナイト云フ御意思デアアルカ、私ハ最後ニ斯様ナ古靴ヲ結ビ合セタヤウナ法律案、鰻井ト稱シテ、井ダケデ飯モ鰻モナイヤウナ此労働組合法案ノ如キハ、速ニ撤回セラレルコトガ、安達君ノ面目ヲ立ツル所以ナリト信ズルノデアリマス(拍手)撤回ノ意思アリヤ否ヤ、此點ヲ明瞭ニシテ戴キタイト思フノデアリマス(拍手)

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕
○國務大臣(安達謙藏君) 只今御尋ノ第一ハ、産業平和確立ニ對スル考ハドウカト云フ御話デアリマシタガ、無論吾々ハ産業平和ノ確立ヲ期シテ居ルノデアリマス、故ニ労働者、資本主、此相互ノ間ノ協和調停ト云フコト、即チ徹底セル勞資協調ト云フコトヲ土臺ト致シテ居リマス(何處ニ現ハレ

テ居ルカ)ト呼フ者アリ)此間ニ於キマシテ有ユル方面ニ於テ、此勞資ノ協調ハ出來得ルダケ徹底ヲ期シタイト、日夜忘レズシテ總テノ割出シガソレヲ基準ト致シテ居リマス、唯、今御尋ノ労働運動ヲ警察ノ力ニ依ッテ解決スルト云フコト(其通り)ト呼フ者アリ)是ハ大變ナ間違デアリマスカラ一言申上ゲマス

今日マデ度々起リマシタ労働争議ハ、單純ナル經濟争議ト認ラレヌモノガ多イノデアリマス(拍手)私ハ單純ナル經濟争議デアッタナラバ、無論干渉致シマセヌ(何ト認メルカ)ト呼フ者アリ)所ガ今日ノ労働争議ノ其裏面ニハ、實ニ忌ムベキ、恐ルベキ思想問題ナドガ錯綜致シテ居リマシテ(拍手)サウシテ一種激激ナル思想ヲ有シタ者ガ其背

面ニ居ッテ、有ユル策動ヲ爲シマス、ソレニハ學生モ加ハル、恐ルベキ現象ガアリマス爲ニ、私ハ不本意ナガラ、已ムヲ得ズサウ云フ場合ハ警察權ヲ以テ取締ラザルヲ得ヌノデアリマス(拍手)ソレニ藉口シテ(呼フ者アリ)此點ニ付キマシテハ御互ニ冷靜ニ考ヘマシテ、今日思想問題ト労働争議問題ト茲ニ混合シテ居リマス、サウシテ有ユル機會ニ於テ労働争議ヲ利用シテ思想ヲ惡化セシメヨウト云フ、一種ノ極端ナル考ヲ持ッタ人ガ労働争議ノ背景トナッテ居リマスカラ、吾々ハ警察權ヲ以テ其不當ナル所ヲ取締ラザルヲ得ヌノデアリマス(拍手)労働争議ガ「レール」ニ乗ッテ公平公正ニ行ハレマシタナラバ、決シテ干渉致シマセヌケレドモ、今日ノ争議ハ決シテ經濟争議デハナイ、故ニ吾々ハ已ムヲ得ズ、茲ニ往々警察權ヲ用ヒテ之ヲ取締ラザルヲ得ヌコトヲ、甚ダ遺憾ト致シテ居ルノデアリマス(拍手)ソレデ政府ハ何處マデモ資本主側及ビ労働者側ノ中間ニ居リマシテ、穩健中正ナル考

デ労働問題ノ解決ヲ致サウト考ヘテ居リマス(拍手)
ソレカラ第二ノ社會政策、労働政策ニ何

等ノ意見ガナイ(田子一民君「サウデハナイ、順序ヲ、聽イテ居ル」ト呼フ)而シテ生存ヲ保護スル爲ノ救護法ノ實行ニ付テノ御非難ガアリマシタガ、是ハ先刻モ御答致シマシタ通り此救護法ハ近日財源ヲ定メマシテ、而シテ追加豫算トシテ御協賛ヲ願フコトニナッテ居リマスカラ、ドウゾ其點ハ御諒承ヲ願フテ置キマス(拍手)

ソレカラ失業ノ對策ト云フコトニ付キマシテハ、失業防止及ビ救濟ニ努ムルコトハ申スマデモアリマセヌガ、政府ト致シマシテハ、一方ニ地方ニ起債ヲ許シ、或ハ國家モ起債ヲシテ、サウシテ失業者ヲ救濟スルト云フコトガ一つ、又農林省ガ低利資金ノ融通ヲ農村、山村、漁村ニ致シマシタコトモ一つ、悉クノ失業對策ハ此處デ詳シク申上ゲマセヌガ、現政府トシテハ失業對策ハ澤山アリマス、ソレダカラ唯斯ル労働組合法ヲ出スト云フコトハ、一種ノ宣傳策ニ過ギナイト云フコトハ、大變ナ誤解デアアル、今日ノ場合ニ於キマシテ、私ハ此際労働組合法案ヲ出シマシテ、サウシテ労働運動ヲシテ公正ナル軌道ノ上ニ乗セシムルト云フコトガ、政府トシテ當然努メナケレバナラヌコト、確信致シテ居ルノデアリマス

ソレカラ失業保險法案云々ト云フコトデアリマスガ、此失業保險ト云フコトニ付テハ、或ハ失業手當ト云フヤウナコトハ、頗ル慎重ニ調査研究ヲ要セバナラヌ問題デアリマスカラ、ソレデ現在失業防止委員會等ニ於キマシテ、此邊ノコトハ十分研究致ス積リデアリマス、而シテ海員ノ保險及ビ労働者災害扶助法案ハ、近々提案致ス積リデ居リマス

ソレカラ此度ノ労働組合法案ハ、元ノ社會局案ダッタナラバ明瞭デアアルケレドモ、此度ノ案ハ本質ガ不明瞭デアアル、斯ウ云フ意味ノ御尋デアリマスガ、是ハ一言申上ゲ

テ置カネバナリマセズ、彼ノ社會局案ナルモノハ、是ハマダ内務省トシテ確定セル案デハアリマセナカッタガ、唯審議會ノ答申ヲ基礎トシテ拵ヘマシタモノデアッテ、簡單ニ御話シマスルト、彼ノ所謂社會局案ナルモノハ、現在ノ勞働組合ノ狀態ハ經過規定ニ於テ認メマス、併ナガラ現在ノ狀態ヲ以テ満足セズ、此勞働組合ヲ指導シテ行キタイ、サウシテ是方向上ヲ圖リタイ、ソレニハドウスルカト申シマスト産業別、職業別ト云フコトニシナケレバナラス、日本ノ勞働組合ノ出來マス所ノ、其種類ヲ類別致シテ見マスルト、モウ今日ハ殆ド百分ノ約五十位マデハ産業別デアル、又職業別モ之ニ附イテ居リマス、其他ノモノハ非常ニ少イ、ソレハ今日ノ趨勢ガ既ニ産業別、職業別ニナリツ、アル、故ニ此趨勢ヲ利導シ善導シテ行カネバナラスガ爲ニ、第一條ニ産業別、職業別ト云フコトヲ第一ニシテ、サウシテソレナラ現在ノ組合ハ非常ニ困ル、迷惑ヲセラレルト云フ考カラ、現在ノ勞働組合法ハ經過規定ニ於テ、是ハ同一ノ勞働組合ト看做シテ、一方ニ現在ハ認メテ居ル、而シテ今後勞働組合ヲ作ルモノハ、産業別、職業別ニ依ッテ作ラナケレバナラスト云フコトニシテ、第一ニ組合ニ對スル指導精神ヲ發揮シタノデアリマス

間ニ居テ、サウシテ勞働者側ノ方カラ言フナラバ、マダノ勞働爭議ガ自由ニナルヤウナコトヲ規定シテ貰ヒタイト云フノガ希望デアリマセウ、又資本案側カラ言フナラバ、有ニル條項、例ヘバ第十條ノ役員ノ問題、或ハ第十二條、或ハ第十三條ノ如キ所ヲ削リテ貰ヒタイト云フ希望デアリマセウガ、吾々ハサウ云フコトハ雙方ノ意見ヲ容レズニ、故ニ最モ穩健ナル所ヲ選ンデ此法案ヲ作リ積リテアルノデアリマス(拍手)

勞働爭議調停法ハ頗ル冷僻無情ト云フヤウナ御言葉ガアリマシタガ、サウデハナイ、勞働爭議ヲ調停スルコトガナゼ惡イカ、私ハ出來ルダケ爭議ハ調停シテ行キタイト思フ、ソレデ著シク地方ノ産業ニ影響ヲ及ボスモノヲ調停スルコトニ付テ、是ハ當ヲ失シテ居ラヌカト云フ御尋デアリマスガ、私ハ最モ當ヲ得タモノト確信致シテ居ルノデアリマス(拍手)

ソレカラ金一封ノコトノ御尋ガアリマシタガ、警察ナドデ今御話ノヤウナコトヲスルト云フコトハ、大ニ注意シナケレバナラヌト思ヒマス、而シテ今此爲ノ法制ヲ立ツルノ意思ガアルヤ否ヤト云フ御尋デアリマスガ、現在ニ於テ其邊ハ何モ考ヘテ居リマセズ、要シマスルニ此案ハ種々研究ノ結果、吾々ノ緊キ信念ノ下ニ提案シタノデアリマスカラ、此法案ヲ修正又ハ撤回スルト云フヤウナコトハ、萬々ナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス(拍手)

(田子一民君發壇)

○田子一民君 只今内務大臣ノ御答ガアリマシタガ、御答辯其モノハ法案ノ支離滅裂ナルガ如ク、答辯モ極メテ支離滅裂デアアルシテハ、何人モ安達君ノ答辯ニ満足シテ者ハナカラウト思フデアアル(拍手)而シテ只今答辯ヲ避ケラレタル法第十二條、法第十三條、竝ニ舊社會局案ニアリマシタ十三條

ノ免責ノ規定ニ付テノ考、是ハ御答辯ニナル必要ノアル重要ナル問題ダト思ヒマス、尙ホ答辯ニ依リマシテハ更ニ御尋シマスケレドモ、先ヅ此條文ノ御答辯ヲ得タイト思フノデアリマス

(國務大臣安達謙藏君發壇)

○國務大臣(安達謙藏君) 御尋ニ對スル答ヲ著シマシタガ、此第十二條ノ議員選舉ノ費用ヲ組合員カラ徵收スルコトヲ得ナイ、是ハ當然ノコトト考ヘマス、此勞働組合ナルモノハ……

(發言スル者アリ)

……君靜肅ニ願ヒマス

○議長(藤澤幾之輔君) ……君靜肅ニ願ヒマス

○國務大臣(安達謙藏君)(續) 是ハ政治的團體デハ全クナイ、此勞働組合ニ議員ノ選舉ノ金ヲ出サシムルト云フコトハ、全ク間違テ居ルト考ヘマス、サウ云フ場合ハ、是ハ勞働組合員モ各種ノ政黨ニ屬シテ居ル人ト考ヘマスカラ、政黨ノ方デ金ヲ出スト云フコトハ少シモ差支ナイ、勞働組合ハ此費用ヲ支出シ、又ハ費用ニ充ツル爲ニ組合員ヨリ金錢ヲ徵收スルト云フコトハ宜シクナイ、之ヲ取締ルコトガ當然ト考ヘマス、ソレカラ十三條ノ「雇傭者ハ勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇スルコトヲ得ズ」是ハ當然ノコトデアッテ、勞働者ノ方ニハ十分同情ヲ持ッテ立案シタ法文デアッテ、之ヲ除イタラ、ソレコソ所謂骨抜き案ト謂ハレマセウガ、是ハ組合法案ノ骨子ト云フテモ宜シイノデアリマス、是ハ飽マデ保持シナケレバナラスノデアリマス

(松村光三君發壇)

○松村光三君 私ハ茲ニ專ラ勞働組合法案ニ付キマス、大正九年以來難産ニ難産ヲ重ネマシマス、茲ニ崎形兒トシテ、片輪トシテ生レ出デタル此法案ニ對シマシテハ、喜ブベキ現象ト謂ハシヨリモ、甚ダ悲ムベク、吊フ

ベキ現象ト謂ハザルヲ得ナイト思フノデアリマス、私ハ先ヅ本案ニ對スル二ツノ根本問題ヲ質疑シ、更ニ本案其モノ、内容ニ付キマシテ質疑ヲ進メントスル者デアリマス

第一ニ本案提出ノ経路ガ甚ダ不徹底デアリ、甚ダ不誠意デアアル、第二ニ本案提出ノ時期ガ甚ダ誤リテ居ルト云フコトデアリマス、先ヅ此二ツノ問題ニ付キマシテ當局ノ明快ナル説明ヲ求ムル者デアリマス、抑、組合法案ハ政黨ノ一枚看板デアリ、而シテ選舉對策ノ賣物デアッタ、茲ニ第五十一議會竝ニ五十二議會ニ於キマシテ、此法案ガ民政黨ヨリ提出サレ、而モ會期終リニ之ヲ出シタガ爲ニ、審議未了ニ終リタト云フ歴史付ノ法案デアアル、今又會期半バヲ過ギタル今日、此法案ヲ提出スル所ノ現内閣、民政黨ノ誠意ヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、現内閣ノ十大政綱ノ一ト致シマシテ、社會政策ノ一大根幹タル組合法案ハ、民政黨ガ屢、此問題ヲ振擧シテ議會ニ臨ンダ問題デアリマス、併ナガラ茲ニ提案サレタ案其モノハ、唯大正十四年ノ社會局法案其モノデアリ、再現デアリ、燒直シト謂ハシヨリモ、案其モノデアリマス、而モ現内閣組閣ノ當初ニ當リマシテ、社會政策審議會ナルモノヲ拵ヘ、此案ノ審議ヲ爲シタ、審議完了後滿一箇年モ之ヲ高閣ニ束ネラレテ居タノデアアル、而シテ茲ニ實業界ノ巨頭連中ガ訪問致シマス、此案ハ完全無缺デアアル、ソレ故ニ何等變更ノ餘地ハ無イト云フコトヲ豪語シテ居ッタ、實業界ニ向ッテハ、恰モ數ユルガ如クニ、之ニ反對スルガ如キハ即チ現時ノ社會運動ノ大勢ヲ知ラナイ者デアルト豪語シテ居ッタ、然ルニ何ゾヤ、一年経ツヤ經タズニ、現内閣ハ漸次ニ方向轉換ヲ致シマシテ、其理由トシテハ只今安達内相ノ言ハレタ通りニ「ソレハ社會局ノ私案デアアル、カラシテ別ニ御名案ガアルナラバ現内閣ハ之ヲ變更改竄スルニ何等快シキ所ナイト云フコトヲ言フテ居ル」、是レ即チ方

向轉捷ノ口實デアリマス。斯ノ如ク致シマシテ昨年十二月十九日デアリマシタカ、所謂實業界ノ五人ノ巨頭連中ヲ招シテ案ヲ諮ラントシタノデアリマス、此問題ニ付キマシテハ、安達内務大臣並ニ社會局長官ガ、此間ニ斡旋致シマシテ、而モ實業家連中ヲ欺キ、各一人々々勸誘致シマシテ、懇談會ヲ催サントシタノデアリマスガ、其欺慢的勸誘ノ方法ガ遂ニ暴露致シマシテ、一人モ出席シナカッタト云フ、憐ムベキ結果ニ陥ラノデアアル、而モ本年一月再ビ資本家ノ會合ヲ催シテ、茲ニ新ナル改竄ヲ爲シ、僅カ十日餘ノ間ニ、俄ニ幾多ノ修正追加ヲ爲シテ、茲ニ本案ガ提出サレタノデアリマスガ、此會期半ベ過ギタル今日、斯ノ如キ一現内閣ノ不徹底ニシテ、甚ダ不誠意ナル行動ハ、所謂十大政綱ノ破綻デアリ、明ニ政治上ノ自殺デアルト吾々ハ謂ハナケレバナラヌノデアリマス(拍手)殊ニ斯ノ如ク重大ナル社會立法ノ成立ニ當リマシテハ、宜シク慎重審議シナケレバナラナカッタノデアアル、然ルニ所謂社會政策審議會ノ組織ハドウデアリマスカ、社會政策審議會ハ、現内閣閣下同時ニ組織サレマシタガ、其十五名ノ委員ノ額中、安達内務大臣以下閣僚ガ五名、貴族院議員ガ四名、衆議院議員ガ五名、學者ガ二名デアリマス、而モ此衆議院議員五名ハ、悉ク民政黨ノ人デアリマシテ、殆ド黨略本位、政黨本位ノ額額レデアリマス(拍手)斯ノ如キ額額レニ依リマシテ、此審議會ハ遂ニ茲ニ成案ヲ得タノデアリマスルガ、全ク黨略本位ノ審議會デアッタト云フコトハ、言フ俟タヌノデアリマス、斯ノ如キ重大法案ハ、宜シク慎重審議シナケレバナラヌコトハ、言フ俟タヌコトデアアル、而モ黨略本位ノ社會政策審議會ノ結果、茲ニ辛ウジテ此案ガ成立シタノデアリマスルガ、要スルニ此案ノ基礎ハ、社會政策審議會ナドト云フ少數者流ノ——民政黨本位ノ、官僚的ノ、學者ノ集リノ成案ニナ

タモノデアリマス、而モ辛ウジテ成ツタル此成案ヲ、或ハ右顧左顧、或ハ勞働者ニ聽キ、或ハ實業家ニ聽キ、右ニ廻リ左ニ廻リマシテ、恰モ猫ノ眼ノ如クニ幾度カ改竄サレマシテ、漸ク出來上ツタノガ此法案デアリマス、私ハ斯ノ如キ法案ハ、其制定ノ経路ニ於キマシテ、明白ニ現内閣ノ不誠意ヲ暴露シタモノデアアルト斷ゼザルヲ得ナイノデアリマス、
更ニ第二ニ問ハントスル所ハ、此法案ガ提出ノ時機ヲ非常ニ誤テ居ルト云フコトデアリマス(拍手)此組合法案ニ依リマシテ、勞働者ハ、其勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスルノデアリマスガ故ニ、勞働者保護ニ必要ナ事ハ言フ俟タヌノデアリマス、併ナガラ其反面ニ、是ガ産業經濟ニ及ボス所ノ影響モ考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス、要スルニ分配ハ生産ガ基礎デアアル、生産ノ増加ナシニハ分配ハ有リ得ナイ、而モ此生産ノ問題ハ勞働ト資本ト協調連帯デナケレバナラヌ、ソレ故ニ産業ノ發達、産業ノ繁榮ナシニハ分配ノ解決ハ不可能デアリマス、然ラバ爾レテ現時我國ノ産業状態ヲ見マスルナラバドウデアリマス、言フマデモナク現内閣ノ言葉ヲ藉リ來ルナラバ、世界ノ不景氣ト申シテ居リマス、併ナガラ之ヲ卒直簡明ニ説明致シマスルナラバ、世界ノ不景氣ト同時ニ、現内閣ノ所謂失敗ノ結果、斯ノ如キ不景氣ガ起ツタノデアリマス(拍手)即チ世界ノ不景氣ト、現内閣ノ失政ガ二ツ合フテ、加速度ニ、二重奏ニ茲ニ不景氣ガ齎ラサレタノデアリマス、而モ此不景氣ハ、從來ノ如クニ周期的循環的ノモノデアリナイノデアリマス、不景氣ノ山テ來ル根幹ハ甚ダ深イノデアリマス、茲ニ於キマシテカ、或ル種ノ社會主義者、或ハ極端ナル評論家ハ、此不景氣ハ將ニ資本主義崩壊ノ時機デアルト叫ブノデアリマス、私ハ斯ノ如キ端見者流ノ意見ニ贊同スル者デアリマスガ、少クトモ今日ノ不景氣ハ

實ニ深刻ナルモノデアアル、而モ此深刻ナル不景氣ハ、更ニ一層是カラ深クナルト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、現内閣殊ニ井上大藏大臣ハ、不景氣ハ底ヲ突イタト云フテ居ルガ、此不景氣ハ果シテドウナッテ居リマス(質問ヲヤレ)松村何ヲ言フテ居ルト呼ビ其他發言スル者多シ(質問ヲ緩クリヤルカラ黙ツテ居レ……)
○議長(藤澤幾之輔君) 私語ヲ禁ジマス——
私語ヲ禁ジマス
○松村光三君(續) 即チ此底ヲ突イタト云フ不景氣ハ、果シテドウナッテ居ルカ、一月一日ノ倫敦ノ物價指數ハ九八・七トナッテ居ル、是レ果シテドウデアアルカ、即チ戰爭前ノ物價標準ヲ破ツテ居ルデハナイカ、不景氣ガ底ヲ突イザルコトハ、唯此一ツノ事實ニ於テモ明白デアリマス
斯ノ如ク世界ノ不景氣ハ底ヲ突カズ、殊ニ日本ノ不景氣ハ更ニ一層是ヨリ深刻ニナルト云フ今日ニ於キマシテ、斯ノ如キ法案ヲ提出スルト云フコトハ、即チ現内閣ガ今日ノ社會状態、産業状態ヲ無視スルモノト謂ハナケレバナラヌノデアリマス(拍手)私ハ斯ノ如キ深刻ナル不景氣、而モ此不景氣ハ更ニ今日以後、一層深刻化シ、日本ノ産業ハ將ニ破産ニ陥マントスル此時此際、斯ノ如キ重大法案ヲ提出スルト云フガ如キ、如何ニモ現内閣ガ、現在ノ産業ニ理解ガ無イ、現在ノ社會状態ニ理解ノ無イモノト謂ハナケレバナラヌト思フノデアリマス(拍手)而モ此内閣ハ、前ニモ田子君ノ言ハレタ通りニ、救護法ヲ實施スルコトガ出來ナイ、失業ニ對シテ何等ノ對策ガ無イ、斯ノ如キ無能ナル内閣ガ、茲ニ突如トシテ此案ヲ出シタト云フコトニ付キマシテハ、如何ニモ不誠意デアリ、其時機ヲ誤ツテ居ルト云フコトヲ數カザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)私ハ此問題ニ付キマシテハ、簡單ニ支那ノ王安石ノ故事ヲ以テ結ビタイト思フノデアリマス、即チ一ツノ湖ヲ埋メルノ

ニ、新ナル一ツノ湖ヲ堀テハナラヌト云フコトデアリマス、要スルニ此勞働者ノ保護ニ急ナルガ爲ニ、此現在ノ産業状態ヲ無視シテ、斯ノ如キ法案ヲ提出スルト云フコトハ、其時機ヲ得ザルモノデアアルト云フコトヲ斷定スルモノデアリマス(拍手)私ハ此二ツノ事柄ニ付キマシテ、政府ノ明快ナル答辯ヲ求ムル者デアリマス
○何ヲ質問シタング(其他發言スル者多シ)
○議長(藤澤幾之輔君) 私語ヲ禁ジマス——
靜肅ニ願ヒマス
○松村光三君(續) 即チ之ヲ要言致スナラバ、抑、本案提出ガ甚ダ不誠意デアアル、甚ダ時ヲ得テ居ラヌ、時ノ選擇ヲ誤ツテ居ルト云フコトデアリマス
更ニ進ンデ、私ハ茲ニ法案其モノ、内容ニ付テ是カラ質疑ヲ進ムル者デアリマス、先ヅ第一ニ本案第一條ニ規定スル勞働組合ノ目的デアリマスガ、社會局原案ニ依リ第一項ト第二項ヲ何故ニ突如トシテ茲ニ結付ケテ、一ツノ法案トシタカト云フコトデアリマス、即チ勞働組合ノ目的ニ關シマシテ何ノデアリマス、而モ職業的並ニ産業的ノ組合ヲ認ムルト同時ニ、所謂一般勞働組合ヲ完全ニ認メテ居ルカ否ヤト云フ問題デアリマス、是ガ第一ノ質疑デアリマス、更ニ第一條ニ關聯致シマシテ勞働者ノ年齢、國籍、並ニ公益事務ノ從事者ニ對スル態度デアリマス、更ニ勞働者ノ員數、之ヲ限ツテ居ラヌ所ノ理由ハ何處ニアリマスカ
第二ハ勞働組合ト政治運動ノ關係デアリマス、前田子君ガ質問サレマシタガ、本案第十二條ニ依リマシテ勞働組合ハ、衆議院議員其他地方團體ノ選舉ニ金ヲ出スコトガ出來ナイト云フコトガ明記サレテ居リマス、然ラバ金錢以外ノ物資ノ供給並ニ徵發ハ如何デアリマスカ、更ニ根本ニ週リマシテ、勞働組合ノ政治運動ヲハッキリ認メテ居リマスカドウカ、是ガ第二ノ質問デアリマス

第三ノ質問ハ……

〔贊成スルノカ反對スルノカ、ソレヲ言フテ見ロ其他發言スル者アリ〕

○議長(藤澤淺之輔君) 靜肅ニ願ヒマス——

○松村光三君(續) 質疑ヲシテカラ言フテヤル、默テ聽ケ

〔反對カ贊成カ一言言フテ見ロ其他發言スル者アリ〕

○議長(藤澤淺之輔君) 靜肅ニ願ヒマス——

○松村光三君(續) 本案其モノニ對スル第三ノ質疑ハ、内務大臣ハ屢、勞資協調ヲ基調トスルト云フコトヲ言ハレテ居リマス、果シテ然ラバ本案ノ追加附則ノ第一條ニ於キマシテ、既存ノ勞働組合ハ悉ク之ヲ是認スルト云フ理由ハ何處ニアルカ、即チ附則第一條ニ依リマシテ、今日存在シテ居ル勞働組合ヲ、悉ク之ヲ認メルト云フ理由ハ何處ニアルカ、先程内務大臣ノ説明ニ依リマスニ、我國ノ組合中ニハ頗ル過激劇烈ナルモノガ澤山アル、之ヲ屢、取締リ、屢、解散ヲ命ジテ居ル、斯ノ如キ過激ナルモノガ澤山今日存在シテ居ル、其組合ヲ、今日現存シテ居ルト云フコトニ依リテ、直ニ承認スル理由ハ何處ニアルカト云フコトデアリマス、更ニ第十條ノ第一項ニ於キマシテ、當該組合ノ役員又ハ役員タリシ者ハ如何ナル性質ノモノデアリニ拘ラズ、悉ク之ヲ優遇シテ組合員タルコトヲ認メルト云フ論議ハ何處ニアリマスカ、何故ニ此第十條ノ規定ヲ、勞働組合ノ總會ノ決議事項トシナカッタカト云フコトデアリマス

此三點ニ付キマシテ御伺ヲ致シマシテ、更ニ質疑ヲ繼續スル者デアリマス、繰返シテ申スナラバ、第一ニ現内閣ハ、本案ニ對シテ甚ダ不誠意デアアル、之ヲ諸外國ノ議會ニ鑑ミテ見マスルナラバ、斯ノ如キ重大法案ハ若シ萬一是ガ兩院ヲ通過シナカッタ場合ニハ、憲法政治ノ本義ニ鑑ミマシテ、現

内閣ハ果シテ如何ナル責任ヲ執ルカト云フ問題デアリマス、第二ハ今日斯ノ如キ産業非常時ニ、何故ニ本案ヲ提出シタカト云フコトヲ明白ニ御答辯ヲ願フデアリマス、更ニ本案其モノニ對シマシテハ、第一勞働組合ノ目的ニ關シマシテ、明快ナル御答辯ヲ願フデアリ、第二ハ勞働組合ノ政治運動ニ關シ、第三ハ附則第一條並ニ本案第十條ニ對シマシテ明快ニ御答辯ヲ願フ者デアリマス、之ノ御答辯ヲ得マシテ更ニ重ネテ質疑ヲ申上ゲマス(拍手)

〔國務大臣(安達謙藏君) 只今ノ御質疑ニ御答致シマス、此勞働組合法案提出ノ徑路ガ頗ル不明瞭デアアル、不徹底デアルト云フコトノ前提ノ下ニ、組閣早々審議會ヲ開イテ、一年間高閣ニ東ネテ置キナガラ、昨年ノ暮頃カラ方向轉換ヲシテ、サウシテ實際家ノ懇談會云々ト云フ御話デアリマシタガ、私ノ此組合法案ニ對スル考ハ、成ベク各方面ノ意見ヲ採リマシテ、サウシテ穩健ナル意見ヲ採用シヨウ、斯ウ云フ基礎觀念ノ下ニ、何等蟬リナク、白紙狀態デ各方面ノ意見ヲ尊重シテ居ラノデアリマス、ソレデ昨年ノ末、御話ノ通り實業家及ビ勞働者側ノ懇談會ヲ催シマシタ、所ガ實業家ノ方面デハ、餘リニ神經過敏ニナツテ居ラレマシテ、何ダカ此勞働組合法案ハ、實業家ニ非常ナ脅威ヲ與ヘルカノ如キ考ガ、先入シテ居リマシタ、其爲ニ懇談會ガウマク行ハレナカッタケレドモ、其時勞働者側ノ代表者ハ、皆擁ツテ出席セラレマシテ、勞働者ヲ代表セラレル所ノ意思ハ、十二分ニ聽取ルコトガ出來タノデアリマス、ソレカラ御話ノ通り本年ノ一月ニハ、資本家側ノ方ヲ招待致シマシテ、再ビ緩クリ意見ヲ聽キマシテ、資本家側ノ意見モ十二分ニ私ハ聽取リシテ居ルデアリマス(拍手)ソコデ吾々ガ此法案ヲ出スニ付テハ、勞働者側ノ意見ニモ偏セズ、資本家側ノ意見ニモ偏セズ、全ク

中庸ヲ採ツテ、實際ニ勞働問題ヲ解決スルハ、此程度ガ一番穩健中正デアルト云フコトノ斷案ヲ下シタノデアリマス、ソレデハハ十大政綱ノ破綻デモ何デモナイ、其十大政綱ノ一タル所ノ、社會政策ノ主ナルコトガ、茲ニ始メテ確立スルノデアリマス

ソレカラ審議會ノ委員ハ、黨略本位カラ、民政黨ノ代議士トカ、或ハ民政黨外ノ學者トカ委員トシテ、實業家側モ、勞働者側モ、兩方入レナカッタト云フ意味ノ御尋デアリマスガ、此委員會ノ組織ニ當リマシテハ、種々考ヘマシタ、最初ハ資本主側、或ハ勞働者側モ、與ニ俱ニ委員トシテ此委員會ヲ組織シヨウカト云フ考ヲ起シマシタ、サリナガラサウナリマス、是ハ確ニ兩方カラ議論ガ出マシテ、到底此會ハ纏ラナイ、ソコデ資本家側モ勞働者側モ委員トセズシテ、全ク第三者デアアル所ノ官吏、若クハ學者ヲ以テ此會ヲ造ラウト云フ考カラ造ツタ委員會デアリマスカラ、此審議會ノ委員ハ、決シテ民政黨トカ、現内閣ニ依リ最良スルヤウナ方バカリデナク、確ニ勞働問題ヲ、如何ニセバ中正穩健ニ解決シ得ルカト云フ考ヲ持ツテ居ル方バカリデアッタト思ヒマス(拍手)

第二ニ此法案ヲ出スニ付テハ、時機ヲ失シテ居ルデハナイカ、此不景氣ノ場合ニ、此法案ヲ提出シタルコトハ宜シクナイデハナイカ、現在ノ産業狀態ヲ理解セヌカラ、斯様ナ財界不景氣ノ場合ニ此法案ヲ提出シ今日ノ不景氣、今日ノ産業狀態ハ、十分承知致シテ居リマス、併ナガラ今日ノ如ク不景氣ナルガ爲ニ、今日ノ産業狀態ガ斯ク在ルコトニシテ、此處デ勞働組合法ヲ作ルト云フコトニシタノガ、何ガ惡イデセウカ、少シモ差支ナイ、此勞働組合法ヲ作ツタ爲ニ、資本家側ノ産業ヲ壓迫スルヤウナコトガアッタナラバ、ソレハ御尋ノ通りデアリマセウケレドモ、吾々ハサウハ考ヘナイ、此組合

法ヲ作リマシテモ、決シテ是ガ爲ニ産業ヲ壓迫スルモノニアラズ、資本家ニ迷惑ヲ掛ケルモノデモ何デモナイ、ソレハ自カラ別問題デアリマス、只今ノ御尋ハ、資本家側ヲ代表セラレタヤウナ御言葉デアリマシタガ、吾々ハ其根本ノ見解ガ違テ居ルト云フコトヲ明白ニ申上ゲテ置キマス

此所謂勞働者側、其勞働者ノ後ロニ居ル所ノ大多數ノ、所謂民衆ノ思想ノ流れ、此思想ノ流れヲ善導シ、利導シテ行カケレバ、國家ノ大策ヲ誤リマス、吾々ハ此場合ニ於テ勞働組合法ヲ提出シタガ、其勞働組合法ノ法規ノ下ニ支配サレル人ハ、僅カノ人ニ違ヒナイ、併ナガラ其勞働者ノ後ロニ居ル所ノ、數百万人ノ我國ノ民衆大衆ト云フモノハ、勞働者ニ同情ヲ表シテ居ルデアリマスカラ、此場合ニ思想問題ノ上カラ考ヘテモ、勞働立法ヲ爲シテ、サウシテ玆ニ大衆ノ思想ノ流れヲ善導シ、利導シテ行クト云フコトハ、我國ノ政治ニ最モ大切ナコト、考ヘテ居ルノデアリマス

而シテ今度ハ法案ノ條文ニ付テノ御尋デアリマスガ、元ノ社會局案ニハ、勞働條件ノ維持改善ト云フコトガアッタノニ、ソレニ共濟或ハ修養ト云フヤウナモノト結付ケタコトガ宜シクナイト云フコトデアッタガ、是ハ先程モ御答致シマシタ通りニ、原案ハ現在ノ勞働組合ヲ此儘認メテアリマシタノヲ、今度ハ根本ガ産業別、職業別、之ヲ本當ノ土臺ニシマシテ、サウシテソレニ勞働條件ノ維持改善ハ勿論、修養共濟等ノコトモ含メテ、是デ勞働組合ト云フモノハ作ラナケレバナラスタト云フ所ノ、勞働組合ノ今後ノ進ムベキ所ノ根本方針ヲ、是デ指示シテデアリマス、サリナガラ現在ノ組合ハ、是ハ認メナケレバ、現在ノ組合ヲ非常ニ壓迫シ、脅威スルコトニナルカラ、現在ノ組合ハ其儘之ヲ認メテ置ク、即チ御話ノ、附則ノ第一條デアリマス、之ニ付テ、テヨット先ノ私ノ話ヲ誤解シテ居ル所ガアリマス、

現在ノ組合ニハ非常ナ過激ナル者ガ居ル、ソレダカラ之ヲ認メルト云フコトハ不都合デアラト云フ御話デアリマスガ、私ハ現在ノ組合ニ、左様ナ過激ナ者ガアルト云フコトハ認メテ居リマセヌ、曩ノ勞働争議、今日ノ「ストライキ」ガ非常ニ悪化スル、過激ナ傾向ノアルハ、寧ロ組合以外ノ者ガ、後カラ應援ヲ致シマス、極端ニ思想悪化シタ所ノ學生ナドガ、之ニ參加シテ、サウシテ經濟「ストライキ」ヲ益、悪化シ、暴動化スルヤウナ傾向ガアリマス、現在ノ組合員ノ中ニ、過激ナル者ガアルト云フヤウナコトハ、私ハ考ヘテ居リマセヌ

ソレカラ勞働者ノ國籍トカ、年齢トカ、員數、是等ハ何等ノ制限ハ致シマセヌ、ソレカラ勞働運動ト政治運動ハ、確カニ是ハ別ニシナケレバナラヌ、之ヲ區別シナケレバナラヌ、政治運動ハ、所謂無黨派ナラ無産黨ノ各、政黨ニ依テ運動スベシ、組合ナルモノハ妄ニサウ云フ事ヲシテハナラヌノデアリマス

ソレカラ勞資協調ニ依ルト云フコトヲ言ヒナガラ、現在ノ組合ヲ認メタノガイケナイト言ハレルガ、所謂資本家側ノ意見ガ其處ニアルノデス、勞資協調ハ、私ハ徹底セル協調主義デアル、サラバト言ヒマシテ、茲ニ現在ノ組合ヲ盡ク認メナイ、盡ク解散セシムル、サウ云フコトハ、爲スベキモノデヤナイ、今日現在ニ處シテ政治ヲ爲ス者ハ、サウ云フコトハ、無理ナ行政デアリマス、ソレデ今後勞働組合ノ進ムベキ所ハ、是ハ産業別、職業別ニシテ行ク、併ナガラ現在ノモノハ、現在ノ儘デ之ヲ認メテ置クト云フコトガ、今日ノ現在ニ處シテ行ク所ノ頗ル穩健著實ナル行動ト私ハ考ヘマス

テハ、苟クモ勞働組合ノ役員トナル人ハ、相當ノ學識經驗アリ、相當ノ知識アル人ニアラザレバ、役員トハナリ得ナイモノト、私ハ非常ニ役員ヲ重ク善意ヲ以テ解釋シテ居リマス、勞働「ブローカー」、サウ云フ惡イ事ヲスル人ガ此組合ノ役員ニナルヤウナコトハナイ、又組合ニ於キマシテハ制裁ガアツテ、今後自分ノ組合ヲ代表シテ行ク以上ハ、サウ云フ社會ガ聲望スルヤウナ者ヲ組合役員トシテ、其組合ガ發達スルコトハアリマセヌカラ、私ハ世間デ聲望スルヤウナ人ガ、將來組合ノ役員トナル者ハナカラウト考ヘテ居ル次第デアリマス

〔松村光三君登壇〕

○松村光三君 只今内務大臣ヨリ御答辯ヲ得マシタガ、第一ノ質疑ニ對シマシテハ、ソレハ頗ル諳辯デアリマス、何故ナレバ社會政策審議會ノコトハ、急グカラハ少數ノ人デヤツテ、資本家ノ意見モ聽カズ、更ニ勞働者ノ意見モ聽カナイト云フコトヲ言ハレマシタガ、此十五名ノ委員中ニハ、勞働者側ノ代表トモ認ムベキモノ、學者中ニハ末廣君ノ如キ人ガアル、ソレ故ニ或ル意味カラ申シマスナラバ、勞働者側ノ意見ハ明白ニ聽カレルガ、更ニ事業者側ノ意見ハ聽カレスト云フヤウナ委員會ノ組織デアリマス、斯ノ如キ重大ナル事柄ハ、宜シク慎重審議シナケレバイカヌ、然ルニ僅カ六箇月ノ間ニ之ヲキメタガ、一箇年間ソレヲ擲テ置イタ、サウシテ俄ニ昨年末ニナツテ、之ヲ諸方ニ諮ラ、是ハ即チ現内閣ノ不誠意デアリ、不徹底デアルト云フ明白ナル證據デア

ル 第二ノ問題ハ今内相ノ言ハレル如ク、一昨年昨年ト勞働争議ガ盛ニ殖エルコトハ何故デアルカ、是ハ明ニ不景氣ノ結果、故ニ失業ガ起ル、是ガ對抗上斯ノ如キ争議ガ増加スルノデアアル、然ラバ現内閣ハ不景氣ヲ起シタ、不景氣ノ結果失業ガ起リ、故ニ勞働争議ガ益、増加スルノデアリマス、即チ

産業ガ衰退スル、ソレガ爲ニ益、勞働争議ガ起ルナラバ、此産業衰退ノ時ニ方ツテ、此秋此際、斯ノ如キ法案ヲ出スコトハ考ヘナケレバナラヌト云フ意味デアリマス 更ニ本案其モノ、内容ニ付キマシテ、内務大臣ハ私ノ質問ヲ誤解シテ居リマス、私ハ本案第一條ノ第一項ト第二項ト何故ニ一緒ニシタカト云フノデアリマシテ、修養トカ共濟トカ、斯ノ如キモノヲ不必要トスルノデアアリマセヌ、私ハ寧ロ勞働組合ノ目的ト致シマシテハ、斯ノ如キコトヲ重要視シナケレバナラヌト云フ意味デアリマス、此點ニ付キマシテ、私ハ無産黨ノ諸君竝ニ民政黨ノ諸君ニモ、茲ニ一言シナケレバナラヌト思フノデアリマス、今日組合ノ目的ハ、勞働條件ノ維持改善ヲ眼目トスルト云フコトハ、何人モ否ムコトノ出來ナイ專柄デアリマス、併ナガラ此目的以外ニ更ニ重要ナル目的ガアル、今各國ノ立法例ヲ見マシテモ、英吉利ハ明カニ勞働組合ノ目的ノ四ツ中ニ、共濟ト云フコトヲ明記シテ居ル、更ニ彼ノ伊太利ノ如キハ、愛國ノ精神ト云フコトヲ勞働組合ノ眼目ニ加ヘテ居ル、更ニ亞米利加ノ如キハ、人格ノ向上竝ニ勞働者ノ知識、熟練ノ増進、斯ノ如キコトヲ勞働組合ノ目的ノ眼目ニ入レテ居ル、ソレ故ニ從來何故ニ社會局ガ此第一條ト第二條ノ連絡ニ反對シテ居ラタカ、恐ラク之ヲ連結シマス以上ハ、吾々ト同ジ意味ニ於キマシテ、勞働組合ノ共濟共同利益ノ増進、斯ノ如キ目的ヲ大ニ尊重スルト思ヒマスガ、唯法案第一條並ニ第二條ヲ結附ケタダケデハイカヌ、現内閣ノ明確ナル所信ヲ問フタノデアリマス、更ニ本案第十四條ニ於テ、消費組合或ハ生産組合ニ關スル發達ヲ大ニ希望シテ居リ、殊ニ第一條ノ共同利益ノ増進トカ、或ハ修養トカ、共濟トカ云フコトハ、多クノ人ガ反對シテ居リマスガ、私ハ是ハ勞働組合ノ重要ナル目的デアルト云フコトヲ、現内閣ガ明確ニ致サレンコト

ヲ、故ニ切望スルノデアリマス 更ニ勞働組合ノ政治運動ニ關スル事デアリマスガ、此問題ニ付キマシテ内務大臣ハ、政治運動ニハ絕對關與スルコトハ認メナイノデアルト言ハレテ居リマス、併ナガラ是ハ唯金錢ヲ出シテハイカヌト云フコトデアリマスガ、今日日本ノ無産政黨ハ、勞働組合ニ其基礎ヲ置クノデアリマス、極言スレバ勞働組合、即チ無産政黨デアリマス、例ヘバ社會民衆黨ハ勞働同盟ヲ基礎トサレテ居リ、大衆黨ハ、當初全國勞働同盟ヲ基礎トシテ居ルノデアリマス、即チ社會運動ノ中ニ於テ、勞働組合ノ運動ト、無産政黨ノ運動ハ、形ハ違フガ、是ハ同體デアリマス、殊ニ近年ニ於テハ、勞働組合中政治運動ノ基金ヲ盛ニ募集セントシテ居リマス、此政治運動ノ基礎デハナイト明確ニ認メ

ルノデアリマス、斯ノ如ク勞働黨ガ勞働組合カラ政治運動ノ基金ヲ集メテ居ル、此事柄ニ付キマシテ、内務大臣ノ所見ヲ質スノデアリマス 更ニ第三ノ問題ニ付キマシテ、勞資協調ヲ主トスルト言ハレテ居リマスガ、今日既存ノ勞働組合ハ、果シテ内務大臣ノ言ハレルガ如クニ健全ニシテ、其基礎ハ何等ノ危險ノナイモノデアアルカト云フコトヲ、明確ニ御伺スルノデアリマス、吾々ノ知ル範圍ニ於キマシテハ、今日ノ勞働組合中ニハ、其主義政綱ニ於テ、或ハ其旗印ニ於テ、頗ル危險ナル、國家ノ政體ニマデ關係ヲ及ボスヤウナモノヲ掲ゲテ居ルモノガ澤山アル、果シテ然ラバ今日勞働組合中ニ、斯ノ如キ過激ナルモノガアリ、危險ナルモノガアルニ拘ラズ、悉ク之ヲ穩健中正ナルモノトシテ、之ヲ承認スル所ノ證據ガ何處ニアルカト云フコトヲ問フノデアリマス、例ヘバ日本勞働組合全國協議會ノ主義綱領ヲ見テ御覽ナサイ、或ハ全國勞働組合同盟等ノ主義綱領ヲ見テ御覽ナサイ、此中ニハ明カ

ニ過激ナル事ヲ書イテアル、斯ノ如キ勞働組合ガ、今日現ニ存シテ居ルニ拘ラズ、之ヲ悉ク穩健ニシテ中正ナルモノトシテ承認スル論據ハ何處ニアルカ

更ニ第十條ニ於キマシテ、知識アル者ヲ勞働組合員トシテ認メルト云フノデアリマシガ、併ナガラ今日日本ノ勞働運動ヲ見ル場合ニ於テハ、此知識階級ノ人ガ、専ラ勞働「ブローカー」デアル、此勞働「ブローカー」ガ知識階級カラ出ルノデアリマス、所謂「ダラ」幹ト云フノハ是デアリマス、知識階級カラスノ如キ人ガ出テ居ル場合ニ於キマシテ、單ニ組合ノ役員、又ハ役員デアッタト云フダケノ簡單ナル理由ニ依リマシテ、悉ク之ヲ勞働組合員ト認メル論據ガ、甚ダ薄弱デハナイカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、若シ今日勞働組合ノ役員又ハ役員

タリシ者ガ、悉ク穩健ニシテ、而シテ確實ナル者ナリト云フナラバ、私ハ其論據ニ付テ内務大臣ニ質シタイノデアリマス、重ネテ此點ニ付キマシテ明確ナル御答辯ヲ伺フノデアリマス(拍手)

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕
○國務大臣(安達謙藏君) 極メテ簡單ニ御答致シテ置キマス、審議會ノ組織ニ勞働者ノ代表者ノミト云フコトデアリマシタガ、是ハ大變ニ誤解デアリマス、審議會委員ニ推薦致シマシタ學者ノ方々ハ、單ニ勞働者側ヲ代表セラレルヤウナ人達バカリデハナイノデアリマス、立派ナ、造詣深キ學者デアリマシテ、只今ノ御質問ハ全然反對デアリマス、ソレデ彼ノ審議會ハ、御話ノ通りノ不誠意ハ全クナク、誠意ヲ以テ審議會ヲ進行サセテノデアリマス

ソレカラ勞働會議ノ増加スル——勞働會議ノ増加問題ハ、是ハ別問題トシテ考ヘネバナリマセヌ、唯産業衰退ノ今日ニ、此組合法ヲ出スコトガ宜シクナイ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、私ハ巽ニモ申シマシタ通り、今日ノヤウナ思想ノ惡化シツ、アル場

合、勞働者ノ思想其他國民ノ大多數、所謂大衆ノ思想ガ非常ニ變化シツ、アル場合ニ當テ、茲ニ勞働問題ニ對スル解決ヲ與ヘルコトガ、我ガ國民ノ思想ヲ善導スル上ニ於キマシテ、最モ大切ナル事デアアルト確信ヲ持ッテ居リマス、ソレガ今日ノヤウナ状態ニ於テ、此勞働組合法案ヲ提案スル一ツノ重ナル理由デアリマス

ソレカラ第一條ニ、單ニ勞働條件ノ維持改善ノミナラズ、共濟或ハ修養等ヲ合併シタコトニ付キマシテハ、大變御同意下サイマシテ、誠ニ有難ク存ジマス

ソレカラ第十四條ノ共同利益増進ノ爲ノ規定モ、之ヲ挿入シタ事ニ付キマシテハ、大變御同情ノアル意味ノ御質問デアリマシタカラ、私ハ大變結構ト考ヘテ居リマス、何卒御賛成ヲ願ヒマス

ソレカラ、勞働組合ヲ無産政黨ト混同シテノ御話ハ、是ハ確ニ間違テ居リマス、又基金募集ニ付キマシテハ、是ハ今日ノ勞働組合ナドノ状態デハ、政黨ノ爲ニ基金ヲ募集スルナドノコトハ、露骨ニ申シマス、ト、餘裕モ力モマダ無イダラウト考ヘテ居リマス、是ハ繰返シテ申シマスガ、徹底セル勞資協調主義デアリマス、今日ノ組合ノ中ニハ、其主義政綱ナドノ中ニ、極ク不穩ナル文字ガアルガ、之ヲドウスルカト云フコトデアリマスガ、事實組合ノ規約ナドニ、サウ云フ穩カナルザル文字ガアリマシタナラバ、勞働組合法案ガ法律トナリマシタ暁ニハ、私ハ相當ノ考慮ヲシタイト考ヘテ居リマス

又第十條ニ於テ、役員ヲバはマデ勞働者ニアラザル者カラ探ルコトハ不都合デアルト云フ御話デアリマシタガ、先ニ申シマシタヤウニ、苟モ組合ノ役員ニ推薦スル以上ハ、御懸念ニナルヤウナ人物ハ、私ハ今後推薦セラレナイモノト善意ニ解釋シテ居リマス、是レ以上ハ御意見ノ相違ト考ヘマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 原物兵衛君
〔原物兵衛君登壇〕
○原物兵衛君 私ハ本法ノ制定ニナルニ至リマシタ先ツ第一ノ根本問題ニ付テ、一二質シタイト考ヘルノデアリマス、勞働法案ガ制定ニナリ、即チ勞働者其他ノ勞働團體ニ關スル特別法規ガ制定セラレルト云フコトハ、如何ナル時ニ斯ウ云フ法規ガ要求セラレルノデアアルカ、是ハ歐洲各國ニ於キマシテモ、何レノ國デモ、此勞働組合法ガ制定セラレルト云フ必要ガ迫ルノハ、如何ナル時ニ迫ルカト申シマシタナラバ、少クトモ勞働者ノ勞働條件ノ維持改善ト云フコトノ一ツノ主張ガ、初メテ國家ニ容ラレテ、其勞働者ノ勞働組合法ナリ、若クハ實銀ノ協約ニ關スル法律ヲ制定シナケレバナラナイ、斯クノ如ク已ムヲ得ズシテ初メテ勞働法規制定ト云フ形ニナツテ來タノガ、今マデ勞働法規ノ制定セラレタル總テノ經過デアバ私ハ、内務大臣ニ御尋致シタイ點ハ、我が日本ノ現在ノ状態ガ、此勞働法規ヲ制定スルト云フダケノ、果シテ時機デアラウカ、私ノ申シマスノハ、如何ナル點カト申シマシタナラバ、所謂勞働條件ノ維持改善デアリカラ、少クトモ勞働者ガ逼迫シテ居ル、勞働力ガ逼迫シテ居ル、即チ一國ノ經濟ガ非常ニ勢ヲ發展ラシテ居ル、經濟能力ハ十分デアリ、消費能力ガアリ、生産能力ガ發達シテ來タ時ニ、初メテ生産ニ從事スル所ノ勞働力ト云フモノガ、非常ナル逼迫ヲ告ゲテ來ルノデアアル、其時ニ初メテ勞働者ノ要求ガアリ、ソコニ勞働條件ノ改善ヲ要求スルト云フ立場ニナツテ來ルノデアリマス、(違フ)「ト呼フ者アリ」若シ間違ガアリマシタナラバ謝リマス

抑、今日ノ勞働者ノ立場ハ如何ナル立場ニ在ルカト申シマス、即チ我が日本ノ勞働者ハ、幾十萬ノ失業者、即チ産業ノ豫備軍ト云フモノガアツテ、常ニ才前等ガ現職ノ

勞働者トシテ從事スルコトガ厭ヤナラバ、吾々失業者ハ何日何時デモ之ニ代ルノデアルゾト云フ、斷エズ産業ノ豫備軍ニ依ッテ勞働者ハ善カサレツ、アルノデアリマス、即チ其立場ニアルダケニ、資本家ト勞働者ノ立場ニ於テ、如何ナル條件デモ私等ハ勞働ニ服シタイノデアリマスト云フノガ、現在ノ勞働者ノ立場デアアルノデアリマス(拍手)果シテ然ラバ勞働條件ノ改善、勞働團體ノ地位ヲ獲得スルト云フコトノ一ツノ根據モ、今ハ成立ッテ居ナイノデアリマス、即チ是ニ於テ私ガ申上ゲナケレバナラナイコトハ、第五十一議案ニ於テ、本員等モ本案ノ特別委員ニナツタモノデアリマスガ、少クトモ若規内閣ノ時代ニ於テハ、マダ此法案ノ制定ト云フコトガ、當時ノ經濟能力、當時ノ生産能力、消費能力、及ビ全國全體ノ勞働者ノ立場カラ申シマスナラバ、寧ろ是ハ必要デアツタノデアリマス、併ナガラ其後内閣内閣ノ後ニ於テ濱口内閣ガ出來上ツテ、如何ナル方策ヲ御執リニナツタカト云フタナラバ、即チ極端ナル財政ノ緊縮、金ノ解禁、或ハ消費節約ト云フヤウナ立場カラ、日本全體ノ總テノ生産能力ニ對スル彈壓ノ加ヘタガ爲ニ、日本全國ノ工場ニ於ケル失業者ハ幾十萬ヲ數ヘル状態ニナツテ居ルノデアリマス、果シテ然ラバ、此多クノ失業者ヲ出シテ置イテ、此勞働法規ヲ制定スルノダト云フコトハ、恰モ多クノ失業者ニ對シテ、失業者ノ口入屋サヘ造レバ宜イト云フ内務大臣ノヤリ方ト同ジコトデアツテ、勞働法規ノ制定ヨリモ、先ヅ根本ノ失業對策ヲ十分ニ講ジテ、始メテ勞働條件ノ維持改善ガアルト吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス、(拍手)ダカラ此根本ヲ離レテ、現内閣ガ極端ナル消費節約ヲ斷行シ、其結果多クノ失業者ヲ出シテ置イテ、サウシテ眞ノ勞働者ガ、如何ニシテ是カラ勞働條件ニ服シヨウカト云フ、其勞働條件ガナイ立場ニ於テ、此法案ヲ制定スルト云フコトハ、只今内務

○議長(藤澤幾之輔君) 原物兵衛君
〔原物兵衛君登壇〕
○原物兵衛君 私ハ本法ノ制定ニナルニ至リマシタ先ツ第一ノ根本問題ニ付テ、一二質シタイト考ヘルノデアリマス、勞働法案ガ制定ニナリ、即チ勞働者其他ノ勞働團體ニ關スル特別法規ガ制定セラレルト云フコトハ、如何ナル時ニ斯ウ云フ法規ガ要求セラレルノデアアルカ、是ハ歐洲各國ニ於キマシテモ、何レノ國デモ、此勞働組合法ガ制定セラレルト云フ必要ガ迫ルノハ、如何ナル時ニ迫ルカト申シマシタナラバ、少クトモ勞働者ノ勞働條件ノ維持改善ト云フコトノ一ツノ主張ガ、初メテ國家ニ容ラレテ、其勞働者ノ勞働組合法ナリ、若クハ實銀ノ協約ニ關スル法律ヲ制定シナケレバナラナイ、斯クノ如ク已ムヲ得ズシテ初メテ勞働法規制定ト云フ形ニナツテ來タノガ、今マデ勞働法規ノ制定セラレタル總テノ經過デアバ私ハ、内務大臣ニ御尋致シタイ點ハ、我が日本ノ現在ノ状態ガ、此勞働法規ヲ制定スルト云フダケノ、果シテ時機デアラウカ、私ノ申シマスノハ、如何ナル點カト申シマシタナラバ、所謂勞働條件ノ維持改善デアリカラ、少クトモ勞働者ガ逼迫シテ居ル、勞働力ガ逼迫シテ居ル、即チ一國ノ經濟ガ非常ニ勢ヲ發展ラシテ居ル、經濟能力ハ十分デアリ、消費能力ガアリ、生産能力ガ發達シテ來タ時ニ、初メテ生産ニ從事スル所ノ勞働力ト云フモノガ、非常ナル逼迫ヲ告

ゲテ來ルノデアアル、其時ニ初メテ勞働者ノ要求ガアリ、ソコニ勞働條件ノ改善ヲ要求スルト云フ立場ニナツテ來ルノデアリマス、(違フ)「ト呼フ者アリ」若シ間違ガアリマシタナラバ謝リマス

抑、今日ノ勞働者ノ立場ハ如何ナル立場ニ在ルカト申シマス、即チ我が日本ノ勞働者ハ、幾十萬ノ失業者、即チ産業ノ豫備軍ト云フモノガアツテ、常ニ才前等ガ現職ノ

抑、今日ノ勞働者ノ立場ハ如何ナル立場ニ在ルカト申シマス、即チ我が日本ノ勞働者ハ、幾十萬ノ失業者、即チ産業ノ豫備軍ト云フモノガアツテ、常ニ才前等ガ現職ノ

大臣ノ我が同僚ニ對シテノ御答ニモアル通り、常ニ勞働者ノ立場ヲ良クスル爲ニ、之ヲ軌道ニ載セラルルヲ以テ、ソレ以外デアッタナラバ、吾々ハ決シテ干涉ナラシメテコトハナイト、斯ウ仰セニナルノデアアルガ、抑、此法規ヲ御作リニナルノハ、已ムヲ得ズシテ勞働者ノ要求、勞働條件ノ維持改善ト云フ目的カラ、政府ガ勞働者ノ意見ヲ容レテ、之ヲ制定スル立場デナクテ、全ク反對ニ即チ無産階級ノ彈壓ニ利用スル爲ニ、本法ヲ制定スルモノナリト言ハレテモ、一言モ御答ハ出來ナカラウト吾々ハ思フノデアリマス(拍手)デアリマスカラ果シテ安達内務大臣ハ、本法ヲ制定スルト云フ所ノ時機ガ適當ナル時機デアアルカ、即チ勞働者ノ救済、勞働者ノ保護ノ爲ニハ、最モ緊要缺クベカラザル所ノ時機デアルト云フ御確信ヲ以テ、此幾十萬ノ——我が憲政史始マツテ以來、非常ニ多クノ失業者ヲ出シタ、此失業問題ニ對シテノ根本解決ヲシナクテモ、勞働法規サヘ制定シタナラバ、是デ、足レリト御考ニナツテ居ルノデアアルカドウカ、其點ヲ御伺致シタイノデアリマス(拍手)

第二ニ勞働組合ト共産黨トノ關係ニ付テ、私一寸御尋致シタイノデアリマス、凡ソ我が國體、我が憲法政治ニ於テ、誰一人トシテ、共産黨ト云フモノニ對シテ贊成スル者ハナイノデアリマス、併ナガラ此絕對反對ヲセナケレバナラナイ立場ニ在ル共産黨ガ偶、現ハレルコトガアツタト云フコトハ、甚ダ不祥事デアリマス、即チ田中内閣ノ時代ニ於テ、第二次の檢擧ガ行ハレタノデアリマス、此勞働組合ト、共産黨ノ關係ハドウ云フ關係ニ現ハレルカト云フタナラバ、即チ共産黨員ト云フモノハ、若シ是方存在スルナラバ、吾々ハ國ヲ擧ゲテ之ヲ排撃シナケレバナラヌノデアリマスガ、此共産黨員ハ、如何ナル立場ニ在ルカト申シマシタナラバ——共産黨員ノ教場、訓練場、學校ハ何處ニ定メテアルカト云ヘバ、即チ

勞働組合ヲ一ツノ教練場ト心得テ居ルノデアリマス、之ニ對シテハ「マルクス」モ、共產主義、社會主義ノ學校ハ勞働組合ニ俟タナクテハナラヌト言フタガ如クニ、今ヤ我が日本ノ共產主義者ハ、學生デアルト同時ニ、學生ヲ離レタナラバ、必ズヤ此勞働組合ニ入ッテ、勞働者ト云フ變形ヲシテ、此一ツノ實體ヲ基礎ニシテ、有ニル運動、教練ノ場所ニシヨウト考ヘテ居ルノデアリマス、果シテ之ニ對シテ内務大臣ハ、只今ノ御言葉ヲ拜聽シマス、吾々ハ相當ノ干涉、相當ノ方法ヲ執ルノデアアルカラ、立派ナ勞働組合デアッタナラバ、勿論サウ云フコトヲスル譯ハナイ、斯様ナ仰セガアツタノデアリマスガ、此點ニ付テ私ノ御尋シタイコトハ、即チ我が國體其他總テノモノヲ破壊シヨウト云フヤウナ立場ニアル所ノ者ニ對シテハ、少クトモ特別法規タル所ノ治安維持法ト云フモノモアレバ、治安警察法ヲ適用シテ、十分ニ其取締ハ出來ルノデアリマスガ、果シテ内務大臣ハ本法ヲ制定スル目的ハ、即チ共産主義ニ名ヲ藉テ、眞剣ナル、眞面目ナル勞働運動、眞面目ナル勞働團體ニ對スル所ノ、一ツノ彈壓ヲ加ヘル手段便宜ノ爲ニ、此法案ヲ御出シニナツタト云フヤウナコトニナリハセヌカト、吾々ハ一面ニ懸念スルノデアリマス、即チ内務大臣ハ、共產主義ト國家ニ對スル關係ヲ、簡單デアリマシタケレドモ、今一寸御述べニナリマシタカラ、此際御伺スルノデアリマスガ、果シテ内務大臣ハ本法ヲ制定シテ、サウシテ本法ノ内容ヲ點檢スルニ於テ、殆ド取締ニ類シタル法規デアアルガ、内務大臣ハ本法ヲ運用スル時ニ於テ、共產主義ト云フモノノ關係ガ、外部ノ勞働運動ニ現ハレタ時ニ於ケル眞剣ナル勞働者ニ對スル態度、即チ本法ヲ運用スル時ニ於テハ、如何ナル御考ヲ以テオヤリニナルノデアアルカ、共産黨ニ對スル關係ト、其彈壓ヲ、如何ナル方法ト如何ナル規矩トヲ立テ、之ニ彈壓ヲ加ヘ

ルノデアアルカ、斯ウ云フ點ノ關係ヲ明カニシテ、本法運用ノ根本方針ニ關シテ御伺致シタイノガ第二點デアリマス
次ニ本法ニ關スル法規ノ内容ニ付テ御伺致シタイノデアリマス、組合組織ニ關スル問題デアリマス、是ハ政府ガ御出シニナラレルト云フ前ニ於テ、社會局ナラバ社會局案デ出來ル上ルト云フコトニ對シテハ、相當ナ順序ト相當ナ考慮、即チ相當ナ月日ト時開ヲ以テ之ヲ御作リ上ゲニナツタモノデアルト考ヘルガ、ソレガ忽チニシテ社會局ノ原案ガ破レテ、斯様ニ簡單ニ變テ來ルト云フコトハ、何ト云フテモ内務大臣ハ無定見ナル立法ノ基礎ニ立ッテ居ルコト言ハレテモ、一言モ之ニ對シテ御答ニナルコトハ出來ナイト思フノデアリマス(拍手)デアリマスカラ社會局案ノ第一條ニ於テハ、橫斷ノ聯合體ヲモ認メテ居、タノデアアル、然ルニ今度ハ縱斷ノミニ變テ來タト云フコトニ對シテハ、左様ニ右ニ變リ、左ニ變ルト云フコトハ、何トシテモ無定見デアアル、左様ナ無定見ノ下ニ立法シタル所ノ法案ニ對シテ、吾々ハ簡單ニ贊成スルコトガ出來ヌ、此根據ニハ吾々ハ重大ナル考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、即チ聯合組合組織ニ關スル所ノ此橫斷體ヲ、突如トシテ省カレタ、其理由ヲ御答辯願ヒタイト云フコトガ第三デアリマス

第四ニハ、勞働條件ノ維持改善、此勞働條件ノ維持改善ノ意味ヲ、明白ニ承リタイト思フノデアリマス、勞働條件ノ維持ト云フノハ何デアアルカト云フナラバ、即チ勞働者ノ方面カラ云ウタナラバ、實質的ニ勞働條件ノ維持改善ヲシ、之ヲ考慮シテ行クト云フコトハ、ドンドンナ事カト云フナラバ、勞働者ノ實質的ノ内容ハ何デアアルカト云フナラバ、即チ勞働者ノ免責ノ規定、即チ同盟罷業ヲシタ場合ニ於テモ、損害賠償ノ責ニ任ジナイト云フ免責規定、是ガ維持改善ニ重大ナル條件デアアル、今一ツハ何デアアルカト云フナラバ、即チ交渉團體權、團體ニ於ケル協約權ニ依ッテ、團體トシテ其雇傭者トノ關係ニ於テ契約ヲ結ブト云フ、此團體協約權ト云フコトガ、勞働條件ノ重大ナル内容デアアルノデアリマス、少クトモ此現在ノ社會組織ニ於ケル勞働者ノ階級カラ云フト、實質的ニ考ヘテ、ドウシテモ政治的行動ヲ爲スト云フコトガ許サレナケレバ、勞働條件ノ維持改善ト云フコトニナラナイノデアリマス、果シテ現内閣、此政府ニ於カレマシテハ、先ツ第一點ニ於ケル免責規定ヲ突如トシテ御省キニナツタ、即チ第五十一議會ニ於ケル、當時ノ若槻内閣ノ、今カラ數年前ニ於ケル若槻内閣デサヘモ、此免責規定ヲ置カレタ、其免責規定ニ於テ、ソレガ議會デ問題ニナツタノ、數年後ニ於ケル今ノ場合ニ、免責規定ヲ突如トシテ、社會局ノ案ニモアルニ拘ラズ、之ヲ御省キニナツタト云フコトハ、如何ナル順序トサウシテ理由ニ基キテ、此免責規定ヲ御省キニナツタカト云フコトヲ、御長クテモ宜シイカラ、十分ニ御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、團體協約權ニ付テハ、初メカラナカッタナラ、其理由ハ私ハ聽キマセヌガ、政治的行動、此政治的行動ニ付キマシテハ、我が同僚ノ田子君カラ説明ヲ願フタ、即チ本法ノ第十二條ニ於テ、縣會議員ノ選舉、衆議院議員ノ選舉ニ、組合ガ金ヲ使フチヤイケナイゾ、又ハ組合カラ徵收シテハイケナイゾト云フ規定ガアルノデアリマス、此規定ハ果シテ如何ナル規定デアアルカト云フ、内容ヲ私等ハ考ヘテ見ナケレバナラナイ、私ハ勞働運動ニ關シテ、勞働組合ナル組合其モハ、シテハイケヌノダ、今内務大臣ノ御説明ニ依リマスト云フト、其代リニ政黨ガ一方ニ於テヤルコトハ自由ナラダカラ、勞働組合ノ組合其モノニ、金錢其他ヲ取扱ハセナクテモ宜イデヤナイカ、斯ウ云フコトデアアル、一應御尤デアリマスガ、果シテ第十二條ノ根本ノ精神ハ、政治運動ニ關スル

所ノ金ヲ出スナト云フコトハ、政黨ハ別デアリマスガ、勞働組合其モノ、組合ハ決シテ政治運動ヲシテハイカヌゾト云フ規定デアルト謂ハナケレバナラヌ、何トナレバ、政治運動ニ關スル所ノ金錢授受並ニ徵收ヲシテハイカヌト云フコトハ、最後ニハ政治運動ハ、法律上ニ於テモ吾々ノ選舉費用ヲ認メテ居ルニデアルマ、凡ソ運動ヲ爲スニハ、金無クシテヤル譯ニハ行キマセヌ、然ルニ此金ヲ出スコトハ出來ヌゾト云フコトハ、即チ勞働組合其モノハ政治運動ヲ爲スコトハ出來ヌゾト云フ所ノ、一ツノ私ハ御明示デアルト思フデアリマス、若シ是ガ政治運動デアイト云フ御考デアルナラバ、其御考ヲ承リタイ、私等ハ金錢ニ關シテ、ソレヲ出シテハイカヌト云フノダカラ、勿論政治運動ヲ、勞働組合其モノニハ御止メニナツトモト思フテ居ル、果シテ此勞働組合其モノハ、政治運動ガ出來ヌト云フヤウナ形ニナツタラバ、即チ全國ノ勞働組合總同盟ノ綱領ノ第三ニモ斯ウ云フコトガアル「五等ノ勞働組合ノ實力ヲ以テ勞働者階級ノ完全ナル解放ト自由平等ノ社會ヲ建設ス」是ハ私ハ重大ナル、勞働組合其モノ、政治運動ヲ明白ニシテ居ル規定デアルト私等ハ考ヘテ居ル、内務大臣ハ勞働組合ノ政治運動ヲ御止メニナツテ居ルノデアリマスガ、斯様ナル宣言決議ト云フコトハ、即チ本法ニ於テ不當ナル決議、法令ニ違反スル決議ハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得ト云フ規定ガ茲ニアルノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトカラ見マシテ、果シテ如何ナル御考ガアテ、最モ完備シタル法案デアラナラバ卒乎知ラズ、此内容其モノニ於テ、疑問ノ點ガ幾多アル、斯ウ云フ點ニ付テ内務大臣ハ如何ナル御考デアルカ、只今申シマシテ政治運動ニ關スル第十二條ノ根本問題ヲ、十分ニ御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス——靜肅ニ願ヒマス

○原惣兵衛君(續) 次ニ第五ニ私ノ質シタイノハ、勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスルト……

〔政治運動ナシカ書イテヤナイデヤナイカト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 眞鍋君……

○原惣兵衛君(續) 勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスルト第一條ニアリマスガ、此目的トストノ規定ヲ書イテアレバ、勞働組合ト云フモノハ、是デ成立ツノデアアルカ、例ヘバ勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスルノダトバ勞働組合ニ定メタナラバ、ソレデ足リルカ、又反對ニ從來ノ勞働爭議ニ於テモ、勞働組合ノ内容ニハ必ず爭議部ト云フモノガアリマシテ、ソレハドウ云フ事アルカト云ヘバ、例ヘバ同盟罷業ニ關スル問題、或ハ之ニ對抗スル所ノ色々ノ事ガ、其爭議部ノ内容ニアルノデアリマス、是ハ是カラ先ノ問題デアリマスケレドモ、サウ云フヤウナ時ニ於キマシテ、唯勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスルヲ書イテ居リサヘスレバ、例ヘバ茲ニ斯ウ云フ條項ヲ書クト致シマス、即チ我ガ勞働組合ハ決シテ同盟罷業ヲ爲サズ、若クハ資本家ノ總テノ立場ニ反對ラシマセヌト云フヤウナ規約ヲ定メテモ宜イノデアアルカ、吾々ハ將來ニ對シテ、少クトモ反動的、御用的ノ組合ガ出來ルト云フコトヲ、亦一面ニ考ヘナケレバナラヌ——私ノ言フコトハ分リ憎イカモ知レマセヌガ、此半面ニ於テ反對ナ、即チ此維持改善ヲ目的トスルコトニ矛盾スルヤウナ規定ノアル勞働組合モ御認メニナルカ、結局スル所ハ反動的ノ組合、御用組合ト云フヤウナモノモ御認メニナルノデアアルカドウカ、例ヘバ鐵道省ニ於ケル鐵道現業員會ノ規約中ニ、突如トシテ維持改善ノ目的ト云フコトヲ書現シタナラバ、ソレデモ勞働條件ノ御認メニナルカドウカ、是ハ私ハ勞働條件ノ維持改善ヲ

目的トストアル點ニ於テノ内容ヲ定メルコトガ、將來ニ向テ重大ナル關係ヲ持つモノデアリマスカラ、此點ニ付テ明白ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フデアリマス

第七ニ御尋スル事ハ、勞働條件ノ維持改善ト云フ目的ノ外ニ、福利増進ト云フ目的ヲ兼テ具ヘナケレバナラヌト御定メニナツタコトニ付テ、果シテ福利増進トハ如何ナル範圍ヲ謂フノデアアルカ、此點ヲ私ハ御同致シタイノデアリマス、福利増進ノ範圍ノ中ニハ、例ヘバ共濟若クハ修養ト云フヤウナ事モアリマスガ、勞働組合ニ、御前ハ修養ヲシナクチャナラヌゾト御命令ニナツテ、實際ニ勞働組合ガ修養シナカッタト云フコトニナツタナラバ、一體如何ニシテ之ヲ矯正スルノカ、恐ラク内務大臣ハ、茲ニ謂フ福利増進ト云フノハ、廣汎ナル範圍デアルト御考ヘニナルナラバ、ソレコソハ至ク空文ニ歸スルノデアアル、サウシクナラバ此修養ト云フ言葉ハホシソ辭令デアッタ、一般のニ言フタラバ、モット狭イ範圍ニ於テノ福利増進デナケレバナラヌ、即チ修養ト云フヤウナ事ナラバ、有テモ無クテモ宜イ、勞働法第一條ニク付ケタモノデアアル、サウシクナラバ何故ニ此處ニク付ケル必要ガアルカト云フ問題ガ起ルノデアリマスカラ、少クトモ此福利増進ト云フ事ハ、モット狭義ナ、強イ力アル所ノ福利増進デナケレバナラヌ、然ラバドウ云フモノデアアルカト申シマシタナラバ、結局スル所ハ共濟組合或ハ購買組合、消費組合、例ヘバ鐵道省或ハ逓信省、陸海軍工場其他ニ現在アル所ノ共濟組合、サウ云フモノニ付テ福利増進ヲ目的トスル勞働組合ヲ起スノダ、斯ウ云フ御考デアアルカ

〔福利増進ト何處ニ書イテアル〕其他

〔發言スル者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○原惣兵衛君(續) 此福利増進ト云フコトヲ土臺ニ私等ガ考ヘテ見マスルナラバ、只今申上ゲマシタ……

〔發言スル者アリ〕 靜肅ニ願ヒマス

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○原惣兵衛君(續) 此内容ニ付テ、若シモ共濟組合、購買組合、消費組合、其他斯ウ云フモノニ付テ今度勞働組合ガ出來タナラバ、サウ云フ共濟組合ヲ消費組合ト云フヤウナモノ、管理權ヲ、新ニ此勞働組合ニ御委セニナルカ、其管理ヲ移スト云フ御考デアアルカ、サモナクシテ此共同利益ノ増進ヲ目的トスル、斯ウ云フコトニ付テ、新ニ今一ツノ共濟組合ノヤウナモノヲ御設ケニナル御考デアアルカドウカ、若シサウデアルトシタナラバ、二重ニ屋上屋ヲ架構スルガ如キ關係ニナルノデアリマスガ、之ニ付テハ果シテ如何ニ御考ヘニナツテ居ルカト云フコトニ付テ、私ハ承リタイノデアリマス

ソレカラ今一ツ、此勞働者間ノ利益ヲ増進スルト云フ意味カ、本法ノ第十四條ニ「法人タル勞働組合ガ組合員ノ共同利益ノ保護増進ヲ目的ヲ以テ組合員ノ生活ニ必要ナル物ヲ組合員ニ供給シ若ハ利用セシメ又ハ組合員ノ生産シタル物ヲ賣却スルノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ事業ヨリ生ズル所得及純益ニ付テ所得稅及營業收益稅ヲ課セズ」即チ法人ガサウシク事ヲ組合員ニ對シテ特ニ爲シタ場合ニハ、結局スル所其稅金ヲ課セヌゾト云フ一ツノ規定ヲ置イテ居ルノデアリマスカラ、其以外ノ場合ニ於テモ、共同ノ目的ノ保護、福利増進ノ目的ノ爲ニハ、如何ナル營業ヲシテモ宜イカ、例ヘバ組合員ニ必要デアアル福利増進ノ目的ノ爲メト云フ意味カラ云フタナラバ、劇場デモ宜イ、「ビルディング」デモ宜イ、銀行デモ宜イ、如何ナル所ノ事業ヲヤツテモ宜イカ、歐羅巴各國デハ、現ニ獨逸デモ、亞米利加デモ許シテ居ルノデアリマスガ、果シテ我ガ日本ニ於テハ之ニ對シテ許スノデアアルカ許サヌノデアアルカ、此福利増進ノ目的カラ生ズル

營業行為、營利事業ヲヤテモ宜イト云フ其範圍ハ、如何ナル範圍ヲ指シテ居ルノデア
ルカ、此條又ニ於テハ漠然トシテ居テ、其
意義ガハキリシナイノデアリマスカラ、此
範圍ヲ明確ニシテ載キタイト思フノデアリ
マス

ソレカラ第六、ニ私ハ労働組合ノ構成員ニ
關スル事ニ付テ御尋シテ見タイト思フノデ
アリマス、我が日本ノ現狀カラ言フナラ
バ、失業ガ幾十萬——百萬ヲ超エルト云
フ狀態ニナツテ居ルノデアリマスガ、外國ノ
法令ニ依リマシタナラバ、例ハバ失業ガ
ナルト同時ニ、労働組合員カラ當然脱退ス
ルト云フヤウナ規定ノ處モアレバ、或ハ失
業後一箇年位ニ於テ、初メテ労働組合員カ
ラ脱退スルト云フヤウナ處モアルノデアリ
マスガ、此日本ニ於ケル現在ノ失業ガ百
萬人ヲ超エテ居ルト云フ、此失業ガ果シ
テ労働組合員トシテ御認メニナルカドウ
カ、此點ヲ先ツ第一ニ御伺シタイ

第二ニハ、我方日本ノ法規ニ依リマス、
妻、未成年者ト云フヤウナ者ハ、民法第四
條、第十四條ニ依リマシタナラバ、例ハバ
妻ト云フ者ノ一定ノ羈絆拘束ヲ受ケル時ニ
ハ、必ズ夫ノ許可ヲ要スルト云フコトニナ
テ居ルノデアリマスガ、此妻ガ労働組合員
ニナツテ、例ハバ同盟罷業スルト云フ時ニ
於テ、即チ皆ト一緒ニ工場ニ七日モ八日モ
居テ家ヘ歸テ來ナイ、斯ウ云フヤウナ問題
ガ起テ來ル、或ハ未成年者ガ親父ト違テ
勝手ニ労働組合ニ入テ、親父ト立場ガ違テ
居ル、例ハバ親父ハ甲ノ組合ニ屬シ、未成
年者ノ方ハ乙ノ組合ニ屬スルト云フヤウ
ナ場合ニ、往々ニシテ此組合ガ右ト左ニ別
レテ衝突スルト云フヤウナ場合ガ起テ來
ルノデアリマス、即チ紡績ニ於ケル女工及
ビ未成年者ノ労働者ト云フモノハ、随分多
數ニ上テ居ルノデアリマスガ、民法ニ於テ
ハ法定代理人ハ其未成年者ノ行為ヲ取消ス
コトヲ得トアリ、又妻ニ對シテハ十四條ニ

於テ、夫ガ其行為ヲ取消スコトヲ得トアル
ノデアリマスガ、果シテ政府ニ於テハ此妻
ト未成年者ノ労働組合ニ加入スルコトハ、
民法ニ對スル特別ノ法規ト云フ關係カラ、
例外ト御認メニナルノデアアルカ、サモナク
シテハハヤハリ同意ヲ要スルノデアアルカト
云フコトヲ、先ツ確メテ置キタイト考ヘル
ノデアリマス

次ニ本法ニ於ケル第二十七條ニ於キマシ
テ軍人軍屬、即チ陸海軍軍人軍屬ニ付テハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ労働組合ノ組合員ト
爲ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
ト云フ規定ガアルノデアリマス、私ハ此規
定ガ若シモ勅令ニ依テ制限スル、或ハ禁止
スルコトヲシナカッタナラバ、労働組合ノ組
合員トナレルト云フ解釋ヲ取ルノハ當然デ
アリマス、即チ本法ニ於ケル第一條、第十
條ノ例外規定ニナルノデアリマス、此規定
ノ條文カラ云ウタナラバ、少クトモ禁止シ
制限セヌ時ニハ、第十條、第一條ノ例外規
定ニナルト云フ形ニナツタナラバ、我國ノ軍
人、而モ將校方當然労働組合員ニナレルト云
フヤウナコトハ、恐ラクアリ得ベカラザル
事デアリマスガ、果シテアルト御考ヘニナ
テ居ルノデアリマスガ、ナイト御考ヘニナ
テ居ルノデアアルカ、若シナイトスルナラバ、
此二十七條ノ規定ト云フモノハ、全く意味
ヲ爲サナイ錯誤カラ來タモノデアデ、少ク
トモ委員會ニ行タナラバ、直チニ本案ハ修
正セラレルト云フ形ニナルノデアアルガ、
斯ノ如キ杜撰ナ點ニ對シテ、果シテ政府ハ
何ト御考ヘニナツテ居ルカト云フ點ガ御聽
申シタイノデアリマス

最後ニ申上ゲテ置キタイコトハ、ドノ點
デアアルカト申シマス、本組合法ニ於テハ
労働組合ヲ法人トスル場合ト、法人トセヌ
場合ト、二通り御決メニナツテ居ル、即チ勞
働組合ノ、法人デナイ場合ニ於ケル労働組
合ト云フモノニ對シテ、若シモ雇傭者即チ
資本家トノ間ニ爭議ガ起テ場合ニ於テ、此

爭議ニ於ケル當事者ガ裁判上ノ訴ヲ起シタ
時ニ於テ、民事訴訟法ニ於キマシテ、此訴
訟當事者ハ何人ガナルカ、例ハバ労働者ガ
非常ナ損害ヲ蒙ラタ場合ニ、其資本家ニ向
テ訴ヲ起スト云フ時ニ、民事訴訟法ノ規定
ニ於テ當事者ガ何人デアアルカ、民事訴訟法
ニ規定ガナケレバ則チ當事者ニナルコトガ
出來ナイ、斯ウ云フヤウナ一ツノ疑問ガ起
テ來ルノデアリマスガ、此點ニ對シテハ、
果シテ訴訟當事者ニ對スル所ノ觀念ハ、如
何ニ御考ヘニナラレルトデアアルカ、此點ニ
付テ明確ナル御答辯ヲ願ヒタイト考ヘルノ
デアリマス(拍手)

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕
○國務大臣(安達謙藏君) 原惣兵衛君ハ斯
ル特別ノ法規ヲ制定スル時ハ、何カ國家社
會ノ境遇ガ已ムヲ得ザル狀況ガアツテ、初メ
テ斯ル特別法規ヲ制定シナケレバナラヌ、
言換ヘレバ労働者ノ要求ガアツテ初メテ立
法スルモノデアアル、ソレニ要求ガナイノ
斯ウ云フ法律ヲ制定スルコトハ、必要ガナ
イデハナイカト云フ意味デアリマスルガ、
此點ガ私ハ最モ注意シナケレバナラヌ所ト
考ヘマス、今原君ノ御尋ノ中ニアリマシタ
通り、労働者ノ要求ナルモノハ今日「ストラ
イキ」ノ多イコトモ、如何ニ労働者ガ斯ル法
規ノ制定ノ要求ヲ必要トスルカト云フコト
ヲ證據立テ、居リマス、ノミナラズ私ハ我
國ノ諸般ノ法律ガ、歐米トハ其制定スル事
情ヲ大ニ異ニシテ居ルノガ、我國ノ特色デ
アルト思ヒマス、歐米デハ人民ニ迫ラレテ、
サウシテ餘儀ナク法律ヲ作ルコトガ往々ア
ル、憲法ナドモサウデアリマス、然ルニ日
本ハ此社會ノ趨勢ヲ察知シテ、サウシテサ
ウ云フ極端ナ弊害ノ起ラナイ前ニ當テ、諸
般ノ法規ヲ制定スルコトガ、是ガ日本ノ特
有ナル長所デアアルト、私ハ豫テカラ考ヘテ
居ルノデアリマス(拍手)其意味ニ於キマシ
テ、前ニモ申シマシタ通りニ、我國ノ今日
ノ社會ノ狀態、今日ノ世相ハドウカト申シ

マスト、一體ニ思想ノ惡化セルコトモ決シ
テ閉却スルコトハ出來ナイ今日ノ場合ニ於
キマシテ、一般大衆ガ背景トナツテ同情ヲ表
スル所ノ此労働者、此労働者ノ生活ノ安定
ヲ圖ルヤウナ事ヲ努メテヤルト云フコト
ハ、當然ノ事デアリマス、是ハ單ニ労働者
バカリデハナイ、此労働者ノ背後ニ數百萬
ノ大衆ガ居リマス、此人ガ皆労働者ト斯ウ
云フ問題ハ考フ同ジクシテ居リマス、思想
ヲ一ニシテ居リマス、其思想ノ流カラ切離
シテ、之ヲ防ギ止メテ、善導シ利導シテ行
クコトハ、最モ大切ナ事ト思フ、是ガ吾々
ガ此法ヲ制定スル所ノ根本デアリマシテ、
無論労働者モ要求シテ居ルガ、已ムヲ得ズ
シテ茲ニ法規ヲ制定スル、ノミナラズサウ
云フ思想ニナラナイヤウニ豫防スル爲ニ、
斯ウ云フ法規ヲ制定スル必要ガアルノデア
リマス、ソレカラ失業對策ガ何等ナイト云
フ御話デアリマシタガ、私ハ簡單ニ申上ゲ
テ置キマス、此失業對策ト云フモノハ全ク
別問題デアリマス、此法規ヲ制定スルノハ
只今申シマシタヤウニ、今日ノ世相ニ直
シテ、サウシテ此必要ヲ感ジタノデアリマ
ス、之ヲ無産階級彈壓ノ材料ニスルナドト
云フコトハ怪シカラヌ御尋デアリマス、サ
ウ云フ事ヲ御尋ニナル御方コソ意外ナル邪
推デアリマス、組合ト共產黨トノ關係ニ付
テ御尋ガアリマシタガ、此共產黨ハ組合ヲ
バ一種ノ教練場トシテ居ル、私ハ労働組合
ノ中ニ共產黨ノ人ガアルトハ、現在ニ於テ
モ思ウテ居リマセヌ、先刻モ「ストライキ」
ノ取締ニ付キマシテハ、其「ストライキ」ヲ
過激思想ヲ持テ居ル者ガ利用シテ、其組合
員以外ノ者ガ飛込シテ應援シテ、其「ストラ
イキ」ヲ激化シ、惡化セシムルコトガ絶エズ
アルノデアリマス、ソレデ此組合法ヲ制定
シテ、サウシテ共產主義ノ彈壓ヲ、組合法
ニ名ヲ藉テシハシナイカト云フ御尋デア
リマスガ、是ハ確ニ間違デアリマス、共產
主義ニ對スル取締ハ、是ハ徹底的ニ致シテ

居リマシテ、全ク勞働組合法トハ何等ノ關係ガアリマセヌ、尤モ勞働組合ガ、安寧秩序ヲ紊リマス時ハ、是ハ解散其他相當ノ處分ヲスルノデアリマス

此勞働組合法案ヲ作ルニ當テハ、相當ノ考慮ヲ拂フタ管デアリ、元ノ社會局案ナルモ

ハ忽ニ變更シタノデハナイ、先刻モ申シマシタ通りニ、各方面ノ意見ヲ徵シマシテ、最善ト思フコトニ決定シタノデアリマシテ、此法案ヲ作リマスニ付キマシテハ、自己ノ立場ハ全ク一方ニ偏セズシテ、各方面ヲ見渡シテ、一番中正ノ意見ト思フ所ニ最後ノ斷案ヲ下シタノデアリマシテ、決シテ無定見ニアラズシテ、元ノ社會局ノ法案ヲ基礎トシテ、之ニ各方面ノ意見ヲ徵シテ、最モ公平ナル判斷ヲ下シタ次第デアリマス

勞働條件ノ維持改善ノコトニ付キマシテハ、是ハ勞働賃銀ノ問題ナドガ、其最モ主ナルモノデアリマス、ソレカラ團體交渉ニ關スルコトハ、如何ニ法律ヲ規定スルカト云フコトハ、是ハ頗ルムツカシキ問題デアリマスカラ、研究中デアリマス、ソレカラ元ノ十三條ノ損害賠償ニ關スル規定ハ、之ヲ除キマシテモ、何等關係ハナイト考ヘマシタカラ、何レノデアリマス、政治的行動ニ選舉ノ運動ニ關シマスコトハ、是ハ費用ヲ支出スルコトガ出來ナイト云フコトヲ規定シテ居ルノデアリマス、ソレカラ先ハ單ニ勞働條件ノ維持改善ノ目的トシ、同盟罷工等ヲナササル團體、サウ云フ團體ガ出來タ時ハドウカト云フヤウナ御尋デアリマスガ、ソレハ一種ノ協調團體デアリマシカス、ソレカラ福利増進、即チ此法文ノ共同利益ノ保護増進デアリマスガ、第十四條ハ御話ノ通り、或ハ共濟組合、購買組合、消費組合等ガ意味サレテ居リマス、ソレカラ組合員ノ構成ニ付テ、失業者ガ澤山

ルガ、此失業者ヲ組合員ト認メルカドウカト云フ御尋デアリマスガ、一時失業致シマシテモ、組合員ト認メマス、其他細カイトニ關シマシテハ、ドウカ特別委員會ニ於テ御尋ガアリ、又御答致シタ方ガ宜シイト考ヘマス(拍手)

〔原物兵衛君登壇〕

○原物兵衛君 只今ノ内務大臣ノ御答辯ニ依リマスレバ、私等ガ御尋シマシタ總テノ點ニ於テ、一點モ御答ガナイノデアリマス、御答ガナクシテ、委員會デヤレト仰セニナルノハ、少クトモ大綱ヲ論ジテ、細則ニ至ッテハ委員會デヤレト云フノナラバ話ガ分ッテ居リマスガ、根本ノ點ノ御質問ニ對スル御答ガナクシテ、サウシテ委員會デヤレト云フノナラバ、何ノ爲ニ本會ノ質疑ガ必要デアルカト謂ハナケレバナラス、私ノ質問ハ、委員會デヤル細カイ話デナクシテ、大綱ニ付テノ、主ナル條文ノ經緯其モノニ付テデアリマス、只今申シマシタ二十

七條ノ、軍人軍屬ニ關スル規定ノ如キハ、事陸海軍ノ工場其他ニ關係ヲ爲シ、延テハ我方帝國ノ軍人ニ關係スル所ノ重大ナル法規デアルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ法規ニ關スル質問ニ對シテ、御答ニナラナイト云フコトハ、殆ド内務大臣ハ、此法案ニ對シテ無知識デアルト云フコトヲ私ハ謂ハナケレバナラスノデアリマス、而モ内務大臣ハ免責規定ヲ除イタト云フコトニ付テハ、必要ガナイカラ除イタト仰セニナラレマシタガ、必要ガアルカ無イカハ、少クトモ勞働條件ノ維持改善ト云フモノ、内容カラ言フタナラバ、此位重大ナモノハナイ、此賠償規定、免責規定ノ如キハ、此位私ハ重大ナモノハナイト思ヒマス、之ヲ省イテ宜イト云フコトニナッタナラバ、勞働法規ノ面ニ第十二條ノ解釋ハ、金錢ヲ勞働組合ガ支出シ、或ハ勞働組合員カラノ徵收ヲ禁ズルト云フコトハ、政治運動ヲ禁止スル形ニナ

リハシナイカト、私ガ斯ウ質問ヲナシタニ對シテ、内務大臣ハ何モ御答ニナラナイ、即チ此十二條ガ、勞働組合員ニ對シテ政治運動ヲ禁止スルト云フ形ニナッタナラバ、重大ノ關係ガアルノデアルガ、果シテ此十二條ハ政治運動ヲ禁止スルト云フ意味デアるか、金錢ノ支出ハシテハイケナイノダト云フノデアるか、此點ヲ明確ニ御答願ヒタイト思フノデアリマス

ソレカラ其次ニ於キマシテ、勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスル外ニ、福利増進ヲモ目的トスルト云フ一ツノ形ニナッタナラバ、果シテ此利益ヲ増進スルト云フ内容ガ、共濟組合、購買組合、消費組合ト云フヤウナモノノ意味サレルトスルナラバ、例ヘバ通信省ヤ、鐵道省ヤ陸海軍ノ工場ハ、今マデアッタ共濟組合、購買組合ハ、本法ニ依ル勞働組合ガ出來タラ、其管理ヲ移轉スルノデアルカドウカ、若モ移轉セズシテ、福利増進ノ目的カラ、別ニ共濟組合等ヲ作レルト云フ意味アルカドウカ、私ハ之ヲ御尋ネシタノデアル、ソレデアルカラ、福利ノ増進ト云フコトヲ其目的トシテ、第一條ニ御定メニナッタト云フ程、ソレ程重大デアルナラバ、共濟組合トカ購買組合トカ、總テ斯ウ云フモノハ、具體的ニ現ハレナイデ、漠然トシテ福利増進ヲ目的トスルモノデアルト云フノナラバ、全ク意味ヲ爲サナイ、空文ニナルノデアルカラ、此點ヲ御尋ネシタ

ノデアルガ、此點ニ對シテ如何ナル範圍ノ福利増進、共同利益ノ増進ヲスルト云フノデアるか、明確ナル御答辯ヲ願ヒタイト、斯様ニ考ヘルノデアリマス

人軍屬ニ關スル問題ト、只今申上ゲマシタ三點ヲ、明確ニ御再辯願ヒタイト思フノデアリマス(拍手)

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕

○國務大臣(安達謙藏君) 只今御尋ノ第十三條ヲ削リマシタノハ、前ニ御答致シテ置キマシタ通り、現在ノ實際ヲ見マシテ何等實行サレテ居リマセヌカラ、私ハ必要ガ無イト申上ゲタ次第デアリマス、ソレカラ軍人ノコトハ、第二十七條ニ陸海軍軍人軍屬ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働組合ノ組合員ト爲ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得、是ハ無論現役ノコトデアリマスガ、斯ウ明白ニ規定シテデアリマス、ソレカラ選舉運動費ヲ出スコトヲ嚴ニ禁止シタノデアリマシテ、サウシテ個々ノ行爲ト云フコトハ自由デアリマス、唯此法文ハ、選舉運動費ヲ出シ、又ハ徵收スルコトガ出來ナイト云フコトヲ此處ニ規定シタノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤淺之輔君) 猪野毛君

○猪野毛利榮君 私はは頗ル重要法案デアリマスガ故ニ、内務大臣ニ主トシテ伺ハナケレバナラスケレドモ、總理大臣代理ニ是非聽カナケレバナラス點ガアリマスカラ、總理大臣代理ノ幣原君ヲ一ツ御呼び下サイマセヌカ、私ハ内務大臣ニ……

○議長(藤澤淺之輔君) 先ツ御登壇ナサイ

○猪野毛利榮君 ……首相代理ニ……

○議長(藤澤淺之輔君) 承知致シマシタ、御登壇ナサイ

〔猪野毛利榮君登壇〕

○猪野毛利榮君 實ハ總理大臣ノ來ルマデ御待チ致スベキ管デアリマスガ、議事ノ進行ヲ慮リマシテ、安達内務大臣カラ承リマス、併ナガラ何トシテモ首相代理ノ答辯ヲ聽カナクテハ、私ノ此本會議ニ於ケル質問ヲ打切ルコトハ出來マセヌカラ、ソレダケハ御承知ヲ願ヒタイ、ソコデハ安達内務大臣モ、幣原首相代理モ、二人シテ聽カナ

ケレバナラヌコトデアリマスガ、今回ノ法案ヲ見マスルノニ、内務大臣ノ説明ニ依レバ、勞働者ノ爲ダト云フコトヲ強ク繰返シテ言ウテ居ルノデアリマス、併ナガラ此實際ノ運動經過——此法案ノ内容ヲ見マス、形式ノニ於テ、勞働者ノ爲ニナッテ居リマスケレドモ、頗ル吾々ハ内容ニ疑感ヲ持テ居ルノデアアル、即チ社會局ハ勿論ノコト、社會政策審議會、是等兩方ノ、大體與黨ノ仲間ノ者ガ相談ヲシテ、サウシテ一度ハ閣議ニ出シタモノデアアル、此時ニ於テ、閣議デハ大體審議會ト社會局ト兩方ノ、混ゼ合タ所ノ案デ宜シイ、之ニ安達君ガ個人トシテ勞資協調會、即チ添田君案ノ内容モ入レテアルノデアアル、之ヲ入レタ時ニ於テハ、閣議デ大體異議ガ無イト云フコトニナッテ居、タノデアリマス、ソレマデハ宜シウゴザイマスケレドモ、其後ニ至ッテ日本ノ三菱、金融資本閣ヲ始メトシテ、大阪東京ニ於ケル財閥ノ首腦部ガ、強ク此法案ノ議會ニ提出サレルコトヲ阻止ヲシテ、サウシテ内務大臣始メ、内閣ヲ威嚇致シタノデアアル、此結果デス、此十大政策ノ一ツデアリマスルガ故ニ、又今マデ民政黨ガ數度議會ニ之ヲ法律案トシテ出シ、若クハ政府案トシテ出シタモノデアリマスルガ故ニ、此議會ガ始マルヤ否ヤ、直ニ出スベキ性質ノモノデアラ、ナガ、會期ノ半分以上ヲ過ギタル今日マデ、出スコトガ出來ナカッタ所以ハ、自分ノ拵ヘタモノニ、三菱金融資本閣、其他ノ富豪ガ干渉壓迫ヲシテ出サセナカッタト云フ理由ニ依ッテ、アリマス、ソコデ私共ノ憂フル所ハ、今日ノ日本ノ社會思想ノ上ニ於テ、勞働法案ノ如ク、政府モ、審議會モ、協調會モ、大體宜シイトシ、閣議ニ於テマデ内定シテ居、タモノヲ、富豪ノ壓迫干渉希望ニ依ッテ、其全案ノ重要ナル點ガ骨ヲ抜カレ、肉ヲ殺ガレタト云フコトニナッテ場合ニ於テハ、全國五百万ノ勞働者階級ガ、政府ニ對スル不信任ハ勿論トシテ、三菱資

本閣ト云フヤウナ富豪階級ニ對シテノ反感ノ甚ダシイコトヲ私ハ憂フルノデアリマス、此法案ノ全體ヲ私ガ見マスルト、形式ニ於テ「ストライキ」、或ハ團結權ノ如キモノヲ認メテハ居リマスガ、内容ニハ、詰リ議論ノ多イ状態ニシテ、而シテ之ヲ提出ヲ致シテ居ルノデアアル、此強キ惡性ヲ持ッテ居ル資本閣ニ對スルノニハ、此法案ハ餘リニモ力ガ無イヤウニ考ヘルノデアリマス、私共ハ此勞働組合法案ノ出方如何ニ依ッテ、將來日本ノ社會思想ノ上ニ、非常ナル大影響ノ來ル事ヲ考ヘル、此法案ノ内容ヲ見マスト、ドウシテモ穩健ナル組合ガ、政治運動モ出來ズ、選舉母體トナルコトモ出來ヌト云フコトニナリ、又團體交渉權モナク、或ハ團結權ニモハ、キリシタ規定ガナイ時ニ於テ、之ヲ禁止サレタル上ハ、如何ナル形式ニ依ッテ外ニ現ハレルカト云ヘバ、直接行動ト云フコトニナルノガ當然デアアル、吾々ガ此勞働組合ヲ公認スルト云フコトハ、ドウシテモ一國ノ政ノ上ニ於テ、諸外國ノ惡弊ノ如ク、直接行動ヲ許サズ、ソレガ爲メ、即チ勞働階級或ハ無産階級ヘノ安全辯トシテノ意味ヲ交ヘテ、勞働組合ヲ作ラナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアアル、然ルニ今度出タ所ノ勞働組合法ニ對シテハ、資本家階級ハ措テ居、テ、勞働者團體ト云フモノハ、非常ナ不滿意ヲ持ッテ居ルコトヲ、私ハ遺憾ニ考ヘルノデアアル、外國ノ「マルキシズム」、或ハ「サンジカリズム」等ガ、其國家ヲ滅ボシ、或ハ共和政體ニシ、或ハ民主政體ニシタ所ノ歴史ヲ見ル時ニ於テ、動モスレバ健全ナル組合ヲ政府ガ壓迫ヲスル、或ハ法律ヲ以テ彈壓ヲシタト云フ所ノ歴史ニ吾等ハ遭遇シマスルガ故ニ、頗ル此點憂慮ニ堪ヘヌ次第デアリマス、況ヤ此内閣ハ、誰ガ何ト申シマシテモ此内閣ノ背面ニハ、強キ三菱資本閣ガ控ヘテ居ルコト云フコトハ、天下ノヲ認メテ居ル、是ニハ吾々ハ頗ル……(拍手、發言スル者多ク聽取シ難シ)所ノコ

トデアリマスガ、故ラ此内閣ニ於キマシテハ、其言動、其法律案、總テノ政治行動ト云フモノニ向ッテハ、慎重ノ態度ヲ執ルベキ必要ガアルト思フノデアリマス(拍手)

〔拍手發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ

○猪野毛利榮君(續) 今ヤ實ニ此内閣ノ失政ニ依ッテ、數百万ノ失業者ガ出來、サウシテ毎日或ハ一家心中、或ハ三人心中ノ如キ、即チ生存權ヲ、政治ノ善カラザルガ爲メニ、奪ハレテ居ルコト云フ状態デアリマスルガ故ニ、餘程此點ニ付テ政府ハ詳細ナル注意ヲ拂ハナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアアル、況ヤ富豪ノ産業ノ上ニ付テノ考ヘハ、金ヲ儲ケルコト云フ一點デアリマセウケレドモ、勞働者ト云フモノハ、先ゾ自己ノ生存權ト云フモノヲ眞先キニ考ヘナケレバナラヌト云フガ如キ弱者ノ立場デアリ、今ヤ今日ノ此政治ヲ見テ、何人モ、諸君ガ此議會ノ外ヘ出タ時ニ於テ、所謂富ト資本ノ分配ガ公平且ツ穩健ニ分配サレテ居ナイト云フコトハ、民政黨ノ諸君自身モ演説ノ時ニ能ク爲サレルコトデアルト私ハ思フ、斯ウ云フ次第デアリマスルガ故ニ、幣原首相代理ノ如キ、此三菱ト縁戚關係ニナッテ居ル、又安達君ノ、内務大臣トシテ此案ヲ通過スル時ニ當ッテ、若シ是等ノコトガ理由トナッテ、即チ政治上ニ於テ種々ノ問題ガ起キタ時ニハ、此内閣ハ之ニ對シテ深ク責任ノアルコトヲ私ハ信ジテ疑ハヌノデアリマス

(拍手、發言スル者多シ)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ

○猪野毛利榮君(續) ソレカラ今内務大臣ノ御答辯ニ依リマシテ、即チ無産黨ノ政治運動及ビ此政策綱領ト云フモノニ對シテ、是非共承ラナケレバナラヌコトハ、日本勞働總同盟ノ此綱領、是ハ右翼トサレテ居ル所ノ團體デアリマスガ、此綱領ヲ見マスルト斯ウ云フ點ガ入ッテ居リマス、「我等ハ斷乎タル勇氣ト有效ナル戰術ヲ以テ資本家階級ノ壓

迫ト迫害ニ對シ徹底的ニ闘争センコトヲ期ス」今一ツハ「我等ハ勞働階級ト資本家階級ガ兩立スベカラザルコトヲ確信ス、我等ハ組合ノ實力ヲ以テ勞働者階級ノ完全ナル解放ト自由平等ノ新社會ノ建設ヲ期ス」ト(拍手)斯ウ云フ詰リ綱領ニナッテ居ルノデアアル、ソレカラ又全國勞働組合同盟ノ宣言書ノ中ニ、斯ウ云フコトガ入ッテ居ル「今ヤ我が無産階級ノ選ブベキ前途ハ俄死力闘争ノ一アルノミ、斯クテ工場ニ鐵山ニ農村ニ街頭ニ全大衆ノ新ナル闘争ノ波ハ捲キ起サレ資本ノ全線的攻撃ヲ反撥セントス」云々ト書イテアル(其通り)ト呼フ者アリ)而シテ此綱領ニ如何ナルコトガアリマスカト言ヒマスレバ、第一ノ綱領ニハ「我等ハ團結ノ威力ヲ以テ勞働條件ノ向上ヲ計リ進ンデ勞働階級ノ解放ヲ期ス」(拍手)第二項ニハ「我等ハ鞏固ナル組織ト有效ナル戰術ヲ以テ資本階級ノ搾取ト壓制ニ對シ徹底的ニ闘争センコトヲ期ス」ト、ソレカラ又日本勞働組合同盟ニ於キマシテ、斯ウ云フ綱領ヲ掲ゲテ居ル、即チ「團結ノ威力ニテ公平ナル分配ノ實現ト相互扶助ノ信義ヲ確立シ以テ新社會ノ確立ヲ期ス」ト、斯ウ云フコトガ書イテアルノデアアル、ソコデ安達内務大臣ニ聽カナクチヤナラヌコトハ……

(發言スル者多シ)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○猪野毛利榮君(續) ソコデ此十六條、十七條、十八條ニ於キマシテハ、詰リ是等ノ内容ガ一國ノ治安ヲ紊リ、若クハ公益ヲ害スル時ニ於テハ、之ニ内容ノ變更取消ヲ命ジ、若モ聽カヌ時ニ於テハ、之ヲ解散ヲ命ズルト云フ如キ内容デアリマスガ故ニ、安達内務大臣ハ、今讀上ガマシタ所ノ日本勞働總同盟ノ綱領宣言、全國勞働組合同盟ノ綱領及ビ日本勞働組合同盟ノ綱領、是等ガ詰リ第十六條、七條、八條ノ内容ニ抵觸ヲスルト思フカ、御思ヒニナラヌカト云フコトヲ御尋シタイノデアリマス(拍手)私共ノ

考ヘル所ニ依リマスレバ、此「マルキシズム」ノ最モ主張スル點ハ斯ウ云フコトデア
ル、能ク安達サン御聽キ下サイ、勞働組合ト
勞働政黨ト協力シテ無産者全盛ノ國家ヲ作
ルコトヲ目的トス、是ガ即チ「マルキシズ
ム」ノ唯一ノ精神目的トスル點デア、然ル
ニ此無産黨ノ綱領宣言ノ中ニハ、之ニ該當
スル所ノ内容ガ多クアリマスルガ故ニ、之
ヲ安達内相ハ何ト御覽ニナルカト云フ點デ
アリマス

ソレカラ第二問ハ、罰則ノ不備ニ付テ御
尋ヲ致シタイト考ヘル、即チ第十五條ノ時
ニ、組合ノ内容ヲ官憲ガ資本家ニ話ス時ニ
於テ、之ヲ罰スルコト云フ所ノ規定ガナイノ
デア、之ヲ罰スルノ歴史ニ考ヘテ見マスレバ、勞
働者ト資本家ト争議對立ノ時ニ於テ、勞働
者側ガ何時モ敗北スルノハ、此内容ガ官
憲ニ漏レテ、サウシテ官憲ガ此内容ヲ資本
主ニ知ラス、ソコデ詰リ戦術ガ暴露シテ、
勞働争議ハ勞働者ノ敗北ニナルコト云フコト
ニナツテ居ル、ダカラ斯ウ云フ點ニ付テ、即
チ法律ヲ以テ此内容ヲ官憲ガ資本家ニ知ラ
セテ時ニ於テハ、罰シナクテハナラヌト私
ヘ考ヘルノデアリマスガ、内相ノ所見ハ如
何デア、ソレカラ田子君カラ先程モ御
話ガアリマシタガ、十三條ノ規定ヲ犯シタ
時ノ場合デモ、是モ一向罰シテナイノデス、
即チ只今ノハ、解雇ニ付キ若クハ其雇傭ニ
付テノ場合デスネ

ソレカラ第三ニ於キマシテハ、此組合ノ
役員ニ對シテノ罰則規定デアリマスガ、組
合ノ役員ガ業務ニ關シ收賄シ、若クハ賄賂
ヲ要求シ、約束シ、是等ノ事ヲ爲シタトキ
ニ於テ、之ヲ罰スル規定ヲ設ケラレルコト
ガ、ハ組合ノ爲ニハ不利益デア、ルカハ知
リマセヌケレドモ、國家全體ノ上カラ考ヘ
レバ、必要デア、ル考ヘマスルガ、此規定
ノ無イノハ如何デア、ルカ、ソレカラ尙ホ治
安警察法トカ、警察犯處罰令、各府縣ノ取
締規則、行政執行法、斯ウ云フヤウナ法律

ガ全國ニ網ヲ張リテ居リマシテ、勞働運動ヲ
ヤル時ニ於テ、何等カ是等ノ法律ニ引掛ル
ト云フコトニナリマスルガ故ニ、斯ウ云フ
法律ガ散漫ニアツテハ、勞働運動ヲ爲ス上ニ
於テ頗ル不便ノ感ジマスルガ故ニ、一ツノ
單行法ヲ作リテ、サウシテ選舉法ノ罰則ノ如
ク、統一シタル所ノ、勞働組合ノ爲ニ、即
チ此法律ヲ作リテ、如何デア、ルカト云
フコトヲ御尋致シタイノデアリマス

ソレカラ今一ツ序ニ御伺フシタイコト
ハ、此組合ノ會議ノ時ニ警官ガ臨監ヲシテ
言論ノ中止、集會ノ解散ヲ命ズル、之ヲヤ
ルガ故ニ勞働團體ガ非常ニ惡化ヲシテ、サ
ウシテ直接行動ニ出ル過去ノ歴史デアリマ
スルガ故ニ、斯ウ云フ場合ニ於テ、勞働組
合ノ會議ニハ、右ノ如キコトヲ臨監ノ警官
ガ出来ナイト云フ規定ニシタ方ガ、勞働組
合ノ反感ヲ招クコトナクシテ、直接行動ヲ
阻止スル所以ダト私ハ考ヘルノデアリマス
其次ニ御尋致シタイコトハ、司法及ビ行
政處分ニ付テアル、第十六條、第十七條
ハ、行政長官ノ考ヘ一ツデ以テ、之ニ變更
取消ヲ命ズルト云フ規定ニナツテ居リマス
ルガ、今日ノ如ク内務大臣ガ黨派心ニ驅ラ
レテ、自分ガ勝手ニ任免黜陟シタル地方官
ノコトデアリマスルガ故ニ、詰リ之ニ命ジ
テ高等政務ヲ此上ニ施スト云フコトハ、頗
ル危險ヲ來タス心配ガアルノデアリマスガ
故ニ、斯ノ如キ場合ニ於テ、主務官廳即チ
地方長官等ガ、勝手ニ變更取消ヲスルト云
フ權限ヲ持タサズシテ、内務大臣自身責任
ヲ以テ之ニ當ラレテハ如何、而シテ之ニ付
テハ取消變更ノ如キモノニ付テモ、極ク懇
切丁寧ノ意味ヲ含メテ最初ハ警告ヲスル、
又ハ注意ヲシテ、愈々聽カヌ時ニ於テ、内務
大臣ガ之ニ向テ變更取消ヲ命ズル方ガ、良
結果ヲ得ルヤウニ私ハ考ヘマス、又此十九
條ニ、訴願ノ出来ルコト云フ規定ガアリマス
ケレドモ、今日ノ勞働組合ノ如キモノハ、
一先ツ十八條ニ依リテ解散ヲ命ゼラレタ時

ニ於テハ、再ビ訴願ヲスルト云フコトハ、
費用ノ點其他勞働ヲ以テ生命トシテ居ル彼
等ニハ、到底出来ナイモノデア、ルガ故ニ、
特ニ此十八條ノ場合ニ於テ、組合ノ行爲ガ
萬一安寧秩序ヲ紊スモノデア、ルカト云フ
時ニ、内務大臣ニ直チニ解散ノ權限ヲ與ヘ
ズシテ、是ハ即チ司法處分ニ附シテ、裁判
所ノ判決ヲ待ツヤウニシタナラバ、穩健ナ
ル結果ヲ來サナイカト考ヘマス

ソレカラ次ニハ組合員ノ構成ノ不完全ナ
ルコトニ付テデアリマスガ、原若ハ未成年
者、或ハ性別ニ付テ御尋ニナリマシタガ、
私ハ更ニ國籍ニ付テ御伺フ致シタイと思フ
何トナレバ今日ノ如ク歐羅巴ヤ亞米利加等
ト日本ノ間ノ、交通連絡ニ都合ノ好イ時ニ
於キマシテ、今日ノ此規定ニ依リマス、
外國人デアリト雖モ、日本ノ内地ニ來テ組
合ニ加入スルコトヲ制限ヲ致シテナイノデ
アル、一口ニ言ヘバ「レーニン」トカ「トロ
キー」トカガ、日本ニ來マシテ勞働ヲシテ、
此組合ニ入レルト云フ此内容ニナツテ居ル
（笑聲）斯ウ云フ間違タル、不完全ナル内容
デハイカ、ソコデ此國籍ニ付テ、的確ナ
ル一ツノ法規ヲ作ル必要ガナイカト云フコ
トヲ御尋致スノデアリマス

ソレカラ原若ニ是ハ御答アリマセナンダ
ガ、田子君ニモ御答ガナイヤウデアリマシ
タガ……
〔發言スル者多シ〕
○議長（藤澤機之輔君） 靜肅ニ
○猪野毛利榮君（續） 勞働者以外ノ者ガ入
ルト云フコトガ、ドウシテ惡イカト云フ、
此說明ヲ一向ナサラナイヤウデアリマス
ガ、苟クモ組合ノ能率ヲ舉ゲル時ニ於テハ、
筋肉勞働ヲ爲ス者ト、頭腦ヲ働カス所ト、
二ツノ種類ノモノガナケレバナラヌと思ヒ
マス、頭腦働ク者ハ力デ頭腦ノ能力ハ少
ガ惡イ、力デ働ク者ハ即チ頭腦ノ能力ハ少
イト云フ、是ハ御互各人ニ付テモ能ク分ッテ
居ル管ナノデア、ル、思想家ハ手腕家ニ非ズ

ト云フコトヲ諸君モ言ッテ居ルデア、アリマ
セヌカ、ダカラ現ニ東京市ノ電氣局ノ從業
員組合ニ於キマシテモ、電車ノ運轉ヲヤル
ベキ者ト、ソレカラ事務ヲ執ル者トハ、組
合員ノ中ニ於テハ、キリ分レテ居ルノデア
リマス、斯ウ云フ點ニ付テ内務大臣ハ、即
チ此組合ハ分業ニ依リテ、能率ヲ舉ゲ得ルト
云フコトヲ、御考ニナルカナラヌカト云フ
點デアリマス、即チ良指導者ハ必ズシモ勞
働者ニ非ズトモ差支ナシ、ソレカラ田子君
モ原若モ尋ネマシタケレドモ、御答ニナリ
マセヌガ、交渉權ニ付テ、是ハ安達サンニ
ハ非常ニムツカシイ間ノヤウデアリマシタ
カラ、私ハ解説ヲ加ヘテ分ルヤウニシテア
ナタニ御尋スル、此團體交渉權ト舊十三條
ノ賠償ノ規定トソレカラ雇傭解雇ノ規定、
此三ツト云フモノハ、勞働法案ノ三大要素
ニナツテ居ルノデス、然ルニタツタ一ツシカ
此組合法ニ於テハ規定シテナイ、鍋足ノ三
本アル所ヲ一本シカナイ、重要ナル二點ヲ
抜カシテ居ル、如何ニ此團體交渉權ノ規定
ガ必要デア、ルカト云フコトハ、交渉スベキ
内容ヲ吾々ガ見ルニ、例ヘバ此維持改善ノ
中ニ於キマシテモ、工場ノ設備、衛生、給
料ノ支拂、是等ハ即チ此法律ニ依リテ規定ヲ
スルコトガ出来マスルケレドモ、時間ト賃
銀ハ交渉ニ依リテ定マルモノデア、ル、團體
交渉ヲスレバ、頗ル産業發展ノ上ニ平和的
ニ、且ツ迅速ニ行ク、政友會、民政黨ノ此
二大政黨ガ議事ヲ進行ヲ圖ル上ニ於テモ、
斷エズ各派交渉會ト云フモノヲ開イテ、極
ク圓滑ニ行ッテ居ルコト云フコトハ、諸君ガ體
験ヲナサレテ居ル點デア、ル、先達ノ幣原サ
ンノ失言ノ時モ、兩方ノ交渉委員ガ旨ク交
渉ヲシタカ、幣原サンガ取消シテ、是ハ
圓滿ニ解決シタノデス（拍手）若シテ、時ニ
團體交渉ヲ認メルコトガ出来ズシテ、我モ
彼モ勝手ニ意見ヲ——政友會モ言ヒ民政黨
モ言フト云フノデア、ル、今日ノ如キ此平
和ナル解決ヲ見ルコトガ出来ヌ、此例ヲ引

キマシタナラバ、如何ニ勞働組合法ニ無理
解ナル安達サント雖モ、如何ニ團體交渉權
ノ必要ナルカガ御分リニナルドラウト思フ
ノデアリマス(拍手)

ソレカラ損害賠償、即チ免責規定ニ付
テデアリマスルガ、是モ極ク分リ易イヤウ
ニ内務大臣ニ解説ヲ加ヘテ、例ヲ引イテ申
上ゲテ御答ヲ願ヒタイト考ヘルノデアアル、
此免責規定ト雇傭解雇ノ規定ト云フモノ
ハ、是ハ鳥ノ兩翼ノ如ク、此法案ニ於テハ
對立ノモノデアアル、此規定ガナカタナラ
バ、罷業權ト云フモノハ事實ノ上ニ是ハ認
メラレナイノデス、ダカラ此免責規定ガ無
カクテ時ニ於テハ、何ト云フモ罷業權ヲ認
メナイト云フ結論ニナルノデス、ソコデ私
共ハ勞働組合ノ上ニ於テ、確然トシテ罷業
權ヲ認メルナラバ、此點ニ付テ明確ニ、即
チ損害賠償ノ規定ヲ明カニスルコトガ必要
デアルト考ヘルノデス、現ニ千九百一一年デ
アリマシタカ、御存ジノ英國ノ「タフエー
ル」鐵道會社ガ、勞働組合トノ間ニ「スト
イキ」ガ起キマシタ時ニ、英國ニ於テハ勞働
組合カラ損害賠償ヲ取ルト云フコトハ、慣
習ノ上ニ於テ、從來是ハナカタノデアリマ
シタケレドモ、此會社ガ、裁判所ニ訴ヘタ
ル結果、組合ノ方ノ敗北トナツテ、サウシテ
此組合ハ二萬三千磅、我が貨幣ニシテ二十
三萬圓餘ノ損害賠償金ヲ會社ニ取ラレタ
デス、此爲ニ組合ト云フモノハ、非常ニ弱
シマツタノデス、日本ノ勞働組合ニ於キマシ
テモ、一番今日金ガアルト云フノハ海員組
合デアリマス、是ハ二十七萬圓程アルト云
フコトデアリマスルガ、勞働總同盟ノ如キ
有力ナモノデサヘ、僅カ三千圓シカナイト
云フ話デス、斯ウ云フ組合ハ貧弱ナ内容ノ
所ニ以テ行ツテ、所謂同盟罷工ヲヤツタカ
ラ下言ウテ、此損害ヲ資本家カラ取上ゲラ
ル時ニ於テハ、組合ハ十日カ二十日ニシテ、
即チ悉ク無力ナル、事實ニ於テ何等ノ働キ
ヲ爲サナクナツテ、蟬ノ脱殻ノ如キモノニス

ルコトガ出來ル、斯ウ云フ點ヲ考ヘタナラ
バ、流石ノ安達内務大臣デモ、ハッキリ此免
責規定ノ必要ナコトハ御分リニナルドラウ
ト考ヘル、御尋致シタイコトハ多々アルノ
デアルケレドモ、後ハ委員會ニ譲リマシテ、
此點ダケヲ幣原首相代理ト安達内務大臣ニ
同フ次第デアリマス

〔國務大臣安達謙藏君登壇〕
○國務大臣(安達謙藏君) 猪野毛君ニ御答
致シマスガ、此勞働組合法案ヲ制定スルニ
付テ、一種ノ財閥ヲカノ脅威トカ威嚇トカ
ヲ受ケテ作ツタト云フコトハ全然アリマセ
ヌ(拍手)此勞働組合法ヲ作ルノハ、御話ノ
通り直接行動ナドノナイヤウニシタイ爲
安全辦トシテ作ツタノデアリマシテ、吾々ハ
此勞働組合法ヲ制定シテ、前ニ御話シマシ
タヤウニ、民衆ノ思想ノ流レヲ緩和シタイ、
即チ直接行動ノヤウナモノガ起ラナイヨウ
ニシタイ、唯徒ニ民衆ノ思想ノ流レニ彈壓
ヲスレバ此處ニ激發致シマスカラ、此流レ
ヲ切り流シテ行ツテ、直接行動ノ起ラナイヤ
ウナ安全辦ヲ付スル爲ニ、此勞働組合法ヲ
作ル所以デアリマス(拍手)無産黨ノ政治運
動ト云フ御話ガアリマシタガ、是ハ全ク政
治運動デアツテ、勞働組合トハ何モ關係アリ
マセヌ、唯日本勞働總同盟其他ノ規約トカ
綱領トカヲ御朗讀ニナリマシタガ、其邊ノ
事ニ付キマシテハ、私ハ冷靜ニ考慮致シタ
ノデアリマシテ、此組合法ガ法律トナツタ曉
ニ、更ニ考慮スベキモノガアツタナラバ考
慮シヨウト思ヒマス、併シ今此處ニ其御話
ヲスルコトハ輕率ト考ヘマス

ソレカラ官憲ガ資本家ニ色々ナコトヲ漏
シタル時ニ、ソレヲ罰スル規定トカ云フヤ
ウナモノヲ設ケル必要ハナイカト云フ御意
見デアリマシタガ、サウ云フコトハ考ヘテ
居リマセヌ、若シサウ云フ必要ガアツタナ
ラバ、此法案ノ御修正ヲ願ヒタイ、ソレカ
ラ此勞働組合ノ取締ニ付テ、刑法或ハ警察
犯處罰令トカ、色々ナ法規ガアツテ頗ル複雑

ダカラ、單行法ヲ作ツテ、一ツニ纏メル考
ハナイカト云フ御話デアリマスガ、我國ノ法
制ハ御話ノ通り各種ニ分レテ居リマスガ、
此各種ニ分レテ居ル所ノ法規ニ依リマシ
テ、取締ハ十分ト考ヘマスカラ、更ニ別ノ
單行法ヲ作ルノ必要ヲ感ジテ居リマセヌ
(拍手)

ソレカラ勞働組合ニ於テ色々ナ會合ガア
ル時ニ、警官ガ臨臨シテ言論ヲ壓迫スル、
ソレガ爲ニ直接行動ヲ起スト云フヤウナコ
トデ、警官ノ臨臨ヲ廢スルト云フヤウナ考
ハナイカト云フコトデアアルガ、是ハ決シテ
斯ル場合ニ、好シク警官ノ臨臨ヲサセルノ
デハナイ、唯行動ガ往々常軌ヲ逸シマシテ、
頗ル治安上危險ニ思ハレルカラ、已ムヲ得
ズ警官ガ臨臨サシテ、其常軌ヲ逸スルヤウ
ナ行動ガアル時ダケニ取締ヲスルノデアリマ
ス(拍手)ソレカラ第十六條第十八條「安
寧秩序ヲ紊ルトキハ主務大臣ハ勞働組合ノ
解散ヲ命ズルニ云々」ノ規定ニ付キマシテハ、
ソレハ御話ノ通り鄭重ニ致シマシテ、懇切
丁寧ニ解散ノ餘儀ナキニ至ラシメナイヤウ
ニシタイト云フ注意ヲスル積リデアリマ
ス、其他ノ事ニ付キマシテハ、色々錯綜致
シテ居リマスカラ、是ハ委員會ニ於テ質問
ガアリ、御答ヲスルコトガ當然ト考ヘマス
(拍手)

〔猪野毛利榮君登壇〕
○猪野毛利榮君 内務大臣ノ答辯ヲ伺ヒマ
スルト、其資本觀、勞働觀、政治觀ニ於テ、
吾々ノ懐イテ居ルソレト較ベテ頗ル遠キモ
ノガアリマスル爲ニ、尙ホ私共ハ委員會ニ
於テ此點ヲ承ルコトニ致シマス、内務大臣
ヘノ此席ニ於ケル答辯ヲ私ハ是デ以テ求メ
ヌコトニ致シマスルガ、丁度首相代理ガオ
キデニナリマスカラ、首相代理ニ承リタイ
ト思フノデアリマス、丁度首相代理ハ私ノ
演說中御留守デアツタデアリマセウケレド
モ、最モ重大ナル點ダケヲ申上ゲテサウシ
テ幣原サンニ先程ト重複セヌ點ダケヲ茲ニ

申上ゲタイト思フノデス、ソレハ議會ガタ
日マデノ間ニ於テ、此内閣ニ對シテ吾々初
メ國民大疑惑、又幣原臨時首相代理ニ對
スル疑惑ト云フモノハ、一ツハ先達テノ幣
原サンノ失言問題ト、今一ツハ此勞働法案
ガ資本家ノ爲メ、即チ三菱金融資本閣ヲ初
メ、其他ノ富豪ノ脅迫、指金ニ依ツテ骨拔
キニサレタコトガ、一般世間ノ疑惑ヲ懷イ
テ、サウシテ此内閣ノ政治觀、此内閣ノ有
シテ居ル所ノ思想、精神ト云フモノハ、何
處ニアアルヤト云フコトヲ「エッセンス」シタ
モノガ、即チ幣原君ノ失言ノ問題ト、勞働
法案ノ骨抜キ問題ニ依テ解決ヲサレタ(拍
手)ソコデ御存ジノ通り今日ハ日本ノ資本
ノ力ト云フモノハ一點ニ集中ヲシテ、全國
數千萬ノ人間ト云フモノハ、甚シキハ生存
權ヲ奪ハレ、甚シキハ多クノ人間ガ、即チ
今日生活權マデ脅威ヲサレテ居ルト云フ狀
態デアアル、一方ニ金ガ偏在ヲシテ、一方ニ
生活ガ出來ヌ、サウシテ此處ニ現レテ來ル
所ノ法律ハ、救護法ノ問題ニ付テドナタカ
モ中サレマシタ如ク、政府ノ誠意ハ斯ノ如
キモノデアアル、今又茲ニ勞働組合法及ビ爭
議調停法ヲ見ル時ニ於テ、三菱資本閣ノ如
キ大富豪ニ對シテノ便宜行爲ト云フモノハ
現レテ居ルケレドモ、此大多數ノ庶民階級
及ビ勞働者ニ對スル所ノ好意ハ一向發見ス
ルコトハ出來ヌ、ソコデ私共ノ考デハ、所
謂此勞資ノ分配其宜シキヲ得ズ、法律ノ上
ニ於テモ遺憾ナ點ガアリマスルガ故ニ、之
ニ對シテ幣原首相代理ハ如何ニ御考ヘニ
ナツテ居テ、如何ニ之ヲ善處ナサルカト云
フコトヲ御尋致シタイノデアリマス(拍手)

〔國務大臣男爵幣原喜喜郎君登壇〕
〔緊張セヌカトト呼ビ其他發言スル者
多シ〕
○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ
○國務大臣(男爵幣原喜喜郎君) 只今ノ御
問ニ御答ヲ致シマス、此法律案ハ資本家ト
勞働者トノ兩方ノ立場ノ間ニ公平ナル調和

ヲ求メンガ爲ニ、此法律案ガ出テ居ルノデアリマス(拍手)一方ニ偏スルト云フ考ハ、政府ニ於テ毛頭持ッテ居ナイノデアリマス(拍手)是デ以テ政府ノ意ノ存スル所ハ十分御了解下サルコト、考ヘマス

〔猪野毛利榮君登壇〕

○猪野毛利榮君 只今幣原首相代理ノ答辯ニ依リマス、雙方ノ間ニ何等ノ不調和ナシ、協調ヲ保ッテ居ル、而シテ何等ノ不都合ナシト云フ所ノ結論デアリマスガ(違フ)ト呼フ者アリ)内容ニ於テハ其通りデアル、ソコデ私共ノ考ヘルノニハ……

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ

○猪野毛利榮君(續) 此法案ト云フモノガ勞働者、資本家、或ハ協調會トカ學者、政黨、是等ノモノ、意見ヲ一ツノ坩堝ニ入レテ鑄直シテ、本當ノ政黨式ニ出來上ッテト云フノナラバ私ハ何ヲカ言ハン、併ナガラ此法案全體ヲ通ジテ見マス、或ル一點ハ全然資本家萬能、或點ハ之ニ較ベテ勞働者ノ爲ニ割合ニ分量ガ宜イヤウナ點ガ見エ、カト思フト、又政黨ノ精神モ其處ニ鑄サレテ原型ヲ殘サナイヤウナ風ニナッテ居ナイノデス、若シ人ヲ人間ノ服裝ニ譬ヘテ見レバ、茶葉服ヲ著テ「ゴム」靴ヲ穿イテ「シルクハット」ヲ冠ッテ居ルト云フ法案ニナッテ居ル(拍手)斯ノ如ク原型ガ各、獨立シテ居テ、ハッキリ存在シテ居ルモノ同士ガ混合シタ所デ完全ナ法案ニナッテ居ナイノハ當然デス、總テノ意見ヲ參酌スルト云フコトハ必要デアルケレドモ、參酌シタナラバ、之ヲ即チ鑄シテシマッテ、原型ヲ存セズシテ、其處ニ獨立ノ一ツノモノガナクテハナラヌト私ハ思フ、是ガ缺ケテ居ルカラ、只今ノ首相代理ノ答辯ニハ承服出來ヌ、併ナガラ時間ガ切迫シタカラ、委員會ニ於テ此點ハ尙ホ深く答辯ヲ求メルモノデアリマス

○佐田高太郎君 質疑終局ノ動議ヲ提出致シマス、即チ兩案ニ對スル質疑ハ此程度ヲ以テ終局セラレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ガナケレバ質疑ハ終局致シマシタ。日程第五、右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第五 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

ノ選舉

○作田高太郎君 各案ヲ一括シテ議長指名二十七名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ。次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

〔秩父宮殿下御退席ニ付議長及總員起立敬禮〕
午後七時十九分散會

衆議院議事速記第十七號中正誤

頁 段 行

四二 二 一八 「贊成アリト認メマス」ノ
下二〇字削除